

久米高畠遺跡

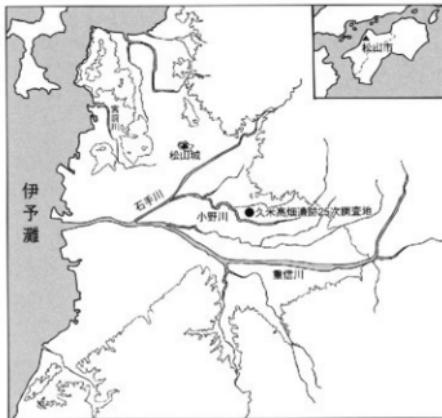
—25次調査—

2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

クメタカバタケ
久米高畠遺跡

－25次調査－



2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター



卷頭図版1 完掘状況（東より）



卷頭圖版 2 貝殼文土器

序

本書は、平成7年度に松山平野東部に所在する久米高畠遺跡群内で実施した国庫補助事業による発掘調査の報告書です。

この久米高畠遺跡群が位置する来住台地上には、国指定史跡「来住庵寺跡」や、近年の調査で明確になってきた久米官衙遺跡群があります。ここは、古代において割拠した久米豪族の拠点であり、古代役所の中権施設が存在する重要地域として、全国的に知られているところです。

今回報告します久米高畠遺跡25次調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の集落を区画する環濠とみられる大溝2条等が検出され、溝の規模から推測して来住台地上にも古代以前の弥生時代から、ひとつの大きな拠点集落があったことが確認されました。

こうした多大な成果をあげることができましたのも、ひとえに埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力を賜った関係各位のお陰と、心より感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご援助を賜れますようお願ひいたします。

また、本書が埋蔵文化財調査研究の一助となり、今後各方面においてご活用いただければ幸いに存じます。

平成15年3月31日

松山市教育委員会
教育長 中矢陽三

例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会が平成7年7月～平成7年8月に、松山市南久米町で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 遺構は、呼称を略号で記述した。溝：S D、土坑：S K、柱穴：S P、性格不明遺構：S X、掘立柱建物址：掘立である。
3. 遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、高尾和長と宮内慎一の指示のもと田崎真理、中村紫、宮内真弓が行った。
4. 写真図版は高尾と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。
5. 遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に作成した。
6. 本書に使用した方位はすべて真北である。
7. 本書に関わる遺物や記録物は、松山市埋蔵文化財センターで保管している。
8. 本書の執筆と編集は高尾和長が行った。作成に際しては宮内慎一・梅木謙一・加島次郎・水口あをいの協力を得た。
9. 製版 カラー写真、写真図版—175線
印刷 オフセット印刷
用紙 マットコート
製本 アジロ綴り

本文目次

1. 調査の経緯	1
(1) 調査に至る経緯	
(2) 調査の経過	
2. 層位	4
3. 弥生時代の遺構と遺物	11
(1) 溝	
1) 調査行程	
2) 概略	
3) 出土遺物	
(2) 土坑	
1) 弥生時代前期末～中期初頭	67
①長方形土坑	
②楕円形土坑	
③方形土坑	
2) 弥生時代中期後半	75
(3) 柱穴出土遺物	
(4) 第IV層出土遺物	
4. 古墳時代～古代の遺構と遺物	82
(1) 性格不明遺構	
(2) 第III層出土遺物	
5. 時期不明遺構と遺物	85
(1) 掘立柱建物址	
6.まとめ	87

挿図目次

第1図 松山平野南部の主要遺跡分布図 (縮尺1/25,000)	2
第2図 調査地周辺遺跡分布図 (縮尺1/1,000)	3
第3図 調査地測量図 (縮尺1/500)	4
第4図 調査区南壁土層測量図 (縮尺1/60)	5
第5図 調査地北壁・西壁土層測量図 (縮尺1/60)	7
第6図 遺構配図 (縮尺1/100)	9
第7図 SD1土層図 (縮尺1/60)	12
第8図 SD1測量図 (縮尺1/50)	13
第9図 SD1①層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	16
第10図 SD1①層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	17
第11図 SD1①層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/3、1/4)	18
第12図 SD1②層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	19
第13図 SD1②層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	21
第14図 SD1②層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4)	22
第15図 SD1②層出土遺物実測図 (4) (縮尺1/3)	23
第16図 SD1③層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	24
第17図 SD1③層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	25
第18図 SD1③層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4)	27
第19図 SD1③層出土遺物実測図 (4) (縮尺1/4)	28
第20図 SD1③層出土遺物実測図 (5) (縮尺1/3)	29
第21図 SD1④層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	30
第22図 SD1④層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	32
第23図 SD1④層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4)	33
第24図 SD1④層出土遺物実測図 (4) (縮尺1/4)	34
第25図 SD1④層出土遺物実測図 (5) (縮尺1/4)	35
第26図 SD1④層出土遺物実測図 (6) (縮尺1/4)	36
第27図 SD1④層出土遺物実測図 (7) (縮尺1/4)	38
第28図 SD1④層出土遺物実測図 (8) (縮尺1/4)	39
第29図 SD1④層出土遺物実測図 (9) (縮尺1/3)	40
第30図 SD1④層出土遺物実測図 (10) (縮尺1/3)	41
第31図 SD1⑤層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	42
第32図 SD1⑤層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	43
第33図 SD1⑤層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4)	45
第34図 SD1⑤層出土遺物実測図 (4) (縮尺1/4)	46
第35図 SD1⑤層出土遺物実測図 (5) (縮尺1/4)	48
第36図 SD1⑤層出土遺物実測図 (6) (縮尺1/4)	49

第37図	SD1⑤層出土遺物実測図（7）（縮尺1/4）	50
第38図	SD1⑥層出土遺物実測図（8）（縮尺1/4）	51
第39図	SD1⑦層出土遺物実測図（9）（縮尺1/4）	52
第40図	SD1⑤層出土遺物実測図（10）（縮尺1/3）	53
第41図	SD1⑦層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）	54
第42図	SD1⑦層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3、1/4）	55
第43図	SD1⑧層出土遺物実測図（縮尺1/4）	56
第44図	SD1層位不明出土遺物（縮尺1/3）	56
第45図	SD2測量図（縮尺1/50）	57
第46図	SD2土層図（1）（縮尺1/40）	58
第47図	SD2土層図（2）（縮尺1/40）	59
第48図	SD2①層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）	60
第49図	SD2①層出土遺物実測図（2）（縮尺1/1、1/3、1/4）	61
第50図	SD2②層出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	63
第51図	SD2④層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）	64
第52図	SD2④層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3、1/4）	65
第53図	SD2⑤層出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	66
第54図	SD2⑦層・層位不明出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	66
第55図	SK2測量図・出土遺物実測図（縮尺1/4、1/40）	67
第56図	SK3測量図（縮尺1/40）	68
第57図	SK11測量図（縮尺1/40）	70
第58図	SK10測量図（縮尺1/40）	70
第59図	SK14測量図（縮尺1/40）	70
第60図	SK1測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）	71
第61図	SK12測量図（縮尺1/40）	71
第62図	SK13測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4、1/40）	73
第63図	SK7測量図（縮尺1/40）	74
第64図	SK9測量図（縮尺1/40）	74
第65図	SK15測量図（縮尺1/40）	75
第66図	SK5測量図（縮尺1/40）	75
第67図	SK5出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	76
第68図	SK4測量図（縮尺1/40）	77
第69図	SK16測量図（縮尺1/40）	78
第70図	SK6測量図（縮尺1/40）	79
第71図	SK8測量図（縮尺1/40）	79
第72図	柱穴出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	80
第73図	第IV層出土遺物実測図（縮尺1/4）	81
第74図	SX1測量図（縮尺1/40）	82

第75図 SX1出土遺物実測図 (縮尺1/3、1/4)	83
第76図 第Ⅲ層出土遺物実測図(1) (縮尺1/3、1/4)	84
第77図 第Ⅲ層出土遺物実測図(2) (縮尺1/3)	85
第78図 挖立1測量図 (縮尺1/60)	86
第79図 挖立2測量図 (縮尺1/60)	86
第80図 挖立3測量図 (縮尺1/60)	87

表 目 次

表1 壺形土器の施文一覧	89
表2 壺形土器の口縁部施文一覧	90
表3 壺形土器の頸・肩・胴部施文一覧	90
表4 SD1出土上器の沈線文技法一覧	91
表5 SD2出土土器の沈線文技法一覧	91
表6 SD1出土石器一覧	92
表7 SD2出土石器一覧	92
表8 溝一覧	94
表9 挖立柱建物址一覧	94
表10 上坑一覧	94
表11 性格不明遺構一覧	94
表12 SD1①層出土遺物観察表 土製品	95
表13 SD1①層出土遺物観察表 石製品	97
表14 SD1②層出土遺物観察表 土製品	97
表15 SD1②層出土遺物観察表 石製品	100
表16 SD1③層出土遺物観察表 土製品	100
表17 SD1③層出土遺物観察表 石製品	103
表18 SD1④層出土遺物観察表 土製品	104
表19 SD1④層出土遺物観察表 石製品	110
表20 SD1⑤層出土遺物観察表 土製品	110
表21 SD1⑤層出土遺物観察表 石製品	117
表22 SD1⑦層出土遺物観察表 土製品	117
表23 SD1⑦層出土遺物観察表 石製品	119
表24 SD1⑧層出土遺物観察表 土製品	119
表25 SD1地点不明出土遺物観察表 石製品	120
表26 SD2①層出土遺物観察表 上製品	120
表27 SD2①層出土遺物観察表 石製品	122
表28 SD2①層出土遺物観察表 金属製品	122

表29 SD2①層出土遺物観察表	装身具	122
表30 SD2②層出土遺物観察表	土製品	122
表31 SD2②層出土遺物観察表	石製品	123
表32 SD2③層出土遺物観察表	土製品	123
表33 SD2③層出土遺物観察表	石製品	124
表34 SD2④層出土遺物観察表	土製品	124
表35 SD2④層出土遺物観察表	石製品	125
表36 SD2⑤層出土遺物観察表	土製品	125
表37 SD2⑤層出土遺物観察表	石製品	125
表38 SD2地点不明出土遺物観察表	石製品	126
表39 SK2出土遺物観察表	土製品	126
表40 SK1出土遺物観察表	石製品	126
表41 SK13出土遺物観察表	上製品	126
表42 SK13出土遺物観察表	石製品	126
表43 SK5出土遺物観察表	土製品	126
表44 SK5出土遺物観察表	石製品	126
表45 柱穴出土遺物観察表	土製品	127
表46 柱穴出土遺物観察表	石製品	127
表47 第IV層出土遺物観察表	土製品	127
表48 SX1出土遺物観察表	土製品	129
表49 第III層出土遺物観察表	土製品	129
表50 第III層出土遺物観察表	石製品	130

図 版 目 次

- 卷頭図版 1. 完掘状況（東より）
 2. 貝殻文土器
- 図版 1 1. 遺構検出状況（東より）
- 図版 2 1. SD1検出状況（東より）
 2. SD1遺物出土状況（1）（南東より）
- 図版 3 1. SD1遺物出土状況（2）（北より）
 2. SD1遺物出土状況（3）（北より）
- 図版 4 1. SD1ベルト土層（1）（北西より）
 2. SD1ベルト土層（2）（北より）
- 図版 5 1. SD1ベルト土層（3）（北東より）
 2. SD1完掘状況（北より）

- 図 版 6 1. SD2検出状況（東より）
2. SD2遺物出土状況（西より）
- 図 版 7 1. SD2ベルト土層（1）（南西より）
2. SD2ベルト土層（2）（南東より）
- 図 版 8 1. SD2ベルト土層（3）（北より）
2. SD2完掘状況（北西より）
- 図 版 9 1. SK完掘状況（北より）
2. 堀立2完掘状況（西より）
- 図 版 10 1. 造構完掘状況（東より）
- 図 版 11 1. SD1①層出土遺物
- 図 版 12 1. SD1②層出土遺物
- 図 版 13 1. SD1③層出土遺物
- 図 版 14 1. SD1④層出土遺物
- 図 版 15 1. SD1⑤層出土遺物
- 図 版 16 1. SD1⑥・⑦層出土遺物
- 図 版 17 1. SD2①・②・④層出土遺物
- 図 版 18 1. 第IV層・SX1・第III層・SD2出土遺物

1. 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『No.127 来住廃寺跡』内に所在する。同包蔵地がある来住寺台地には、近年の調査で古代の寺院や官衙施設の存在が明らかになっている。調査地の南方300mの地点には、国指定史跡の「来住廃寺」があり、調査により塔基壇や僧坊、白鳳期の瓦が確認されている。調査地周辺でも多数の調査が行われており、久米高畠遺跡は古代の官衙遺跡である可能性が高くなっている。このうち、『久米譯』線刻須恵器が出土した久米高畠遺跡7次調査地は注目されるところである。また、調査に隣接する久米高畠遺跡23・24次調査地からは、古代の集落址以外に、弥生時代の住居址、土坑、溝など弥生集落に関連する遺構・遺物が多数検出されている。

よって、当該地における埋蔵文化財の有無と、遺跡の範囲やその性格を確認するため、国補事業として、原因者の協力のもと、1995(平成7)年7月17日より発掘調査を開始した。

(2) 調査の経緯

重機により表土を地表下1mまで掘削し、排土はすべて搬出した。調査地は、調査以前は既存宅地であったため近現代坑が残存している箇所が一部あるが、遺構の遺存状況は良好であった。表土掘削後、遺構検出作業を行い、掘立柱建物址3棟、上坑16基、溝2条、ピット100基、性格不明遺構1基を確認した。遺構検出状況写真を撮影後、各遺構の掘り下げと測量を行った。8月31日、完掘状況写真を撮影し、調査を終了する。

(3) 調査・刊行組織 平成15年3月31日現在

調査地 松山市南久米町723

調査面積 843.28m²

調査期間 1995(平成7)年7月17日～同年8月31日

調査協力 医療法人 敬愛会 久米病院

刊行組織 松山市教育委員会 教育長 中矢 陽三

事務局 局長 武井 正浩

企画官 川口 岸雄

石丸 修

文化財課 課長 馬場 洋

主幹 八木 方人

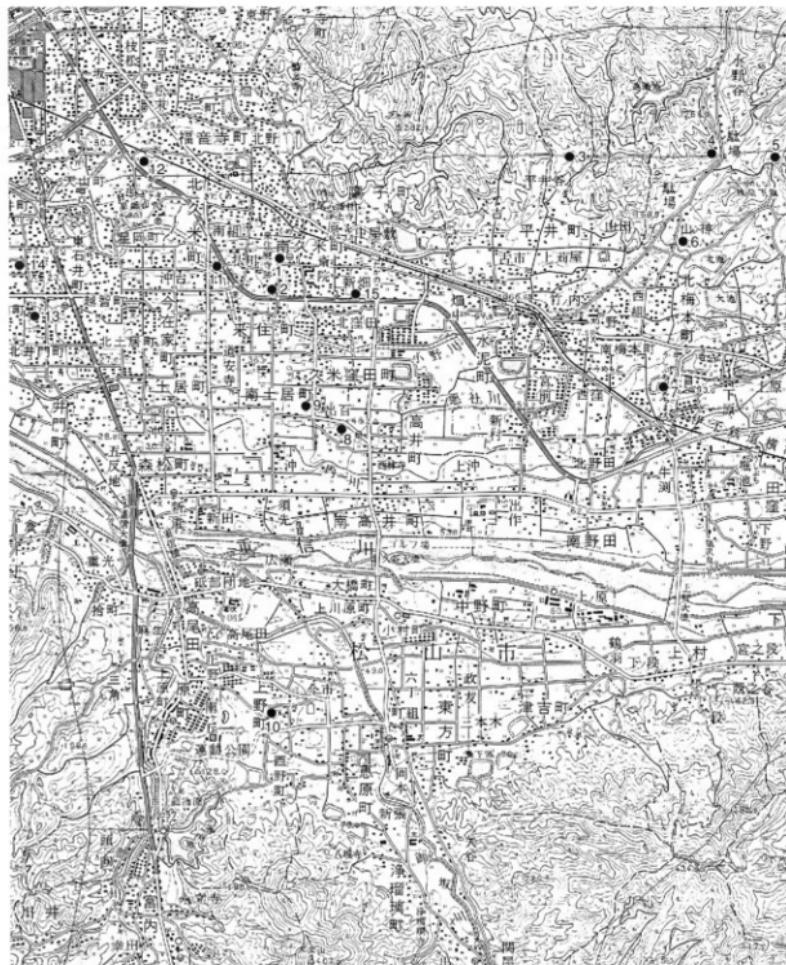
副主幹 田城 武志

(財)松山市生涯学習振興財团 埋蔵文化財センター 担当 高尾 和長

宮内 慎一

大西 朋子

調査の経緯



(S = 1:25,000)

- ①久米高畠遺跡25次調査地 ②来住廐跡 ③平井谷1号墳 ④駄場姥ヶ廬窯址
- ⑤北梅本悪社谷遺跡 ⑥葉佐池古墳 ⑦播磨塚天神山古墳 ⑧波賀部神社古墳
- ⑨開遺跡1・2次調査地 ⑩上野遺跡 ⑪南久米片廻り遺跡2次調査地 ⑫福音小学校構内遺跡
- ⑬南中学校構内遺跡 ⑭石井幼稚園遺跡 ⑮久米窪田森元遺跡

第1図 松山平野南部の主要遺跡分布図

調査の経緯



- Ⓐ 久米高畠遺跡25次調査地
- Ⓑ 久米高畠遺跡16次調査地
- Ⓒ 久米高畠遺跡30次調査地
- Ⓓ 久米高畠遺跡44次調査地
- Ⓔ 来住庵寺16次調査地
- Ⓕ 久米高畠遺跡23次調査地
- Ⓖ 久米高畠遺跡17次調査地
- Ⓗ 久米高畠遺跡33次調査地
- Ⓘ 久米高畠遺跡45次調査地
- Ⓛ 久米高畠遺跡34次調査地
- Ⓜ 久米高畠遺跡48次調査地
- Ⓝ 久米高畠遺跡15次調査地
- Ⓣ 久米高畠遺跡29次調査地
- Ⓛ 久米高畠遺跡37次調査地
- Ⓜ 久米高畠遺跡55次調査地

第2図 調査地周辺遺跡分布図

2. 層位(第4・5図)

調査地は、松山平野東部に広がる来住舌状台地の北部域、標高39.2mに立地する。

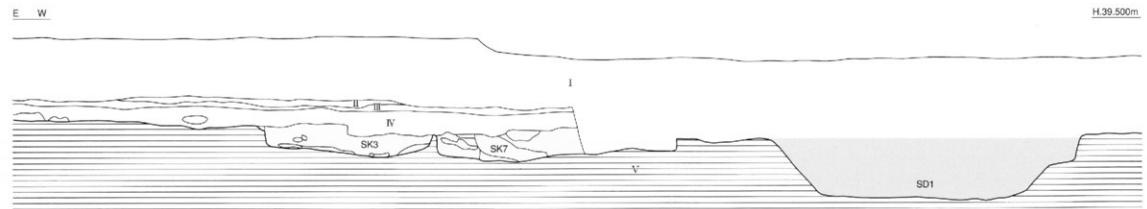
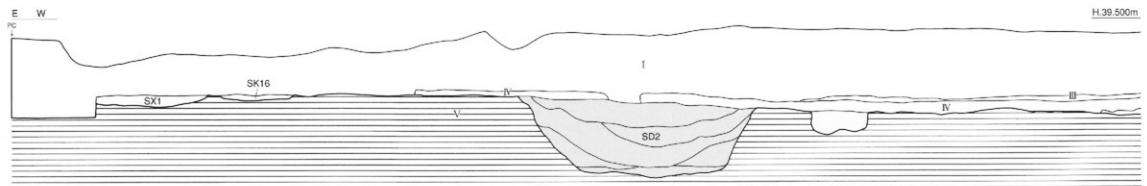
基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層茶色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層黄色土である。第Ⅰ層は層厚80~90cmを測る。第Ⅱ層は調査区西側で確認され、層厚10~20cmを測る。第Ⅲ層は層厚10~20cmを測り、土師器と須恵器を包含する。第Ⅳ層は層厚10~30cmを測り、弥生土器を包含する。第Ⅲ層と第Ⅳ層は、共に調査区中央西半部のみで検出した。第Ⅴ層は無遺物層であり、地山と呼ばれるものである。

遺構は第Ⅴ層上面での検出である。検出した遺構は掘立柱建物址3棟、土坑16基、溝2条、柱穴100基、性格不明遺構1基である。第Ⅴ層上面の標高を測量すると、調査地東側が高く、西側に向けて傾斜をなしている(比高差60cm)。

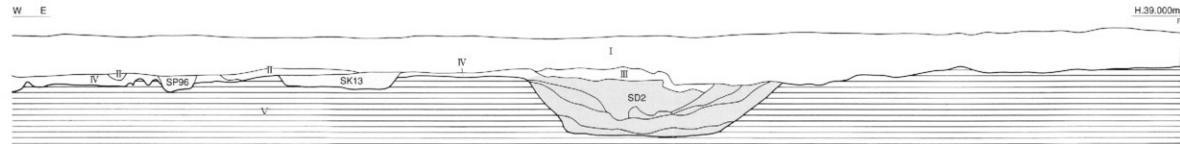
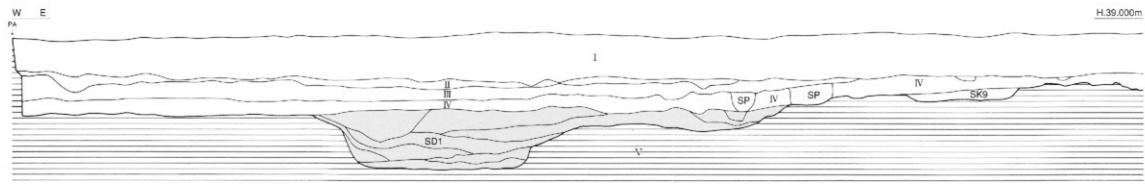


第3図 調査地測量図

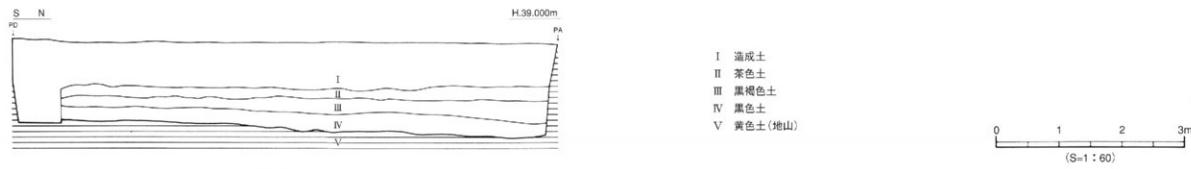
(S=1:500)



第4図 調査区南壁土層測量図



[北壁]



[西壁]

第5図 調査区北壁・西壁土層測量図



第6図 遺構配置図

3. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、溝2条と土坑16基である。また、第IV層中より当該期の遺物が出土している。

(1) 溝 (SD)

S D 1 (第7・8図、図版2)

S D 1は調査区西側、A3～D4区に位置する。第V層上面での検出であり、第IV層が覆う。ここでは、発掘調査時の工程をふまえて、溝の構造と溝内から出土した遺物の説明を行う。

1) 調査工程

まず、調査区北壁沿い(A-A'地点)と溝中央部(B-B'地点)、及び溝南側(C-C'地点)に幅50cmのトレチを設定した(第8図)。トレチの土層観察により、溝の埋土を9層(①～⑨層)に分層した。その後、①層から順に掘り下げをし、遺物の取り上げを行った。掘り下げでは、B-B'地点とC-C'地点に幅50cmのベルトを設定し、土層を観察しながら調査を進めた。

2) 概 略

S D 1の平面形状は、北東から南東方向に緩やかなカーブを描く。溝東側には、最大幅3.1m、検出長8.7mのテラス状の平坦面が広がっている。溝検出面とテラス面との比高差は20～35cmを測る。

溝の規模は、最大幅9.0m(テラス部分を含む)、最小幅3.7m、深さは検出面下0.9～1.0mを測る。溝西側壁体は2基のピット(S P 44・50)に切られている。テラス部分は2基の土坑(S K 5・8)とS P 14に切られ、S K 15を切っている。また、テラス基底面にてS K 6とピット2基(S P 15・20)を検出したが、溝との切り合いは判断できなかった。

溝の断面形態は、逆台形状を呈する。壁体の傾斜は、東西壁共にはほぼ同じであるが、溝北側が南側に比べ緩やかになる。溝北側では傾斜角40°、溝南側では55°となる。溝基底面は南側から北側に向けて傾斜し、比高差10cmを測る。なお、溝基底面と壁体は第V層である。

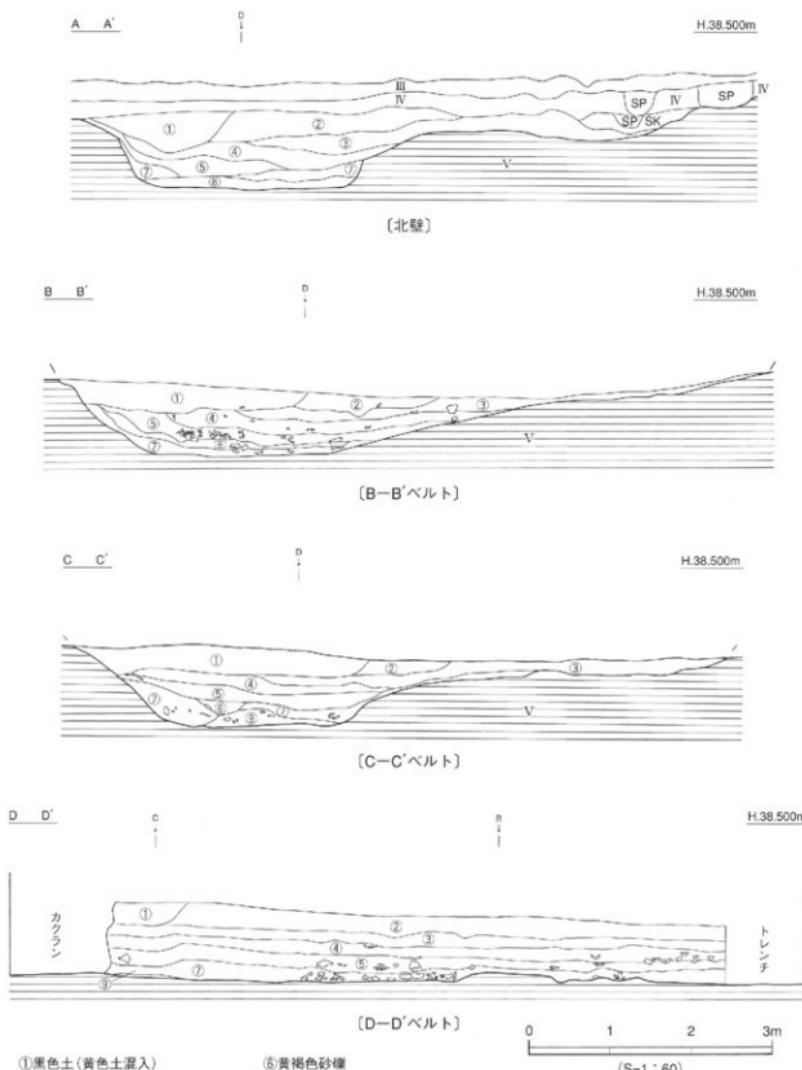
遺物は土器と石器が出土した。上器は大半が弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半の上器も数点出土している。そのほか、縄文土器が2点出土している。

溝の埋土は前述したとおり、9層に細分される。①層は黒色土に黄色土がブロック状に混入するもので、溝北側では検出幅1.8m、層厚45cm、溝南側では検出幅3.5m、層厚30cmを測る。発掘調査時は、①層をS D 1埋土として掘り下げたが、整理作業の段階で、①層からのみ時期の異なる土器(弥生中期後半)が比較的数多く出土した。また、底部のみを欠損した變形土器が、発掘調査時に溝中央部から出土していることなどから、①層は本来、S D 1とは異なる遺構の埋土と考えられる。

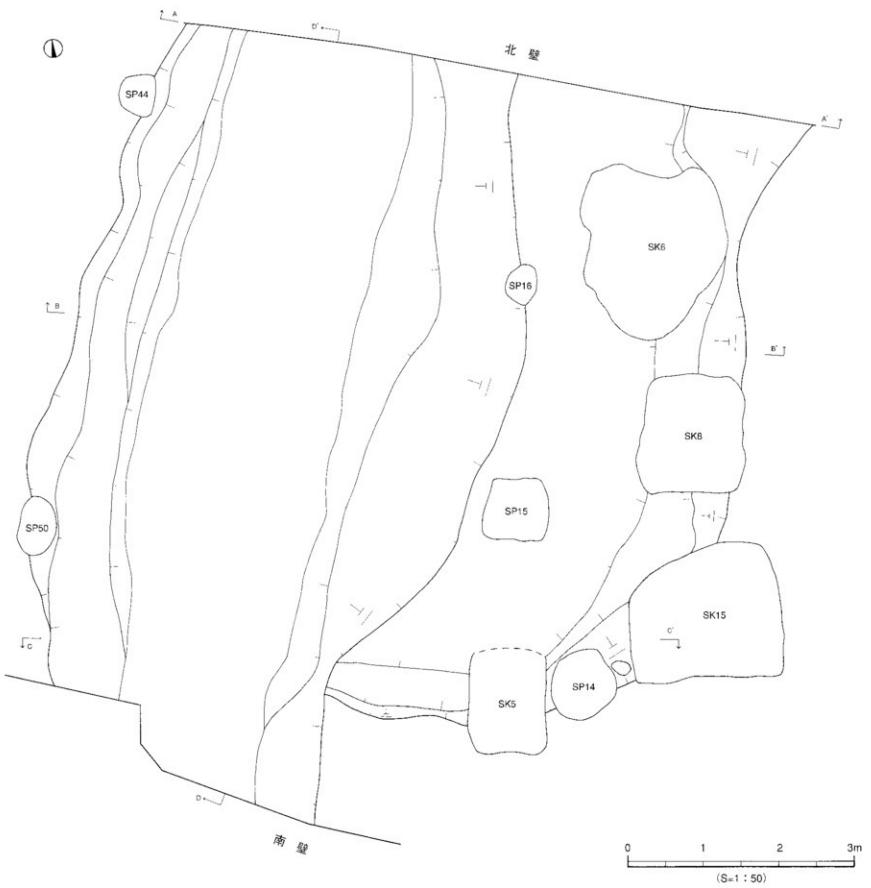
②層は黒褐色土に黄色土が混入するもので、層厚15～35cmを測る。③層は暗褐色土に黄色土が混入するもので、層厚15～30cmを測る。②・③層は溝中央部から東側にのみ堆積している。なお、テラス部分は③層で埋没している。④層は褐色土で、層厚10～20cmを測る。⑤層は黒褐色土で、粘性の強い土壤である。層厚10～20cmを測る。⑥層は暗褐色土で、溝南半部のみに堆積し、層厚5～10cmを測る。⑦層中からは遺物はほとんど出土していない。⑧層は黄褐色土で礫を含む。層厚10～30cmを測る。⑨層は黒褐色粘質土で、溝南側の基底面付近のみに堆積し、層厚10～15cmを測る。⑨層中からは遺物はほとんど出土していない。

次に、各土層からの遺物の出土状況をみるとする。埋土中位の③・④・⑤層中からは多量の遺物が出土したが、埋土下位の⑦・⑧層中からは少量の出土量であった。

造構と造物



第7図 SD1土層図



第8図 SD1測量図

ここで、各層ごとに出土した遺物の説明を行う。

3) SD1出土遺物 (第9~44図、図版11~16)

①層出土遺物 (第9~11図、1~53)

①層中からは、縄文土器1点と弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器の器種構成では、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は石鏃、石庖丁、扁平片刃石斧、砥石がある。

甕形土器(1~27) 1~10は貼付口縁。1~2は無文、3~4・9は胴部に沈線文、5~7・10は沈線文と刺突文を施す。8~10は口縁端面に刻目を施す。11~20は折り曲げ口縁。11は口径38cmを測る大型品。胴部に2条1組の工具による沈線文と刺突文を施す。16は胴部にクシ描きによる沈線文と刺突文2列を施す。12~16は口縁端面に刻目を施す。17~20は口縁部が「く」の字状を呈する。17は口縁端部をわずかにつまみ上げ、頭部に刻目凸帯文を施す。18・19は口縁端面に凹線文を施す。20の口縁端面は強いナデにより凹む(17~20は弥生中期後半)。21~22は胴部片。21は沈線文と刺突文を施す。22は沈線文と刺突文、山形文(2条1組)が組み合う。23~27は底部片。24は上げ底、23・25・26はわずかに上げ底、その他は平底となる。

壺形土器(28~39) 28は内傾する頭部に短く外反する口縁部をもつ。29は口縁部は大きく外反し、口縁端面にヘラ描き沈線文と刻目を施す。30・31は口縁部が短く外傾し、30は口縁端面下端部に刻目、頭部に沈線文を施す。31は口縁端面に斜格子日文、頭部に沈線文を施す。32は口縁部が水平近くに開き、口縁端部は上下方に拡張し、口縁端面に凹線文4条を施す(弥生中期後半)。33は直口口縁。口縁端面に山形文、口縁下に沈線文と波状文を施す。34は直立する頭部に沈線文と刻目凸帯文を施す。35は頭部に刻目凸帯文を1条施す。36は長頸壺の頭部片で、刺突文と沈線文を施す。37・38は胴部片。37は沈線文間に山形文(2条1組)を施す。38は沈線文と刺突文を施す。39は突出した厚みのある底部で、わずかに上げ底となる。

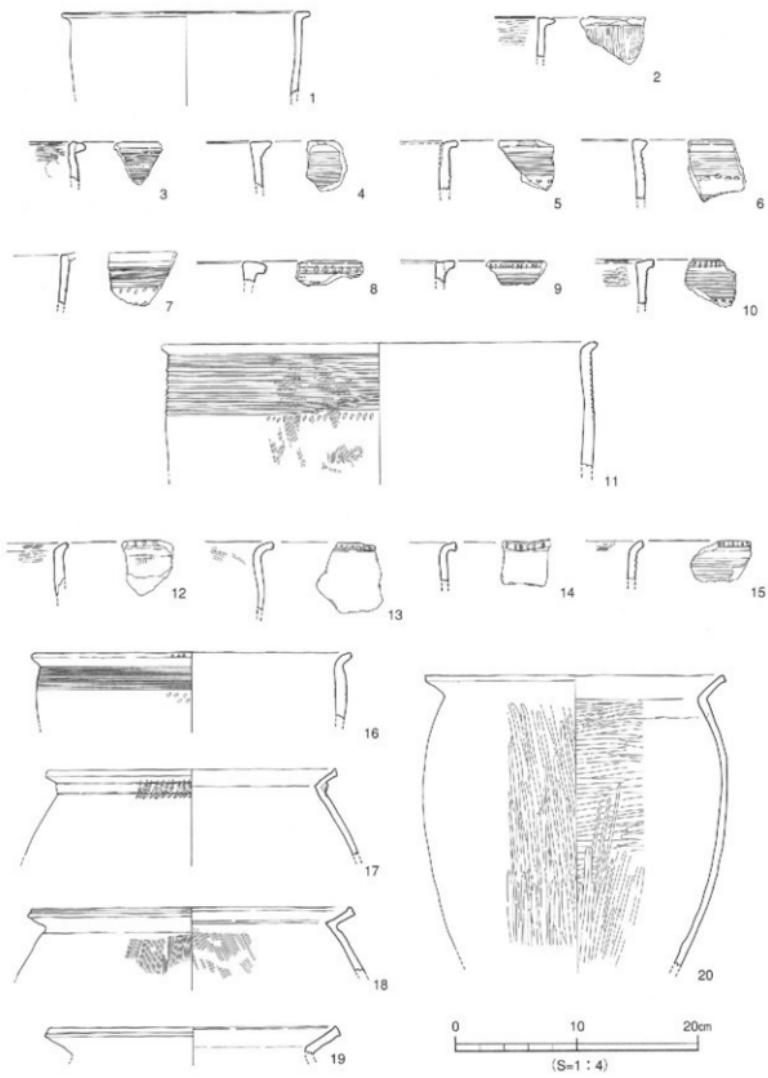
鉢形土器(40~48) 40は直口口縁。口縁端部は「コ」字状で、胴部に沈線文を施す。41~47は貼付口縁。41~44は無文。45は胴部に沈線文と山形文(2条1組)を施すもので、甕の可能性がある。46は口縁端面に刺突文、47は刻目を施す。48は縄文土器の口縁部片。

石 器(49~53) 49はサヌカイト製の円基無茎式石鏃の完形品。法量は長さ2.50cm、幅1.85cm、厚さ0.30cm、重さ1.168gを測る。50は結晶片岩製のほぼ完形の扁平片刃石斧である。法量は長さ4.20cm、幅2.50cm、厚さ0.60cm、重さ13.745gを測る。鏃は明瞭だが全体的に丸味をもつ。51・52は結晶片岩製の石庖丁である。51は約1/3の残存である。穿孔は両面から鋭利な工具で2ヶ所に施す。52は両面から穿孔を施す。片面にごく甘い鏃がある。53は砥石である。両面に使用痕が有り、片面には線状使用痕が見られる。

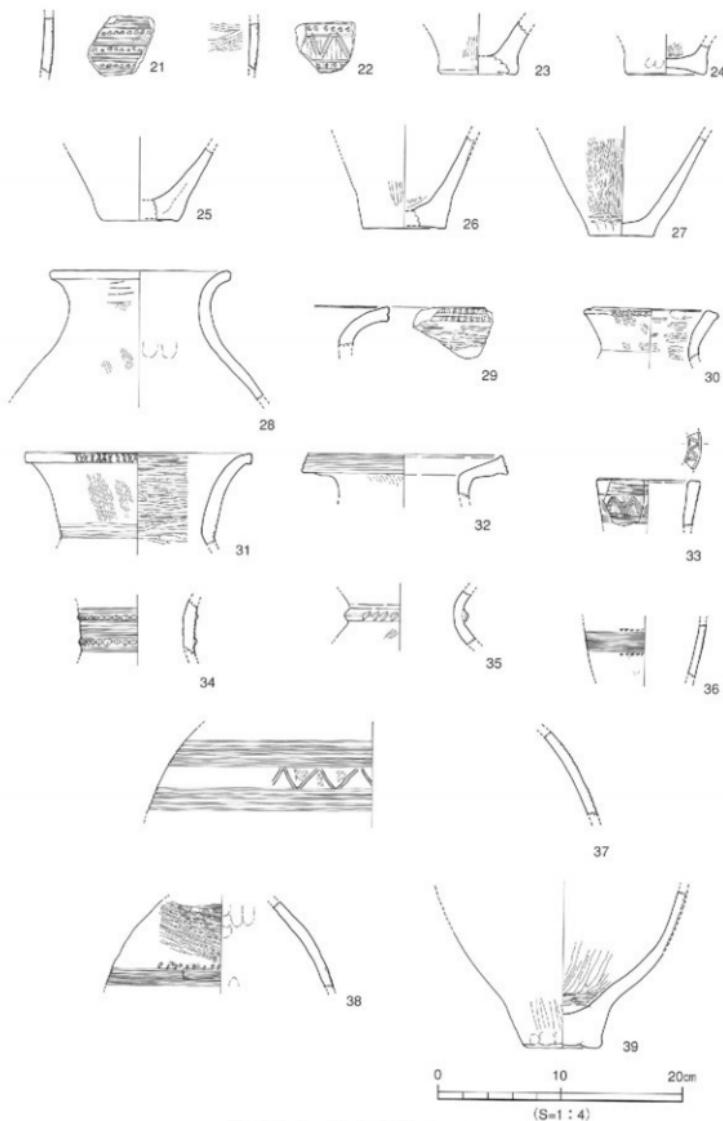
②層出土遺物 (第12~15図、54~117)

②層中からは、弥生時代前期末から中期前葉までに時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は、扁平片刃石斧、砥石、台石、スクレイバーがある。

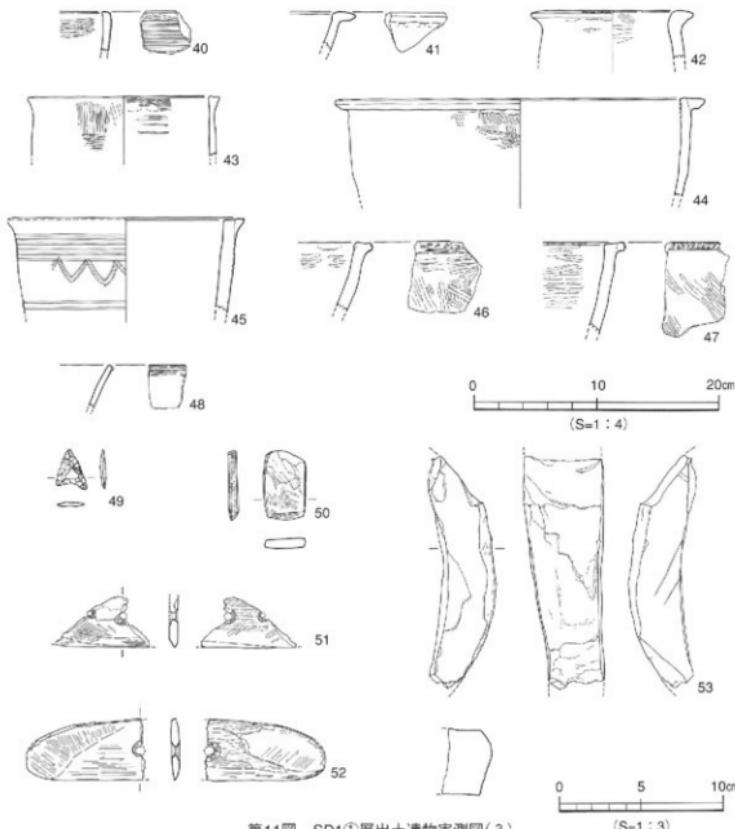
甕形土器(54~75) 54~61は貼付口縁。口縁端面には刻目を施すもの(56・57・61)と施さないもの(54・55・58~60)がある。胴部文様は、無文のもの(54~56)、沈線文を施すもの(57・58)、沈線文と



第9図 SD1①層出土遺物実測図(1)



第10図 SD1①層出土遺物実測図(2)

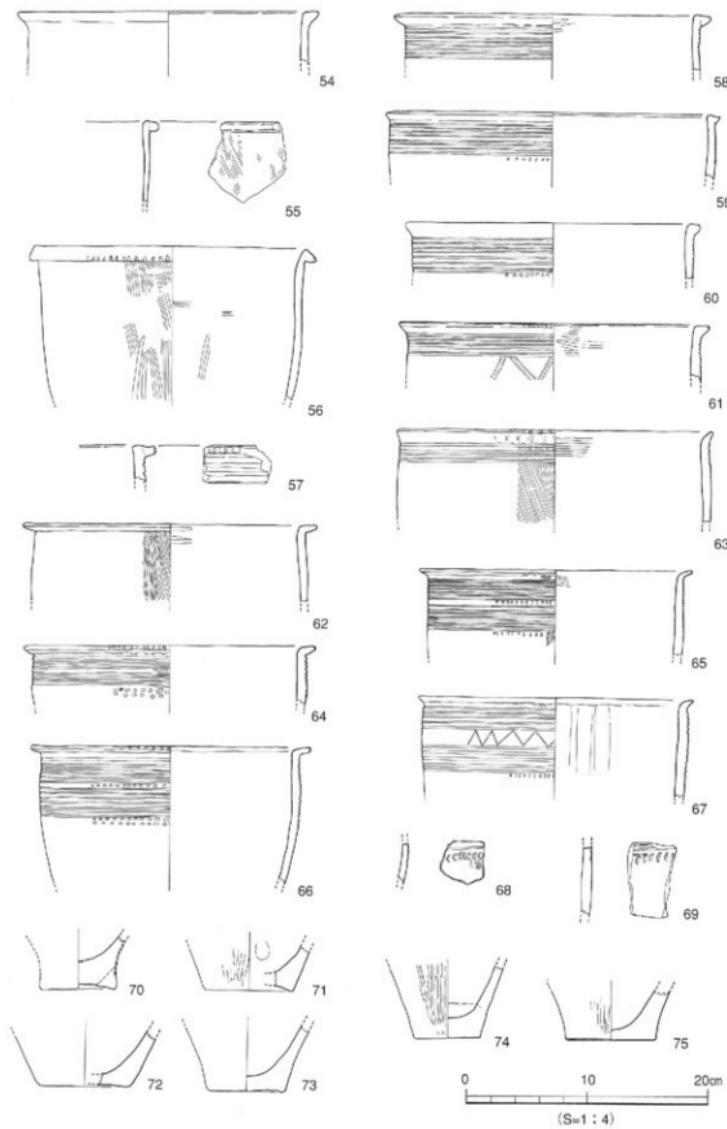


第11図 SD1①層出土遺物実測図(3)

刺突文が組み合うもの(59・60)、沈線文と山形文が組み合うもの(61)の4種類がある。58・60・61の沈線文と61の山形文は2条1組の工具により施文される。

62～67は折り曲げ口縁。折り曲げが弱いもの(63・65・67)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(62・64・66)がある。口縁端面には刻目を施すもの(63・64・66)と施さないもの(62・65・67)がある。胴部文様は無文のもの(62)、ヘラ描き沈線文を施すもの(63)、沈線文と刺突文が組み合うもの(64～66)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(67)の4種類がある。なお、沈線文は64はクシ状工具(4条1組)、66は2条1組の工具により施される。調整方法は胴部外面に刷毛目調整を施すもの(55・62～65・67)、ヘラミガキ調整を施すもの(56)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(56～63・65)がある。

68・69は胴部小片。68は沈線文と半截竹管文、69は沈線文と刺突文を施す。70～75は底部片。70～73はわずかに上げ底、74・75は平底となる。



第12図 SD1②層出土遺物実測図(1)

壺形土器(76~109) 76・77は内傾する頸部に短く外反する口縁部をもつ。76は口縁端面上下端部に刻目を施し、77は口縁端面がくぼむ。78・79は太くてやや長い口頸部をもつ。78は口縁端面に斜格子目文、79は頸部に扁平な凸帯文を貼り付ける。78の口頸部外面には刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施す。80~84は筒状の長い口頸部をもつ。80・81は口縁端面上端部、82は上下端部に刻目を施す。83は口縁端に刻目、84は口縁端面に山形文、口縁部内面に凸帯文を貼り付ける。85~87は頸部片。85はヘラ描き沈線文、86は沈線文と凸帯文(押圧)、87は刺突文と刻目凸帯文を施す。88~91は肩部片。88はヘラ描き沈線文と刺突文、89は刺突文、90は沈線文と竹簽文を施す。91はクシ状工具による波状文を施す。92~97は胸部片。92は沈線文(2条1組)、93・94は沈線文と刺突文を施す。95は沈線文と刺突文、斜格子目文、96は沈線文と刺突文、山形文が組み合うもので、斜格子目文、山形文は2条1組の工具により施される。97は沈線文と刻目凸帯文を施す。98~109は底部片。99~109は平底となる。

鉢形土器(110) 110は折り曲げ口縁。無文で外面には刷毛目調整、内面はヘラミガキ調整を施す。

転用品(111) 111は所謂「コシキ」への転用品である。壺形土器の底部を焼成後に穿孔したものである(推定孔径2.0cm)。

石 器(112~117) 112はほぼ完形の扁平片刃右斧。両側面及び基端面は入念に研磨が施されている。鑄は丸味を帯び甘い。結晶片岩製。113~115はスクレイバーである。113・114はほぼ完形品。石材はアズキ色を呈する安山岩である。115は風化が著しく、石材は泥岩と思われる。116は手持ちの砥石か。117は台石で、片面のみ機能面として使用し、側面に押打の痕跡が残る。

③層出土遺物 (第16~20図、118~193)

③層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、縄文上器1点と石器が出土した。土器には、壺形土器、壺形土器、鉢形土器、蓋形土器がある。石器は扁平片刃石斧(未製品)、台石と剥片がある。

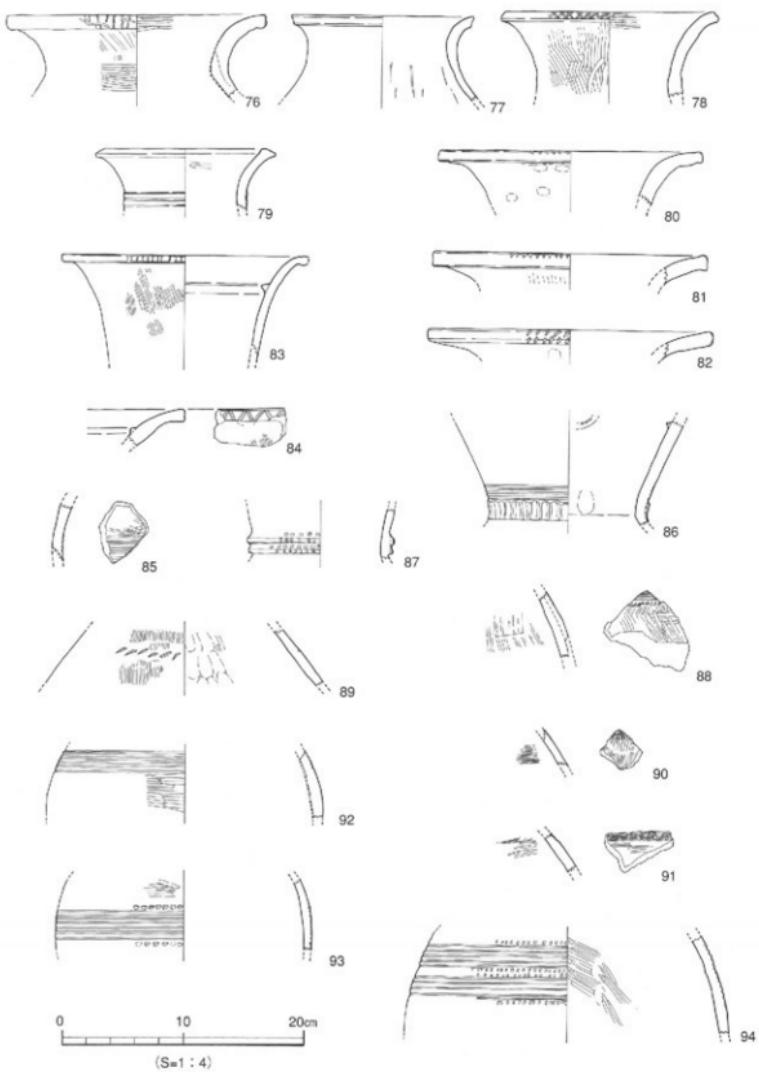
壺形土器(118~150) 118~130は貼付口縁。118は無文。119~121・126~130は口縁端面に刻目、122・123は刺突文を施す。124~128は胸部に沈線文を施す。125の沈線文はクシ状工具により施文される。129~130は胸部に沈線文と刺突文を施す。沈線文は129はヘラ、130は2条1組の工具により施されている。

131~139は折り曲げ口縁。折り曲げの弱いもの(131~137)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(138・139)がある。口縁端面には刻目を施すもの(131・132・133・136・138・139)と施さないもの(134・135・137)がある。胸部文様は無文のもの(131・132)、沈線文を施すもの(133)、沈線文と刺突文が組み合うもの(134~138)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(139)の4種類がある。沈線文は133はヘラ、134・135・138は2条1組、136はクシ状工具により施文されている。

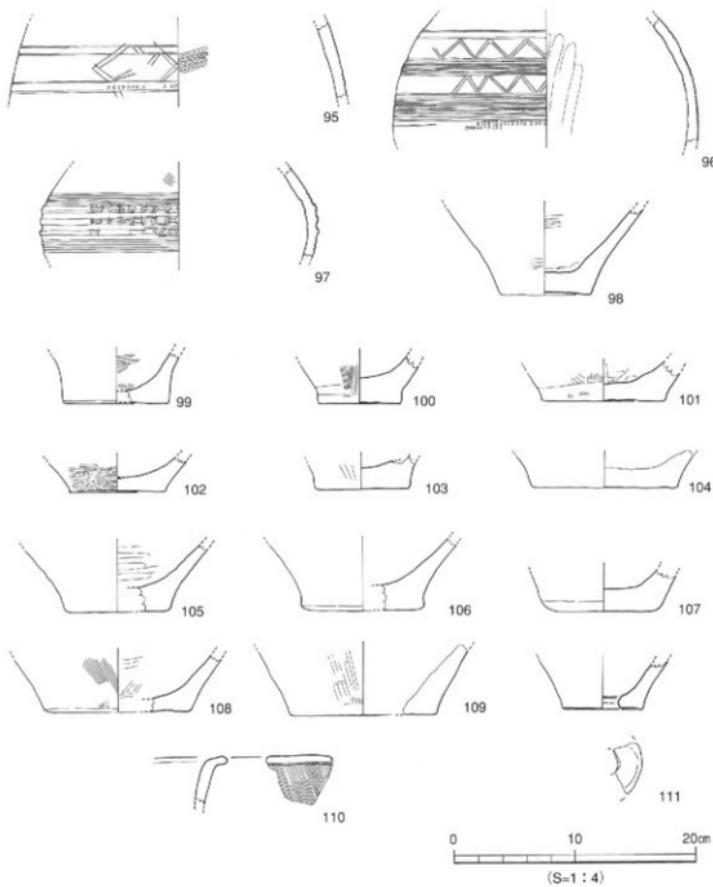
調整方法は、外面に刷毛目調整を施すもの(119・124・133・137・139)、ヘラミガキ調整を施すもの(123・126・130・136)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(120・121・127・128・131)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(119~121・123・125~128・130・131・136~138)、ナデ調整を施すもの(132・133)がある。

140~142は胸部片。140・141は沈線文と刺突文、142は沈線文と山形文を施す。143は「く」の字状口縁で口縁端面に不明瞭な凹線が1条巡る(弥生中期後半)。

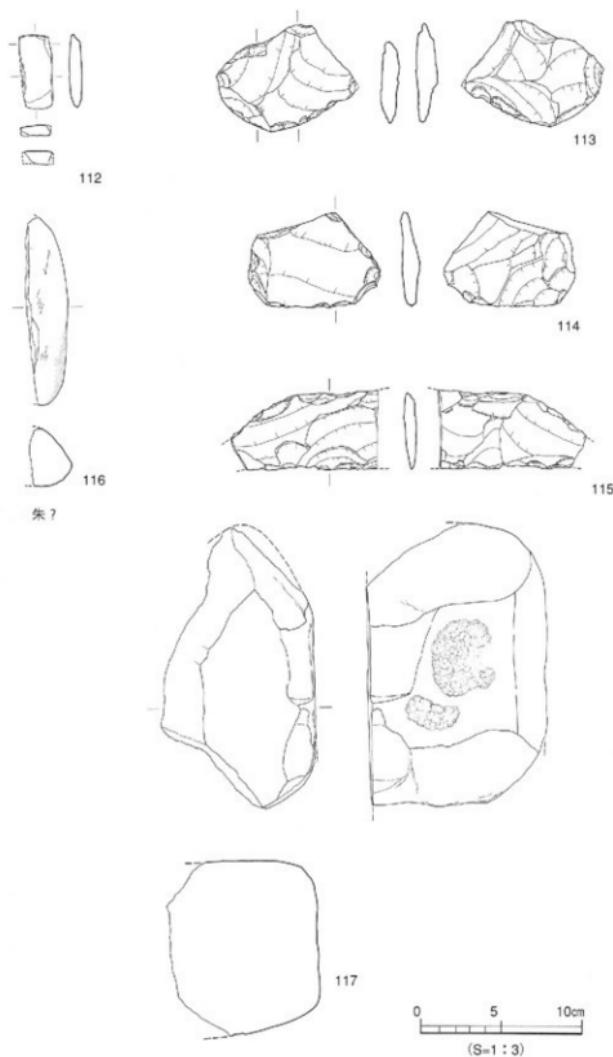
144~150は底部片。144~148はわずかに上げ底、149・150は平底となる。



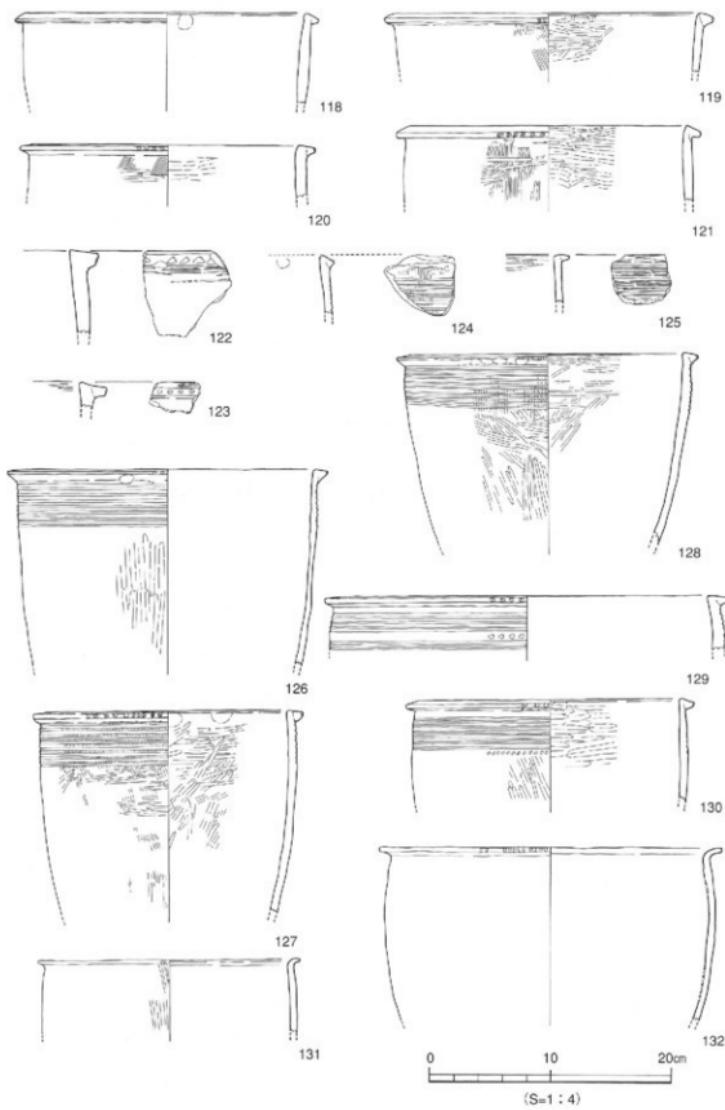
第13図 SD1②層出土遺物実測図(2)



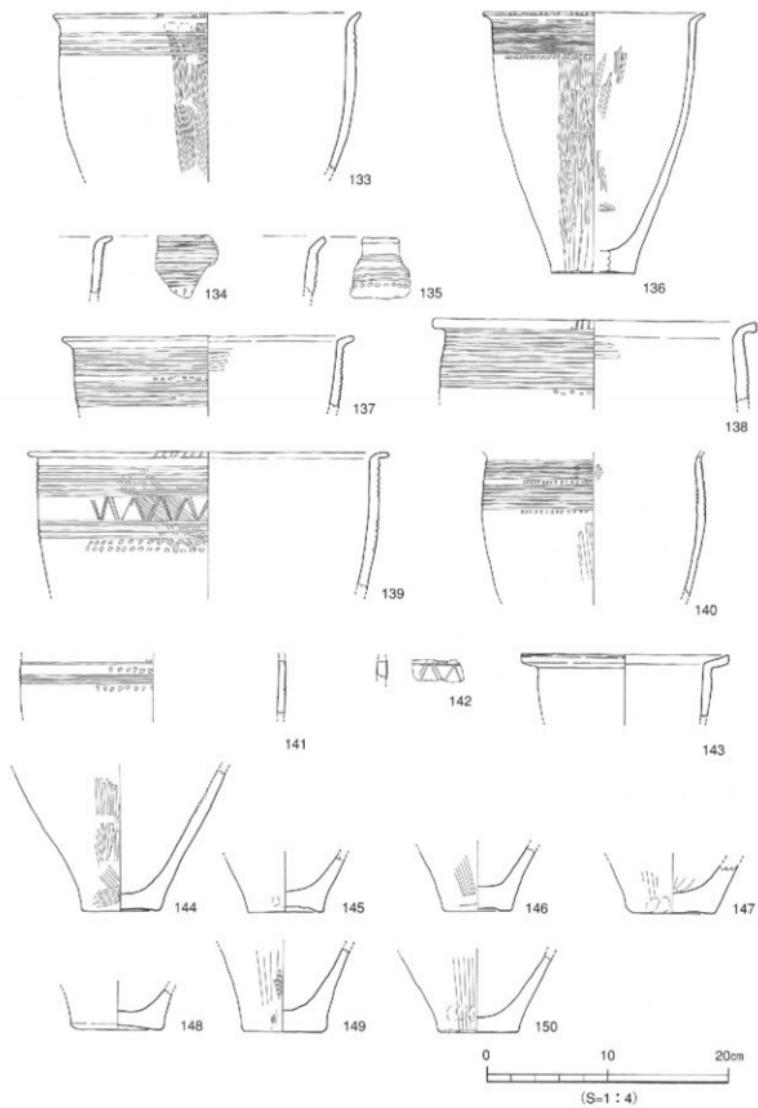
第14図 SD1②層出土遺物実測図(3)



第15図 SD1②層出土遺物実測図(4)



第16図 SD1③層出土遺物実測図(1)



第17図 SD1③層出土遺物実測図(2)

壺形土器(151~176) 151は大型品。口縁部は短く外反し、口縁部内面に凸帯文をもつ。口縁端面にはヘラ描き沈線文と刻目を施す。152は内傾する頭部に、短く外反する口縁部をもつ。153~157は直立しないし、外傾する口頭部をもつ。154は頭部に刻目凸帯文、155は沈線文を施す。157は凸帯文5条をもつ。154は内外面共にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。158~161は長い口頭部をもつもので、158・159は口縁端面上端部、160は下端部、161は口縁端面に刻目を施す。160・161は口縁部内面に刻目凸帯文をもつ。

162・163は口頭部片。口縁部内面に刻目凸帯文をもち、162は頭部に沈線文(2条1組)と刺突文を施す。164~166は頸部片。164は沈線文(2条1組)と凸帯文を施し、凸帯上に押圧を加える。162・163の外面はヘラミガキ調整、164は刷毛目調整を施す。165は沈線文と竹管文、166は刻目凸帯文をもつ。167は頸胸部片。口縁部内面と頸部に凸帯文をもつ。

168~176は底部片。168~174はわずかに上げ底、175・176は平底となる。169・171~174は外面にヘラミガキ調整を施す。

鉢形土器(177~179) 177・178は折り曲げ口縁、179は直口口縁。無文。177の外面は刷毛目調整、内面はヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

転用品(180・181) 180・181は所謂「コシキ」への転用品である。壺形土器の底部を、焼成後に穿孔したものである。

蓋形土器(182・183) 天井部は、182は中央部がくぼみ、183はほぼ平坦である。182は外面、183は内外面共に刷毛目調整を施す。

縄文土器(184) 184は縄文時代晩期の浅鉢の口縁部片である。

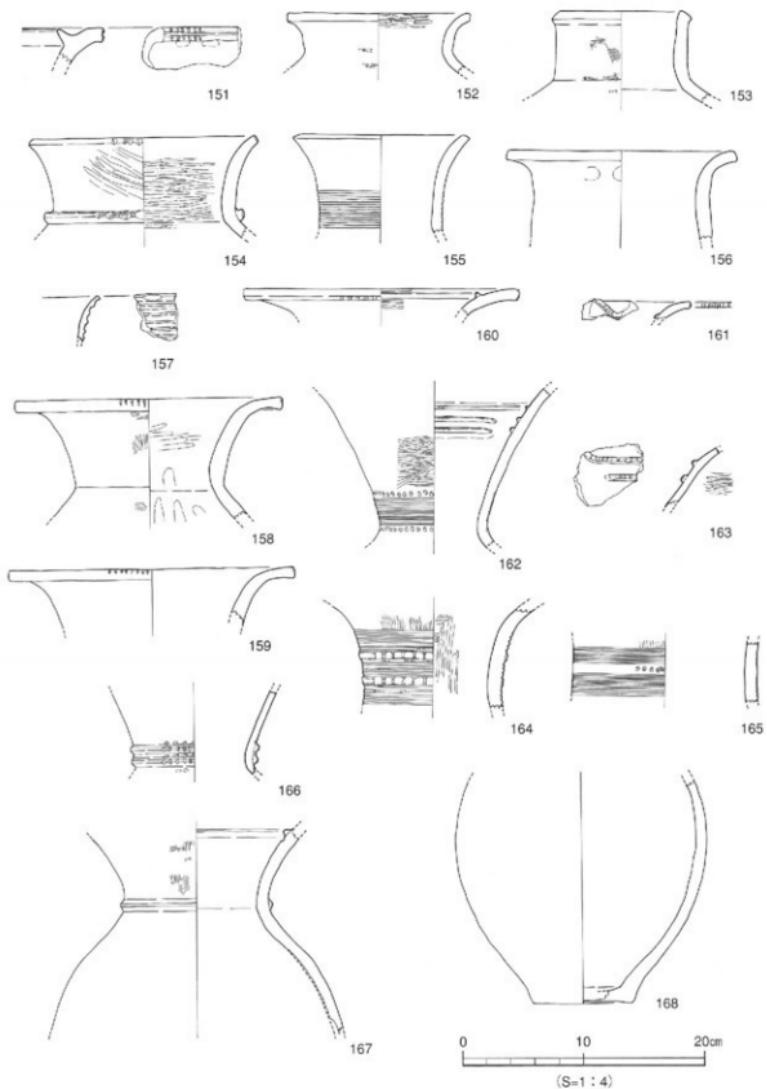
石 器(185~193) 185は扁平片刃石斧の未製品である。両側縁には打裂調整が行われているが、刃部は施されていない。結晶片岩製。186~188はサヌカイトの剥片。189~192は台石で、部分的に使用痕が認められる。193は安山岩製の剥片石器の母岩である。

④層出土遺物 (第21~30図、194~345)

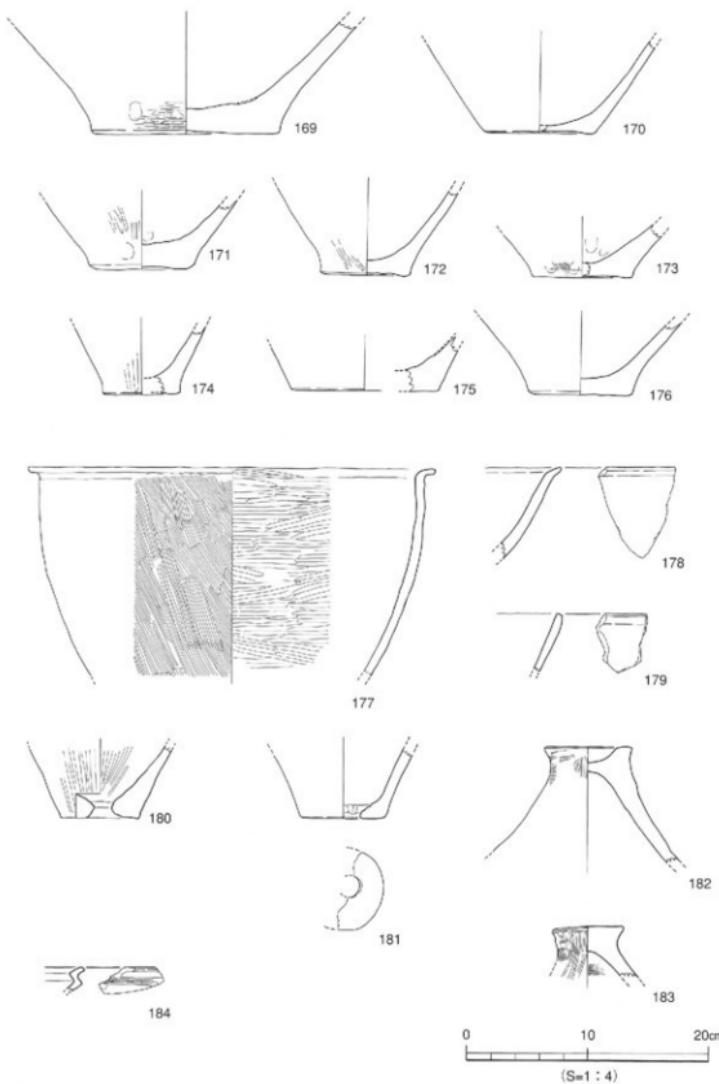
④層中からは、土器と石器が出土した。土器は大半が、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半のものが数点含まれている。前者の土器構成は、壺形土器、壺形土器、鉢形土器のほか、円盤状の土製品1点がある。このうち、外来的要素の強い土器が1点(273)出土している。また、壺形土器の中に、貝殻により施されたものが2点(294・295)含まれている。

石器は、石庖丁、伐採斧、砥石、敲石、石核、剥片がある。なお、石庖丁の中には、未製品が含まれている。

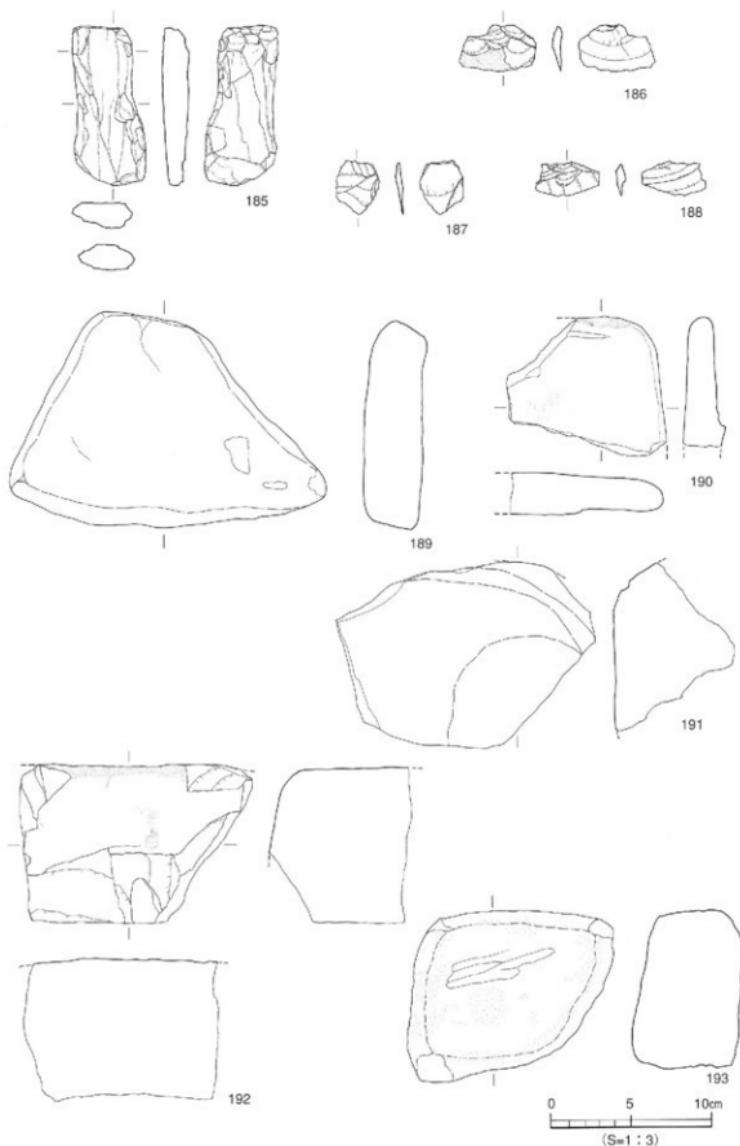
壺形土器(194~248) 194~212は貼付口縁。口縁端面に刻目を施すもの(201・205・206・208~210・212)と施さないもの(194~200・202・204・207・211)とがある。なお、203は刺突文を施すものである。胴部文様は、無文のもの(194・195)、沈線文を施すもの(196~202)、沈線文と刺突文が組み合うもの(203~211)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(212)の4種類がある。沈線文はクシ書きによるもの(199・211)、2条1組の工具によるもの(202・203・205・208・210・212)、工具の不明なもの(196~198・200・201・204・206・207・209)がある。なお、212の山形文は2条1組の工具により施されている。調整方法は、外面はヘラミガキ調整を施すもの(202・206)、刷毛目調整を施すもの(197・200・203・204・207・208・211)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(205)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(197・198・201・203~207・209・212)がある。



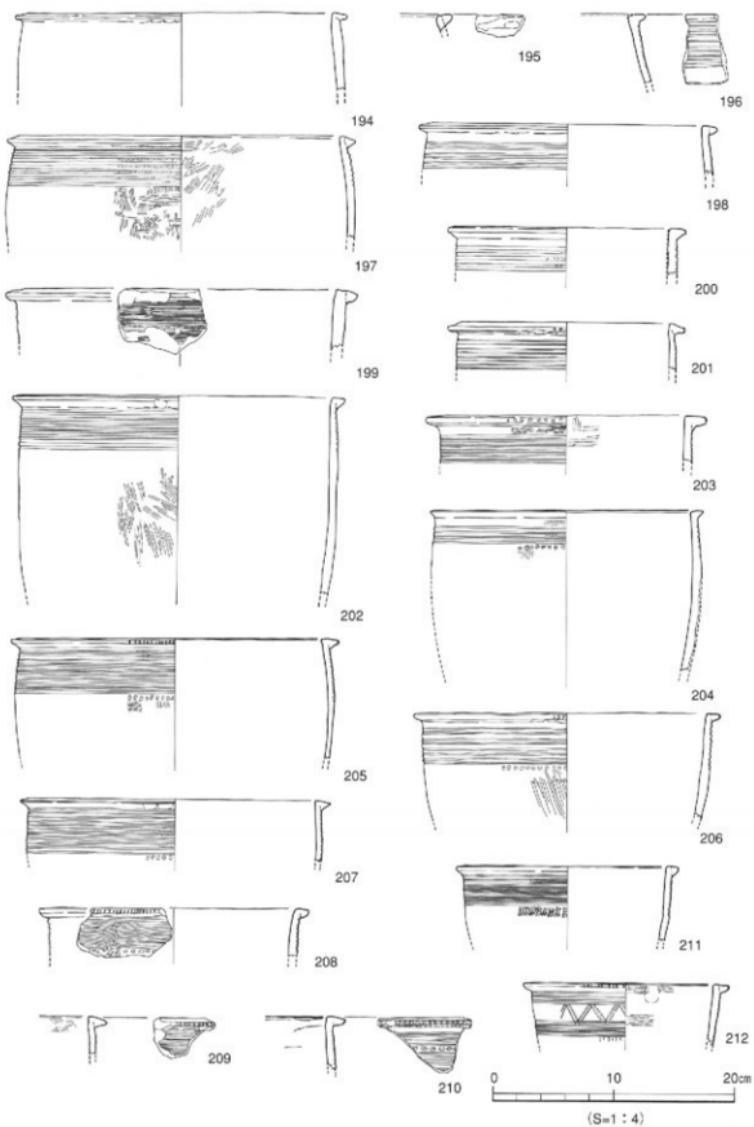
第18図 SD1③層出土遺物実測図(3)



第19図 SD1③層出土遺物実測図(4)



第20図 SD1③層出土遺物実測図(5)



第21図 SD1④層出土遺物実測図(1)

213～228は折り曲げ口縁。折り曲げの弱いもの(213～221)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(222～228)がある。口縁端面には刻目を施すもの(213・217・218・221・223～226)と、刻目を施さないもの(214～216・219・220・222・227・228)がある。胴部文様は無文のもの(213)、沈線文を施すもの(214～218・222～224)、沈線文と刺突文が組み合うもの(219～221・225～228)の3種類がある。沈線文はヘラ描きによるもの(214～217)、2条1組の工具によるもの(220・222～224・228)、3条1組の工具によるもの(225)、クシ描きによるもの(219・221)、工具の不明なもの(218・226・228)がある。調整方法は、外面は刷毛目調整を施すもの(214～216・222～224・226・228)、ヘラミガキ調整を施すもの(219・227)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(213・217・221)がある。内面は、214は刷毛目調整、220はナデ調整を施し、その他はヘラミガキ調整を施す。

229～234は胴部片。229～232は沈線文と刺突文を施す。232の沈線文はクシ状工具により施されている。231は内外面共に、ヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。234は沈線文と刺突文、山形文を施す。

235～248は底部片。235～244はわずかに上げ底、245～248は平底となる。

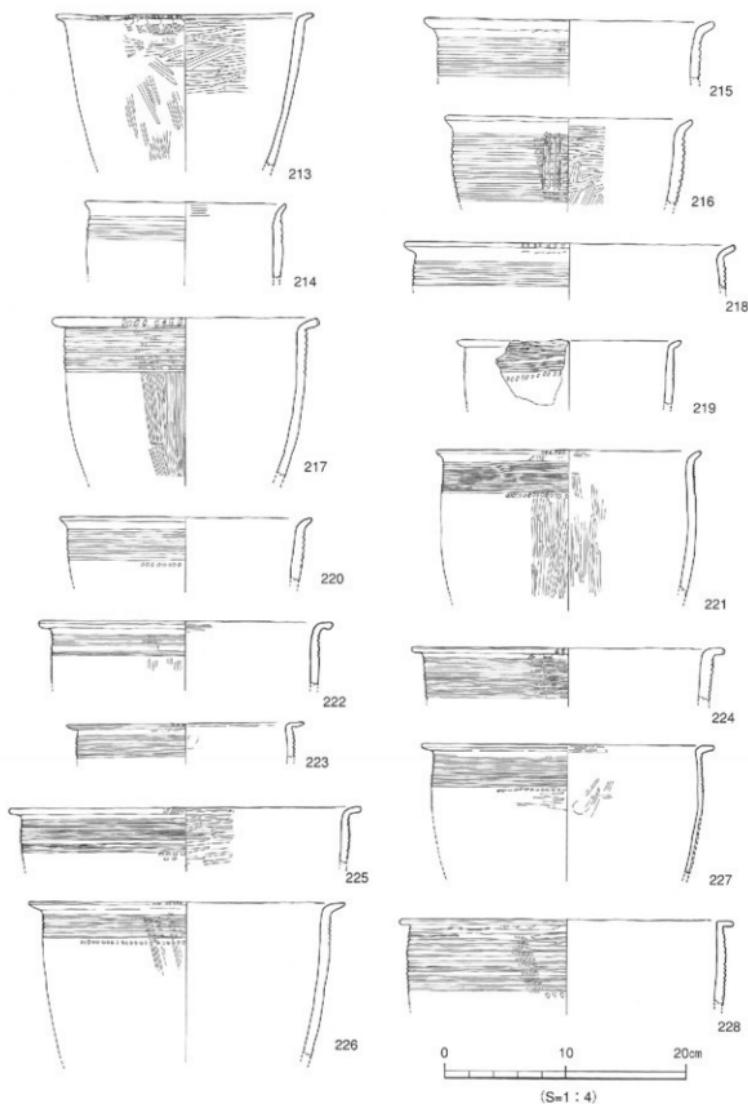
壺形土器(249～312) 249～259は、内傾する頸部に短く外反する口縁部をもつ。250は口縁端面下端部、254は上下端部、255は上端部に刻目を施す。256は口縁端面全体に刻目、258は斜格子目文を施す。260～264は直立ないし外傾する口頭部をもつ。261・262・264は口縁端面に刻目を施す。262～264は頸部に凸帯文をもち、262は凸帯上に刻目、264は連鎖状刻目文2列を施す。口頭部外面には刷毛目調整を施すもの(249・250・252・254・261・263・264)、ヘラミガキ調整を施すもの(256・261)がある。内面にはヘラミガキ調整を施すもの(249・250・256・261・263)がある。265～275は筒状の長い口頭部をもつ。口縁端面には沈線文を施すもの(266)、刻目を施すもの(269・270)、沈線文と刻目を施すもの(268・273)、斜格子目文を施すもの(267)、無文のもの(265・271・272・274・275)がある。口縁部内面には凸帯文をもつもの(269～273・275)と、もたないもの(265～268・274)とがある。凸帯は272・273は全周せず、一部が注口状となる。273は頸部に沈線文と凸帯文及び棒状浮文を施し、凸帯上に押圧を加える。外来系。274は頸部に沈線文と刻目凸帯文を施す。調整方法は、口頭部外面に刷毛目調整を施すもの(267・268・273)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(272)がある。

276～282は口頭部片。279を除き、口縁部内面に凸帯文をもつ。頸部には、278・279はヘラ描き沈線文、280はヘラ描き沈線文と刺突文、281・282は凸帯文を施す。279・281・282の外面には刷毛目調整を施す。

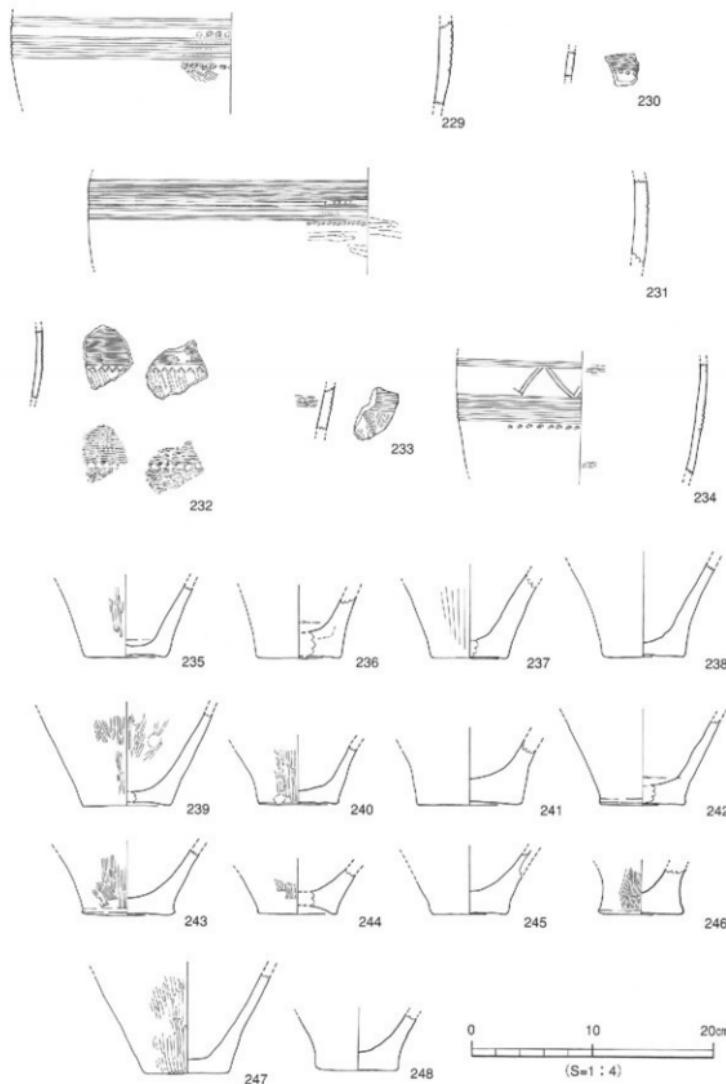
283～286は頸部片。283は沈線文と凸帯文、284～286は凸帯文をもつ。なお、284は凸帯上に押圧、285は連鎖状刻目文2列、286は連鎖状刻目文1列を施す。287～291は頸～肩部片。287は頸部にヘラ描き沈線文と刺突文、288は凸帯文、289・290は沈線文と凸帯文を施す。288・289は凸帯上に連鎖状刻目文2列、290は1列を施す。291は2条1組の工具による沈線文と刺突文を施す。287・291は内外面共にヘラミガキ調整を施す。

292～304は胴部片。292・293はヘラ描き沈線文と刺突文を施す。294・295は貝殻腹縁による弧文を施す。296は乳頭状の浮文を貼り付ける。297はヘラ描き沈線文、298～301は沈線文と山形文を施す。山形文は2条1組の工具により施文される。302は断面台形状の扁平な凸帯文を貼り付ける。303・304は沈線文と刻目凸帯文を施す。304の外面と293の内面にはヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

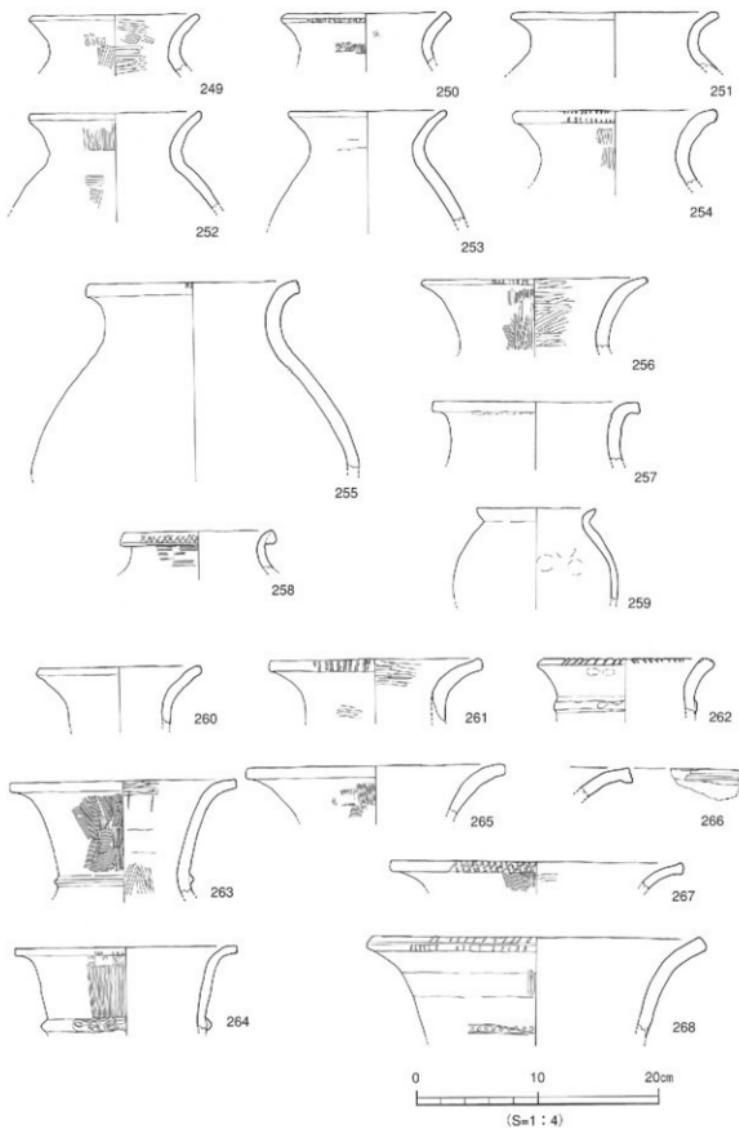
305～312は底部片。305・309・310はわずかに上げ底、その他は平底となる。



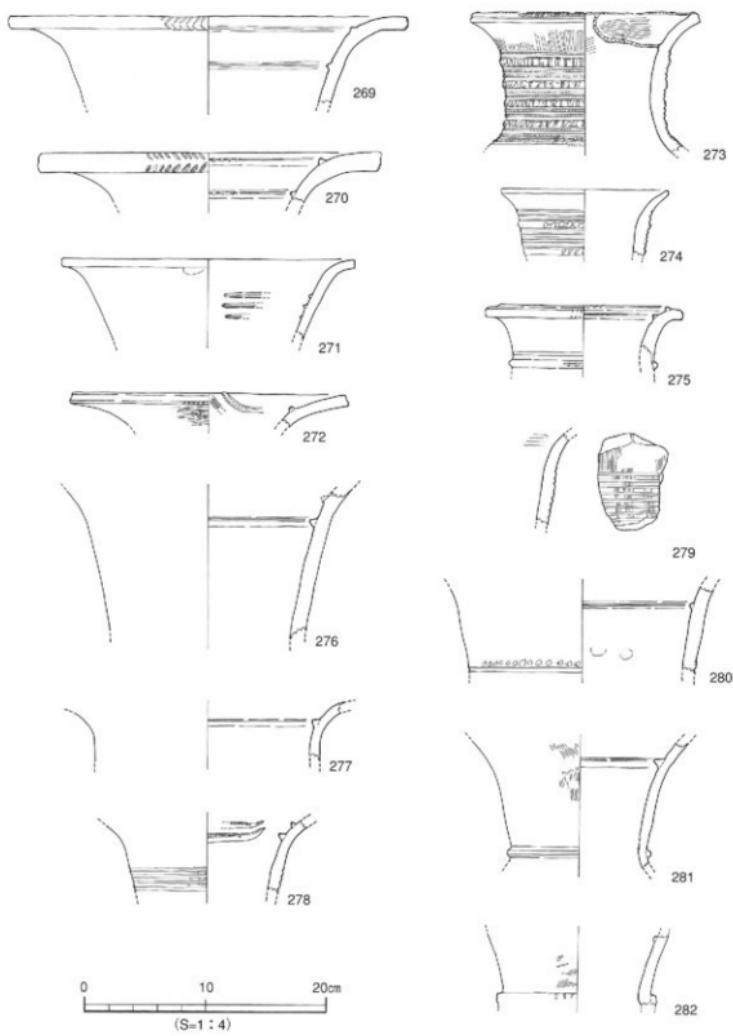
第22図 SD1④層出土遺物実測図(2)



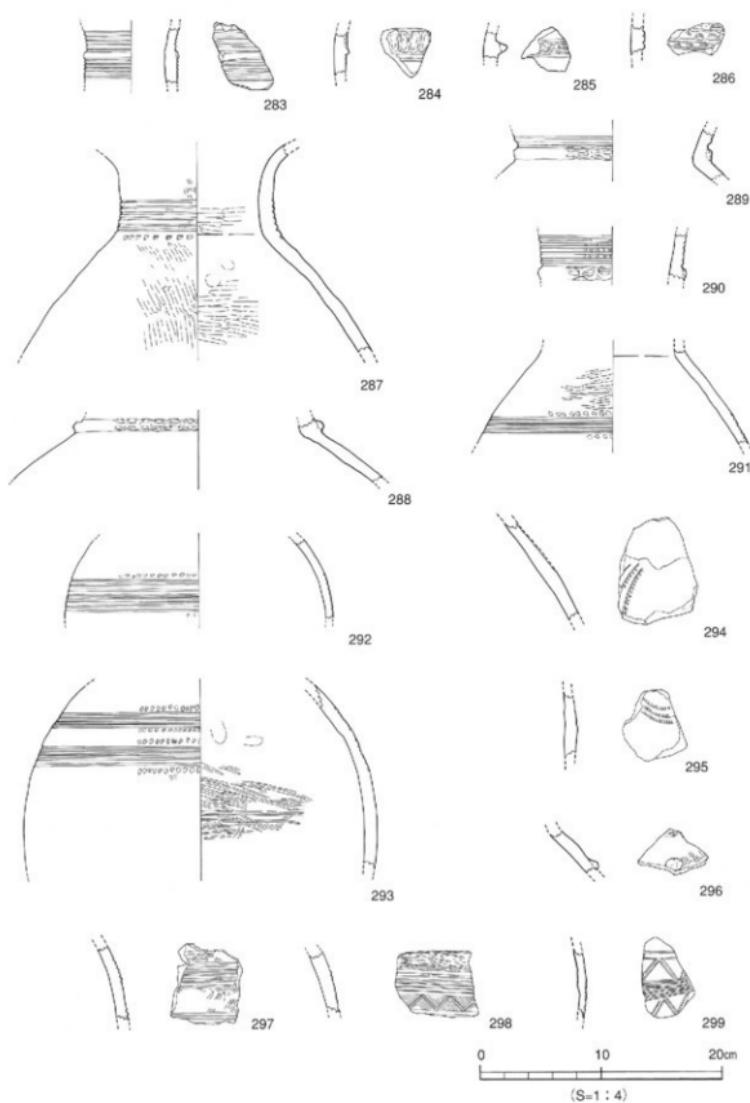
第23図 SD1④層出土遺物実測図(3)



第24図 SD1④層出土遺物実測図(4)



第25図 SD1④層出土遺物実測図(5)



第26図 SD1④層出土遺物実測図(6)

鉢形土器(313～325) 313～316は貼付口縁、317～324は折り曲げ口縁で、すべて無文である。胴部調整は、外面にヘラミガキ調整を施すもの(313・315・316・318・323・324)、刷毛目調整を施すもの(314・317・319・320・322)がある。内面にはヘラミガキ調整を施すもの(313・315・317・322・324)がある。325は底部片で、突出部をもつ平底となる。

転用品(326) 326は所謂「コシキ」への転用品。壺形土器の底部を焼成後に穿孔したものである。

高環形土器(327) 327は高環形土器の脚部片。裾部に円線文3条が巡る(弥生中期後半)。

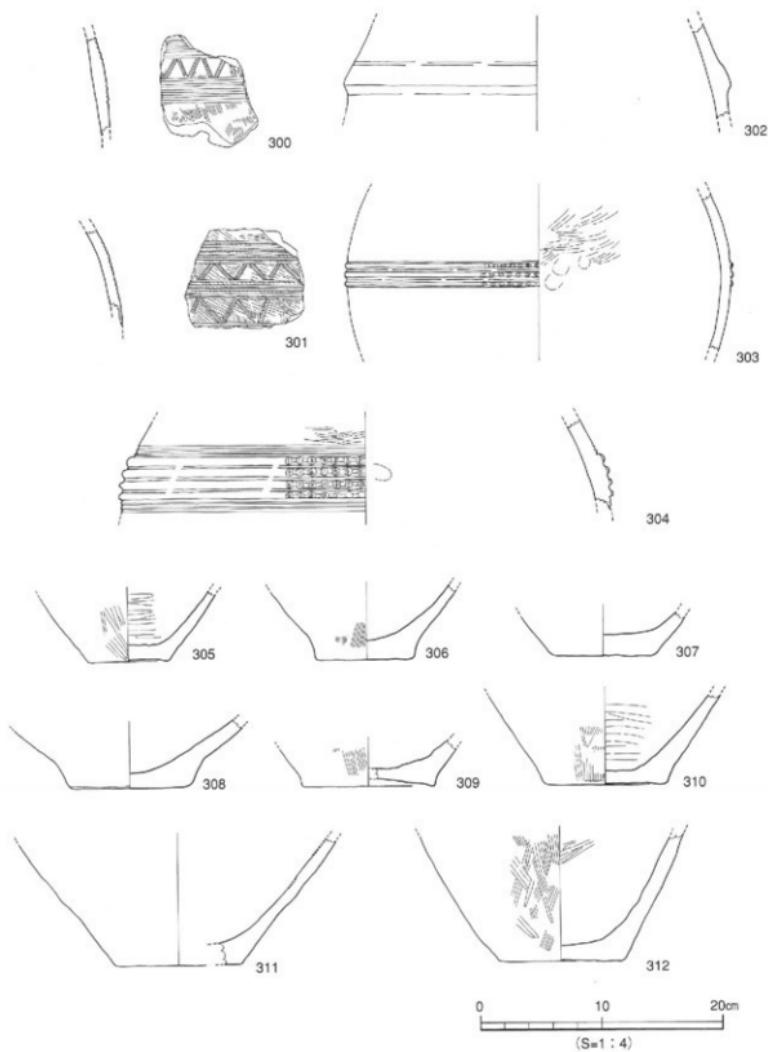
円盤状土製品(328) 土器片の再加工品。周縁を打ち欠き、円盤状に仕上げる。外面にヘラ描き沈線文が残る。

石 器(329～345) 329～331は結晶片岩製の石庖丁である。329は約1/2の残存で、平面形態は外湾刃半月形を呈する。両面より刃を付けており、b面の鋸は明瞭である。a面には入念な研磨が施されている。330・331は未製品。330の平面形態は長方形を呈し、両端に抉りをもつものと思われる。背部に入念な研磨を施す。331は穿孔、敲打中に破損したものと思われる。332・333は結晶片岩製の石斧である。332は伐採斧で、刃部は欠損している。断面形態は橢円形で、入念な研磨が施されている。基部彫部には敲打痕が見られる。333は扁平片刀石斧の再加工品と思われる。334はサヌカイト製のスクレイバー、335～337は剥片である。338・339は安山岩製の大型剥片刃器である。340はサヌカイトの石核である。341・342は敲石である。341の片面に使用痕が認められる。342は5ヶ所の面で使用痕が認められる。343・344は砥石である。343は2ヶ所の面に使用痕があり、主として横方向と右上がりの方向の微細線状痕が観察される。344は片面が大きく凹んでおり、横方向の線状痕が認められる。345は台石、または砥石である。破損面は赤く焼けたように見え、受熱による破損したものと思われる。安山岩製。

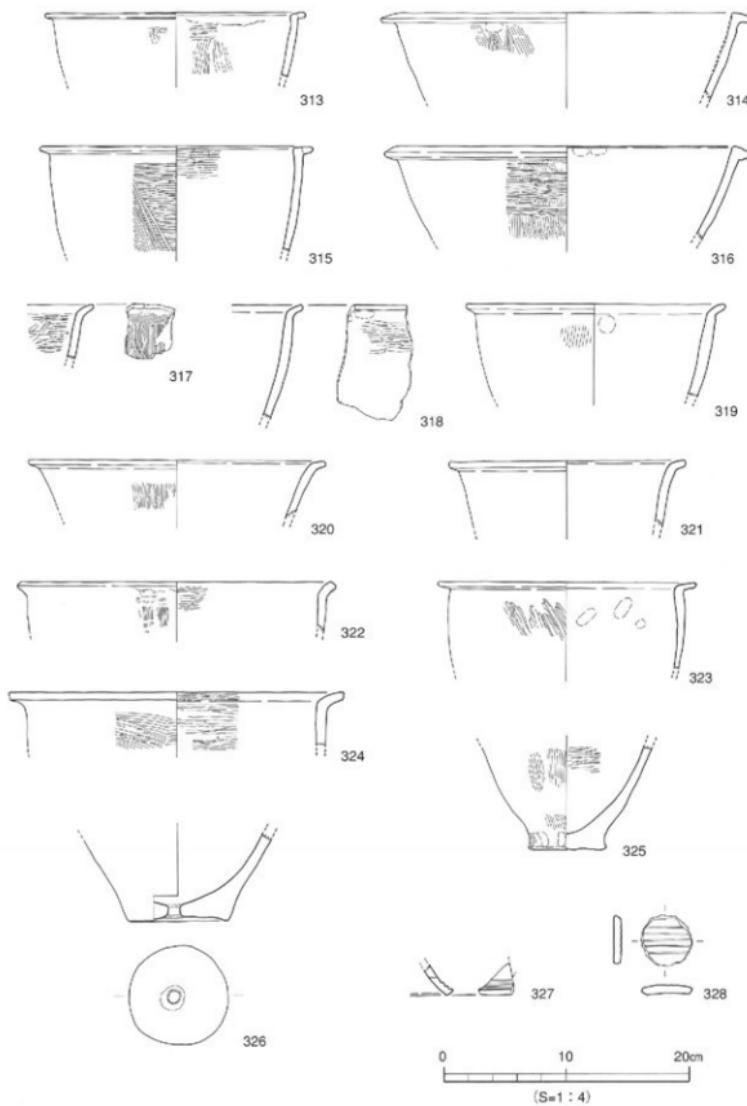
⑤層出土遺物 (第31～40図、346～490)

⑤層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器が出土した。上器の器種構成には、壺形土器、壺形土器、鉢形土器がある。壺形土器のうち、貝殻文を施したもののが1点(442)ある。石器は石庖丁、伐採斧、砥石、石核、スクレイバーがある。石庖丁の中には、未製品が含まれている。

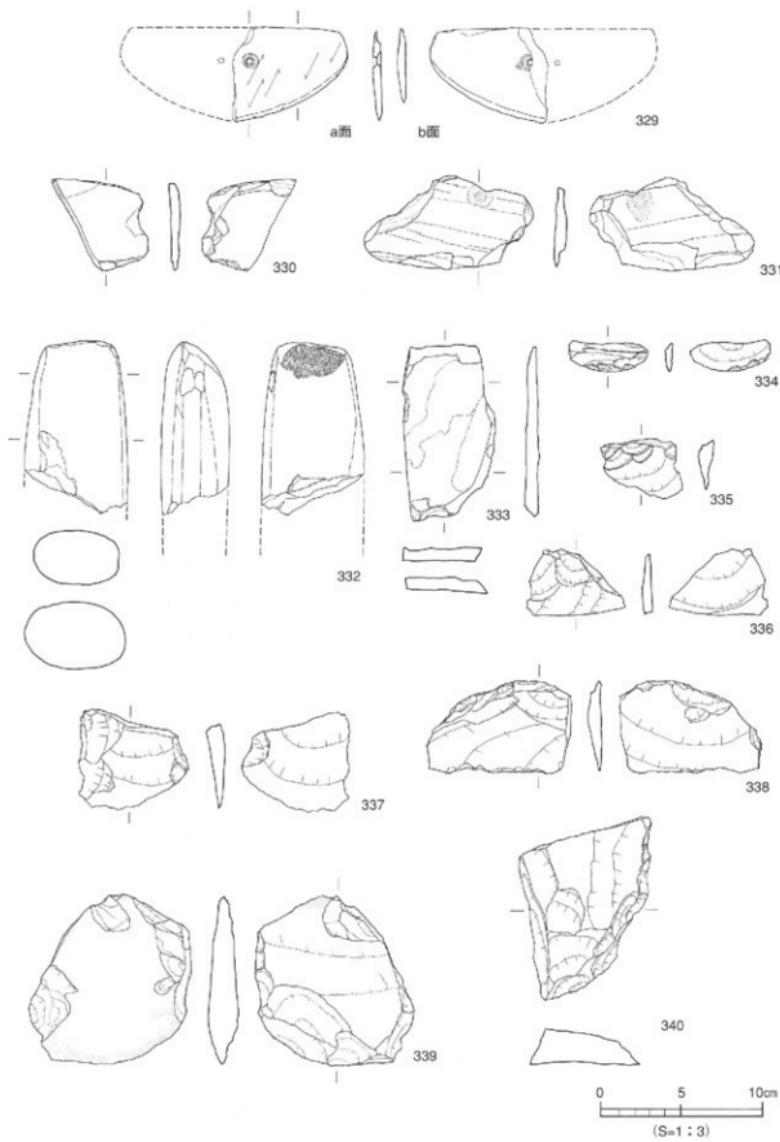
壺形土器(346～400) 346～369は貼付口縁。346・347は口径38cmを越える大型品。346は口縁端面に刻目、胴部に沈線文を施す。347は胴部にヘラ描き沈線文と刺突文2列を施す。348～368は中型品。口縁端面には刻目を施すもの(355・357～365・368)がある。胴部文様は無文のもの(348～350)、沈線文を施すもの(351～358)、沈線文と刺突文が組み合うもの(359～368)の3種類がある。沈線文はヘラ描きのもの(352・360・361・363)、2条1組の工具によるもの(355・358・359・368)、3条1組の工具によるもの(364)、T具の不明のものの(351・353・354・356・357・362・365～367)がある。調整方法は、胴部外面にヘラミガキ調整を施すもの(359・360・363～365)と、刷毛目調整を施すもの(348・353・355・358・362・366)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(352・353・357・358・361・365・366)と、ナデ調整を施すもの(348・349・354・355・364)とがある。369は口径15cmを測る小型品。無文で、胴部外面にヘラミガキ調整を施す。



第27図 SD1④層出土遺物実測図(7)



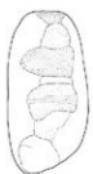
第28図 SD1④層出土遺物実測図(8)



第29図 SD1④層出土遺物実測図(9)



341



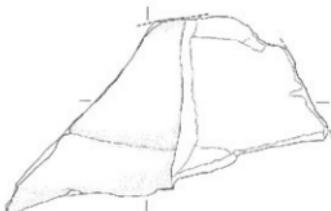
342



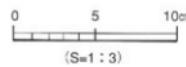
343



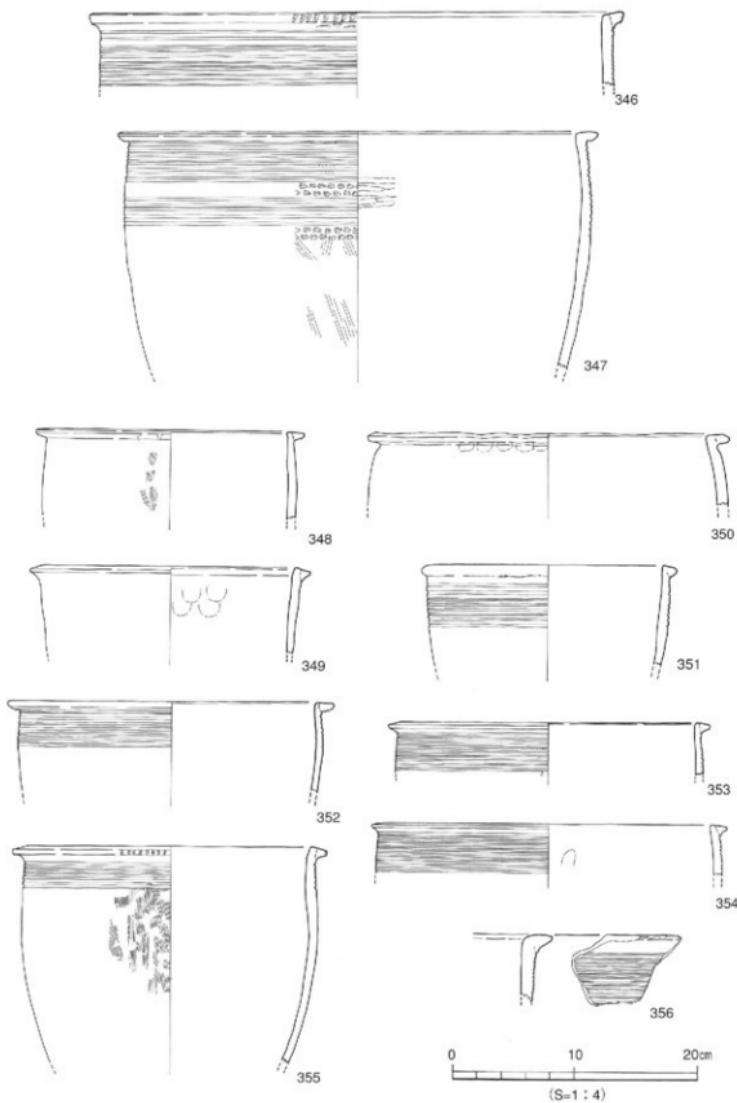
344



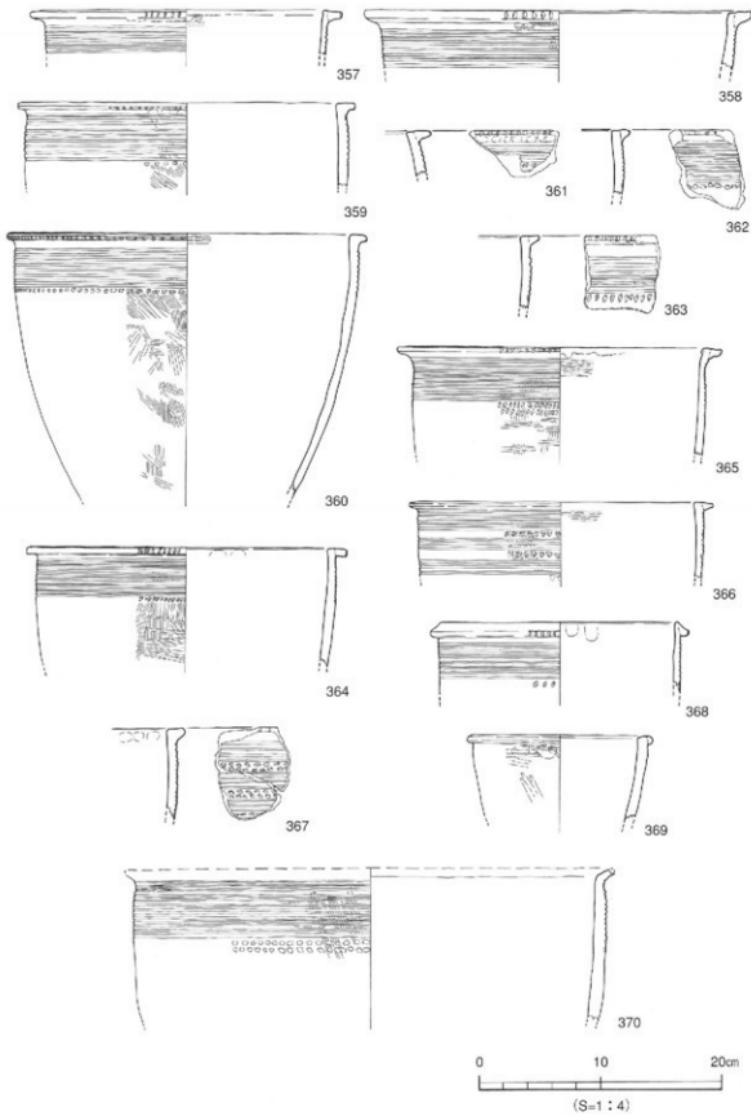
345



第30図 SD1④層出土遺物実測図(10)



第31図 SD1⑤層出土遺物実測図(1)



第32図 SD1(5)層出土遺物実測図(2)

370～385は折り曲げ口縁。370は口径40cmを越える大型品。胴部にヘラ描き沈線文と刺突文2列を施す。371～385は中型品。折り曲げが弱いもの(371～377)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(378～385)がある。口縁端面には刻目を施すもの(371・375～378・382～385)、沈線文と刻目を施すもの(380)がある。胴部文様は無文のもの(371・372・378・379)、沈線文を施すもの(380)、沈線文と刺突文が組み合うもの(373～376・381～385)、沈線文と竹管文が組み合うもの(377)の4種類がある。381には継方向の沈線文を施す。沈線文にはヘラ描きのもの(374・376・380・382・385)、2条1組の工具によるもの(381・383)、クシ状工具によるもの(377)、工具の不明なもの(373・375・384)がある。調整方法は、胴部外面はヘラミガキ調整を施すもの(371・375・379)、刷毛目調整を施すもの(376・377・382・383)がある。

386～394は胴部片。386～389は沈線文と刺突文を施す。386・387・389の沈線文はヘラ、388は2条1組の工具により施されている。390・391は沈線文と山形文、392～394は沈線文と刺突文、山形文を施す。山形文は2条1組の工具により施されている。

395～400は底部片。395・396は上げ底、399はわずかに上げ底、その他は平底となる。外面にはヘラミガキ調整を施すもの(395・396・399・400)がある。

壺形上器(401～471) 401は大型品。口縁部は短く外反し、口縁端面には刻目を施す。口縁部内面には凸帯文をもつ。調整方法は口縁部外面に刷毛目調整、頸部外面にミガキ調整を施す。

402～404は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。402は口縁端面にヘラ描き沈線文、404は刻目を施す。405～412は太くて、直立ないし外傾する口頸部をもつ。口縁端面は刻目を施すもの(405)、沈線文と刻目を施すもの(406・407・411)、斜格子目文を施すもの(412)がある。407は頸部にヘラ描き沈線文、412は頸部と肩部に沈線文と刺突文、口縁部内面に注口状の凸帯文を施す。

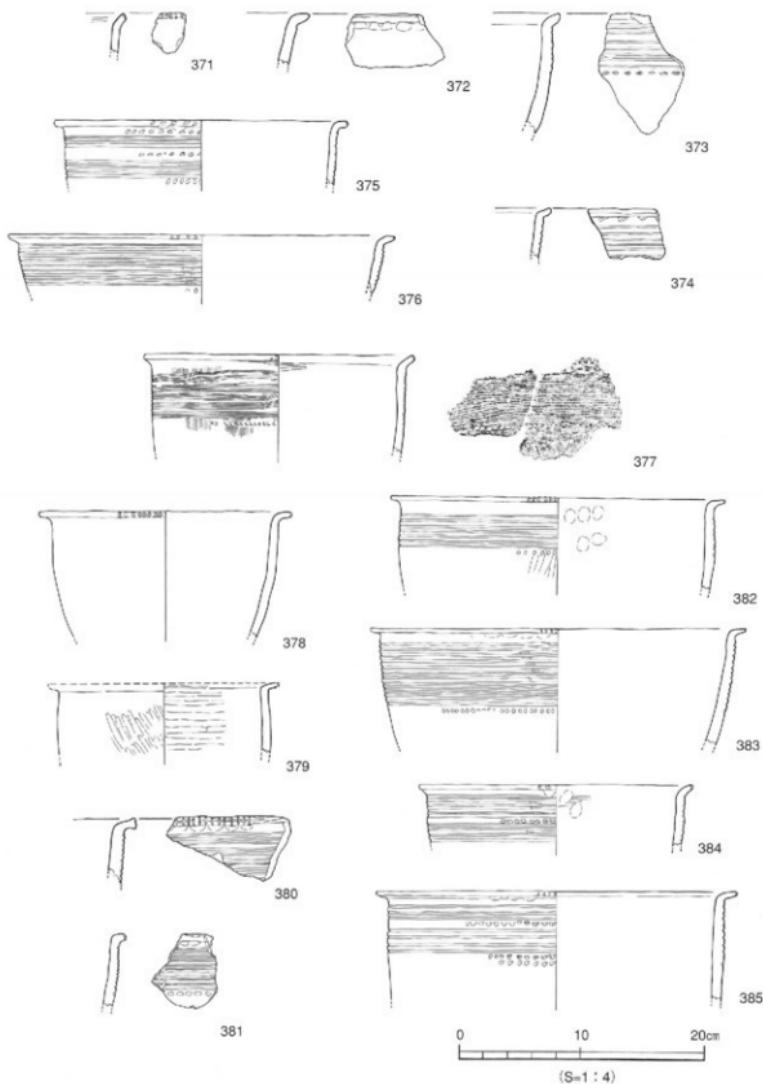
413～430は筒状の長い口頸部をもつ。413～417は口縁部がわずかに外反するもので、413～415は口縁部内面に凸帯文をもち、415は凸帯上に押圧を加える。頸部には、413はヘラ描き沈線文、414・417は凸帯文、415は沈線文と刻目凸帯文、416は沈線文と刺突文を施す。414は口縁端面に斜格子目文を施す。

418～430は口縁部が強く外反するもので、口縁端面には刻目を施すもの(423～425・429)、沈線文と刻目を施すもの(419～421・426・428)、斜格子目文を施すもの(418)がある。422～430は口縁部内面に凸帯文をもつ。424～427・429・430は凸帯上に刻目を施す。428・430は凸帯は全周せず、一部が注口状となる。頸部にはヘラ描き沈線文を施すもの(427)と、沈線文と刺突文を施すもの(428・429)がある。

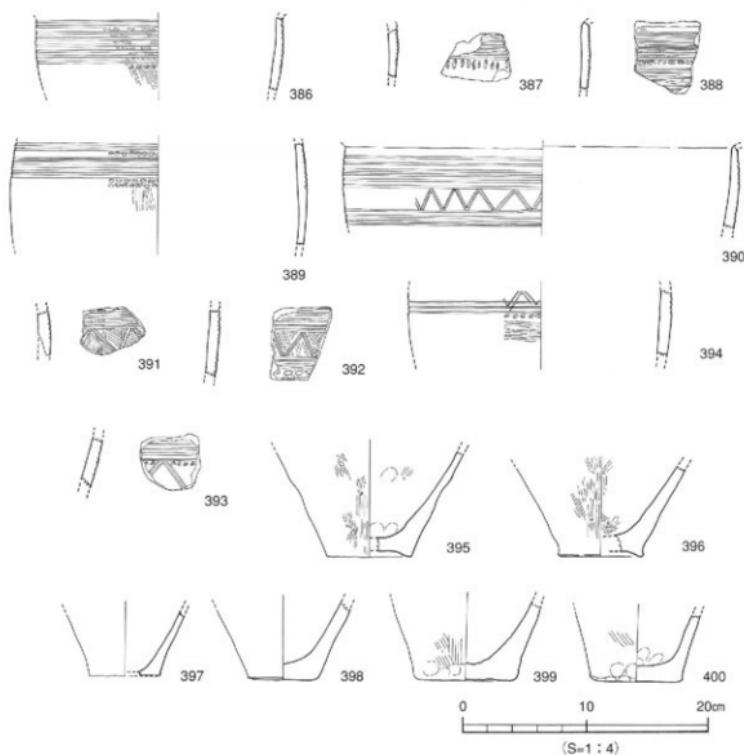
調整方法は、口頸部外面は刷毛目調整を施すもの(404・407・408・426～428)、ヘラミガキ調整を施すもの(410・415・425)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(409・419・429・430)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(404・408～410・416・417・424・425・427～430)がある。

431～436は口頸部片。口縁部内面には凸帯文をもち、435・436は凸帯上に刻目を施す。431・432は頸部にヘラ描き沈線文、433は沈線文と刺突文を施す。437・438は頸部片。437は沈線文(2条1組)と刻目凸帯文、438はヘラ描き沈線文と凸帯文(連鎖状刻目文1列)を施す。435・436は内外面共にヘラミガキ調整を施す。

439～446は頸～肩部片。439は頸部にヘラ描き沈線文、440～443は凸帯文を施す。442は肩部に貝殻腹縁による弧文を1条施す。443は凸帯下に竹管文を施す。446は頸部に刻目をもつ棒状浮文、胴部にヘラ描き沈線文を施す。441・442・446は外面にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。



第33図 SD1⑤層出土遺物実測図(3)



第34図 SD1⑤層出土遺物実測図(4)

447～460は胴部片。447は沈線文(2条1組)、448・449は沈線文と刺突文、450～452は沈線文と山形文、453は沈線文と山形文、円形浮文を施す。454は沈線文と斜格子目文を施す。455～460は「M」字状の凸帶文をもち、456～459は凸帶上に刻目、460は連鎖状刻目文1列を施す。なお、457～459は胴部外面に沈線文1条を巡らし、凸帶を貼り付ける位置を設定している(写真)。調整方法は、447の外面にヘラミガキ調整、451・452は刷毛目調整を施す。461は直口口縁の細長頸壺。口頸部に沈線文(2条1組)と刺突文を施す。内面にヘラミガキ調整を施す。

462～471は底部片。467・468・471はわずかに上げ底、その他は平底となる。462・463を除き、外面にヘラミガキ調整を施す。

鉢形土器(472～475) 折り曲げ口縁で、無文である。475は胴部外面に刷毛目調整、内面にナナメ方向のヘラミガキ調整を施す。

高坏形土器(476・477) 476は中実の短い柱部に「ハ」の字状に広がる厚みのある脚部をもつ。坏部と脚部との接合部には断面三角形状の刻目凸帯文が1条巡る。坏部外面にはヘラミガキ調整を施す。

転用品(478～481) 478～481は所謂「コシキ」への転用品である。菱形土器の底部を、焼成後に穿孔している。孔は梢円形を呈し、径0.7～2.0cmを測る。

ミニチュア品(482) 482はミニチュア品。直口口縁。

石 器(483～490) 483～485は結晶片岩製の石庖丁である。483は平面形態が梢円形を呈するものとみられ、穿孔はa面は回転、b面は敲打と回転とで施されている。刃付けは片刃である。484は平面形態が直線刃半月形を呈するものとみられる。485は未製品である。486は結晶片岩製の伐採斧の欠損品である。487は安山岩製のスクレイバーの完形品である。488・489は安山岩製の石核である。490は砥石の欠損品である。

⑦層出土遺物（第41・42図、491～534）

⑦層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器の器種構成には菱形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は石鏃、扁平片刃石斧(未製品)、伐採斧がある。

菱形土器(491～500) 491・492は貼付口縁。491は胴部にヘラ描き沈線文、492は口縁端面に連鎖状刻目文1列と胴部にヘラ描き沈線文を施す。493・494は折り曲げ口縁。494は口縁端面に刻目、胴部にヘラ描き沈線文を施す。495・496は胴部片。495はヘラ描き沈線文、496は沈線文と刺突文を施す。497～500は底部片。497は平底、他はわずかに上げ底となる。

壺形土器(501～527) 501は口縁部が短く外反し、口縁端部は面をなす。502・503は直立する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。504～506は外反する長い口頸部をもつもので、505は口縁端面にヘラ描き沈線文1条と刻目を施す。506は頸部にヘラ描き沈線文と刻目凸帯文、口縁部内面に刻目凸帯文をもつ。507～512は頸部片。507・508は内面に凸帯文をもつ。512は断面方形状の凸帯文を貼り付け、凸帯上に格子目文を施す。513・514は胴部片。513はクシ描き沈線文と刺突文を施す。514は胴部中位に刻目凸帯文3条を貼り付ける。515～527は底部片。515～525は平底、526・527はやや上げ底となる。

鉢形土器(528～531) 528・529は折り曲げ口縁。無文。530・531は底部片で、530は中央部がややくぼむ上げ底、531は平底となる。

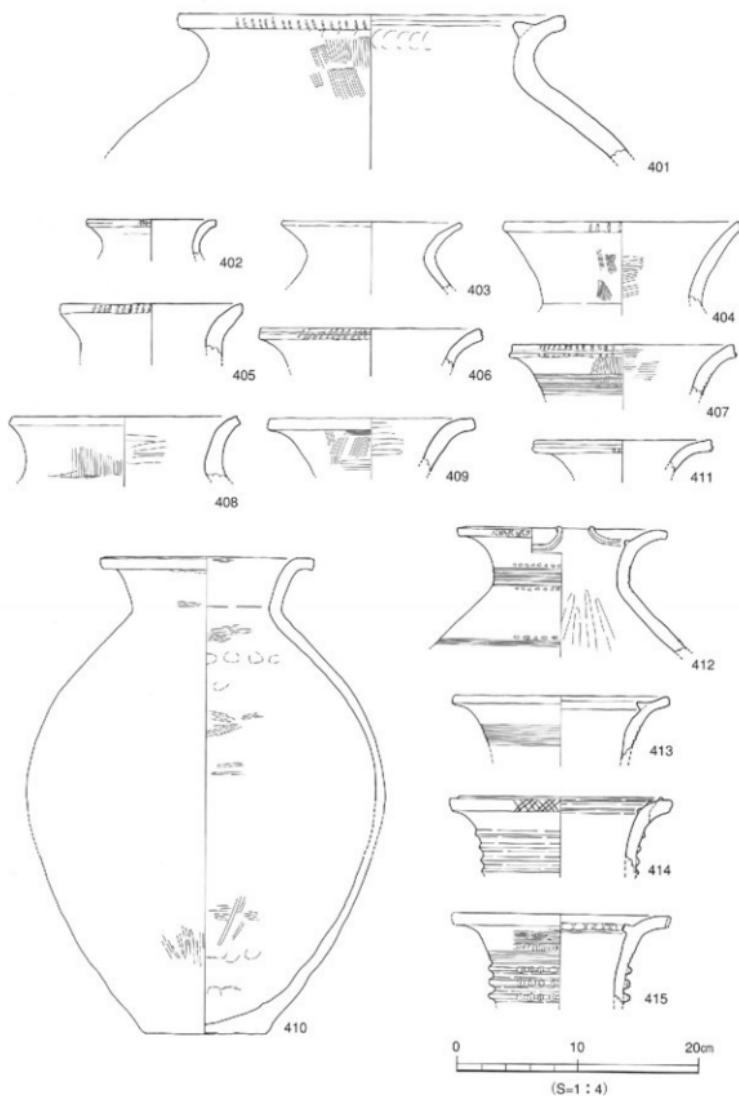
石 器(532～534) 532は赤色チャート製の平基無茎式石鏃である。完形品で、両面に初剥離面を残す。533・534は結晶片岩製の石斧である。533は加工斧の未製品で、刃部を欠損している。534は伐採斧の欠損品で、部分的に研磨痕が認められる。

⑧層出土遺物（第43図、535～540）

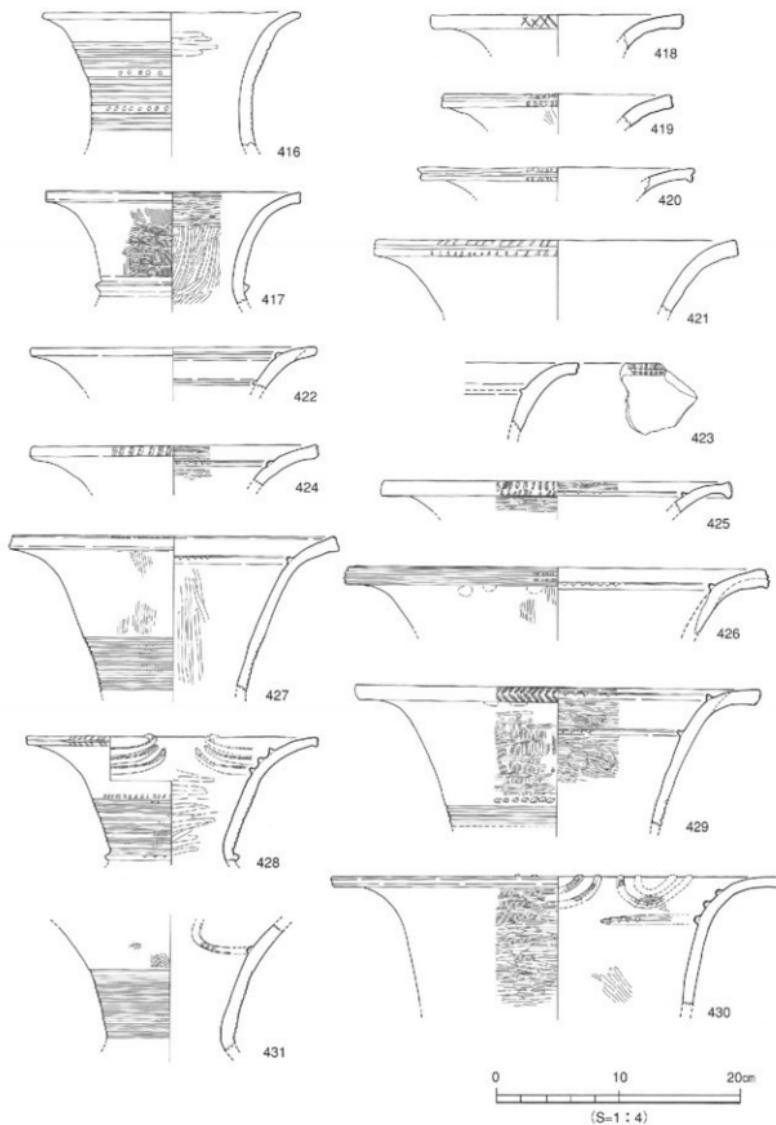
⑧層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される菱形土器と壺形土器が出土した。

菱形土器(535・536) 535は折り曲げ口縁で、胴部に沈線文7条を施す。536は底部片で、わずかにくびれる丸味をもつ平底となる。

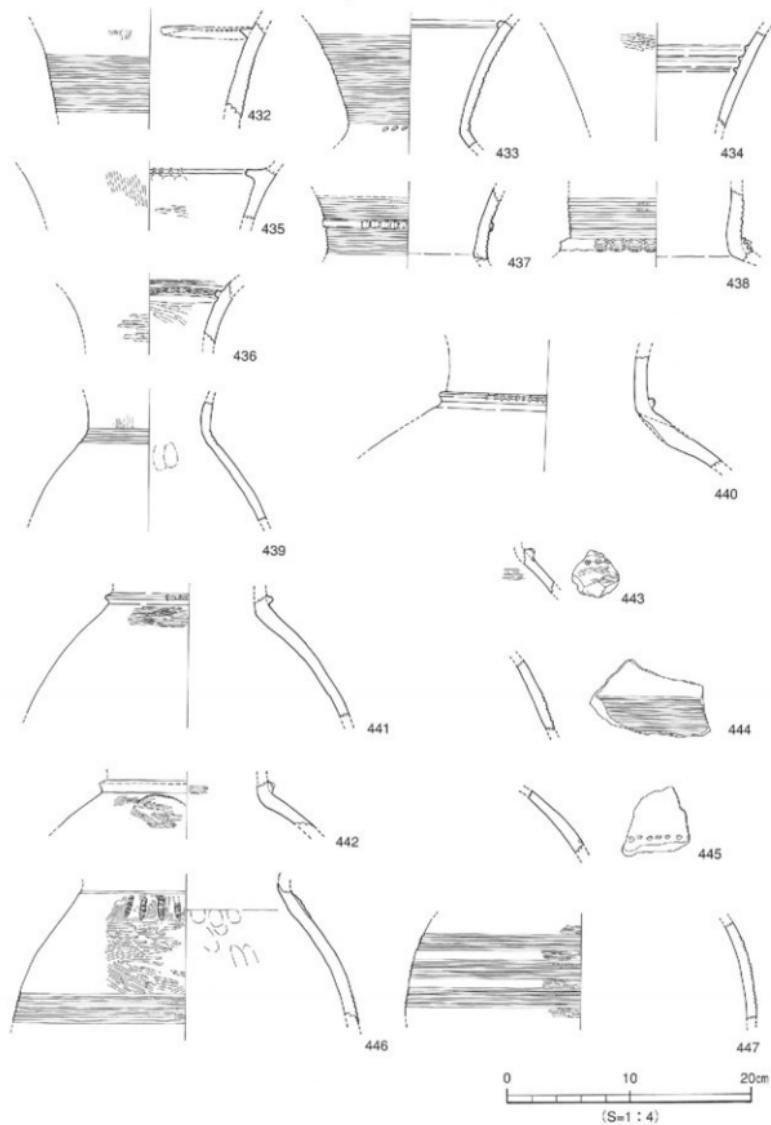
壺形土器(537～540) 537は外傾する頸部に大きく外反する口縁部をもつ。頸部外面に沈線文、内面に凸帯文の痕跡を残す。538は直立する頸部片で、刻目凸帯文を1条施す。539・540は底部片で、平底となる。



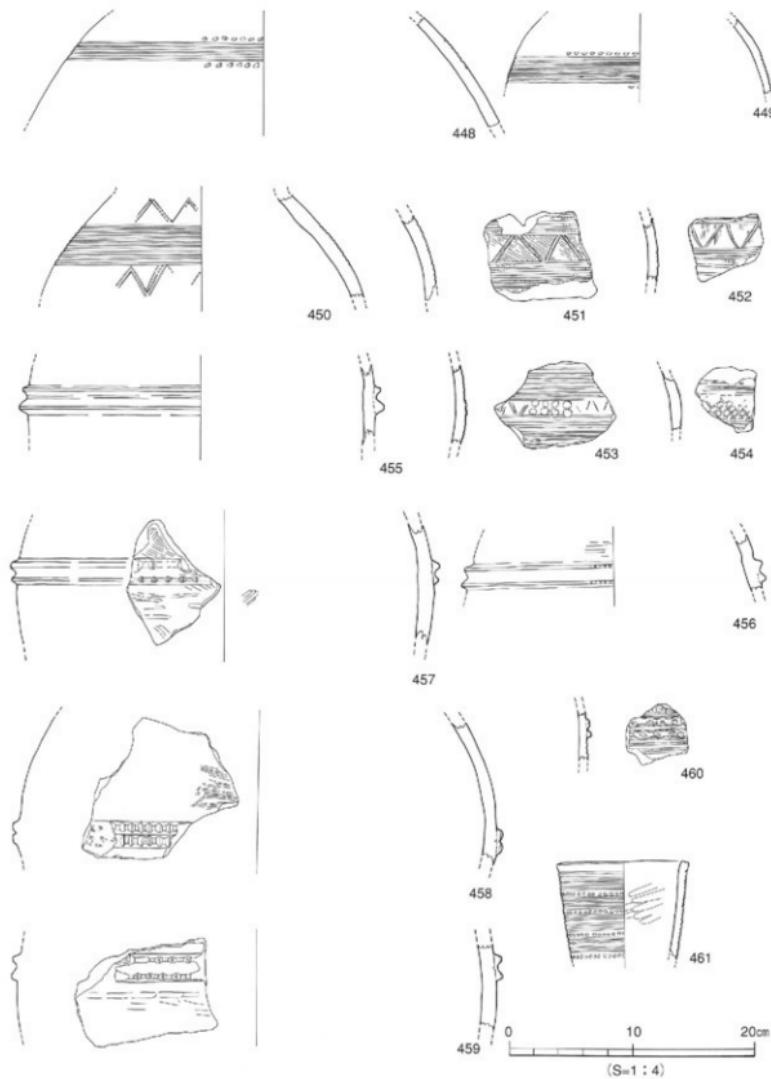
第35図 SD1⑤層出土遺物実測図(5)



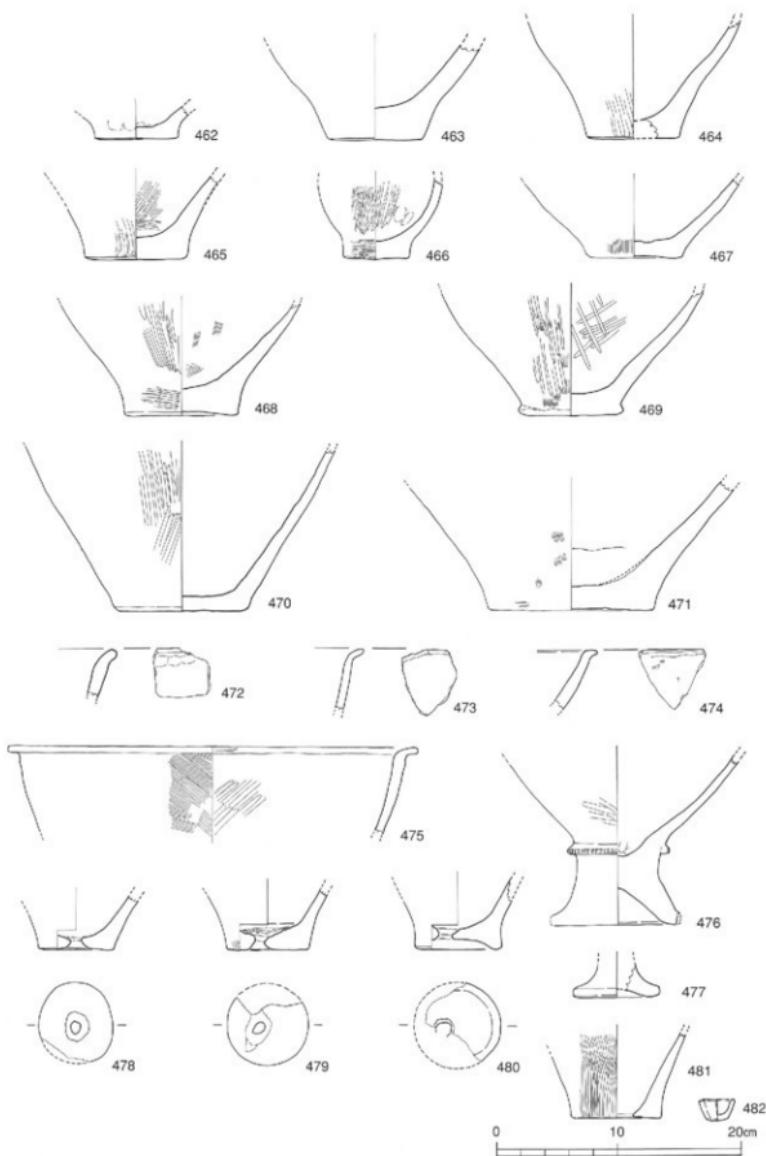
第36図 SD1⑤層出土遺物実測図(6)



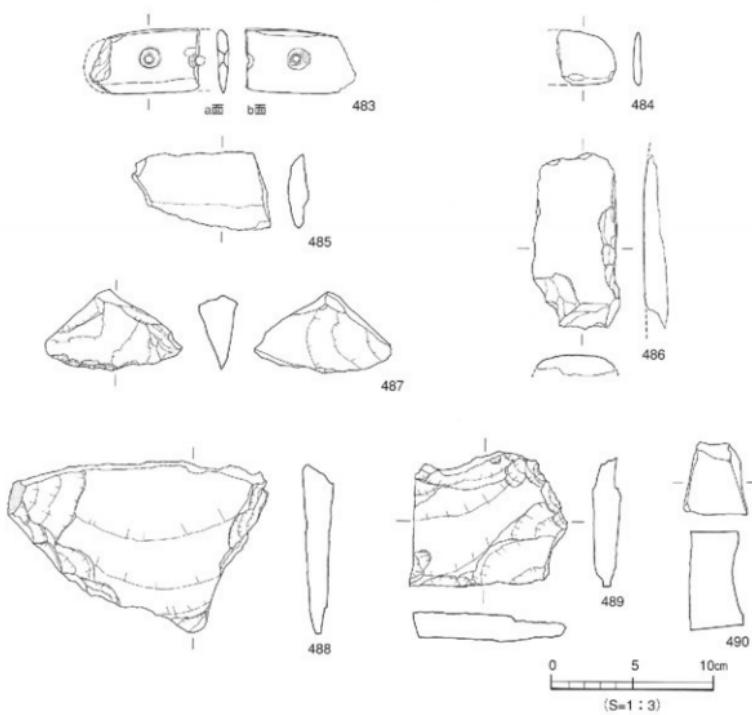
第37図 SD1⑤層出土遺物実測図(7)



第38図 SD1⑤層出土遺物実測図(8)



第39図 SD1⑤層出土遺物実測図(9)



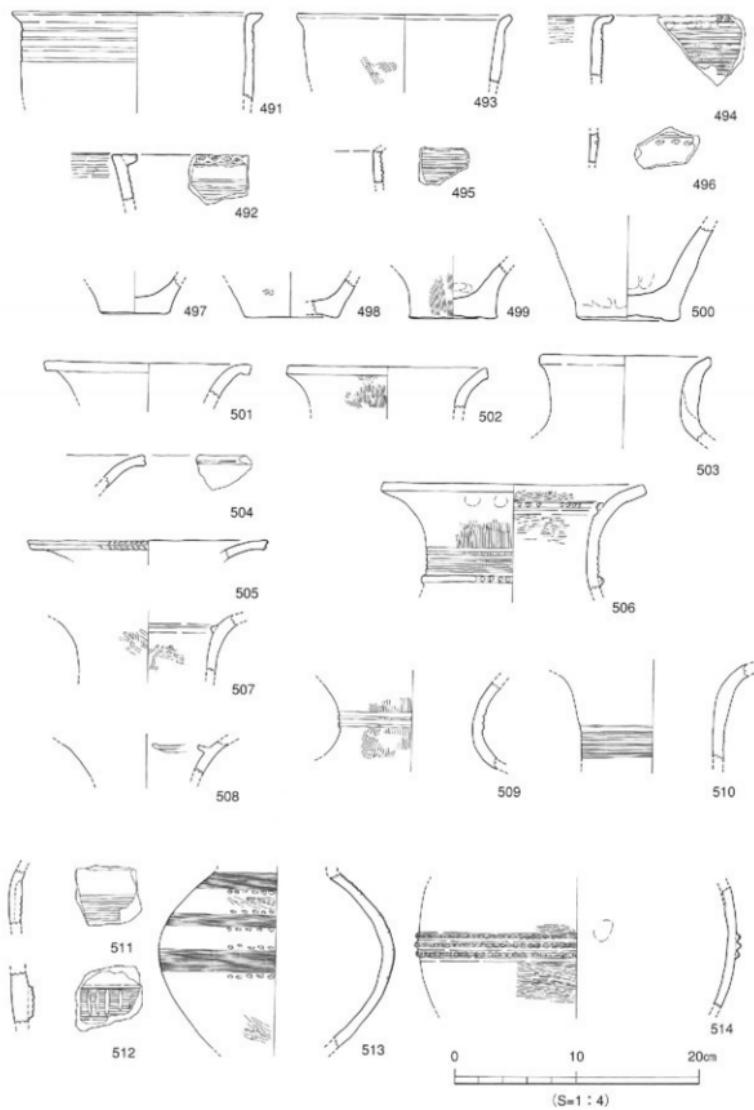
第40図 SD1⑤層出土遺物実測図(10)

地点不明出土遺物（第44図、541・542）

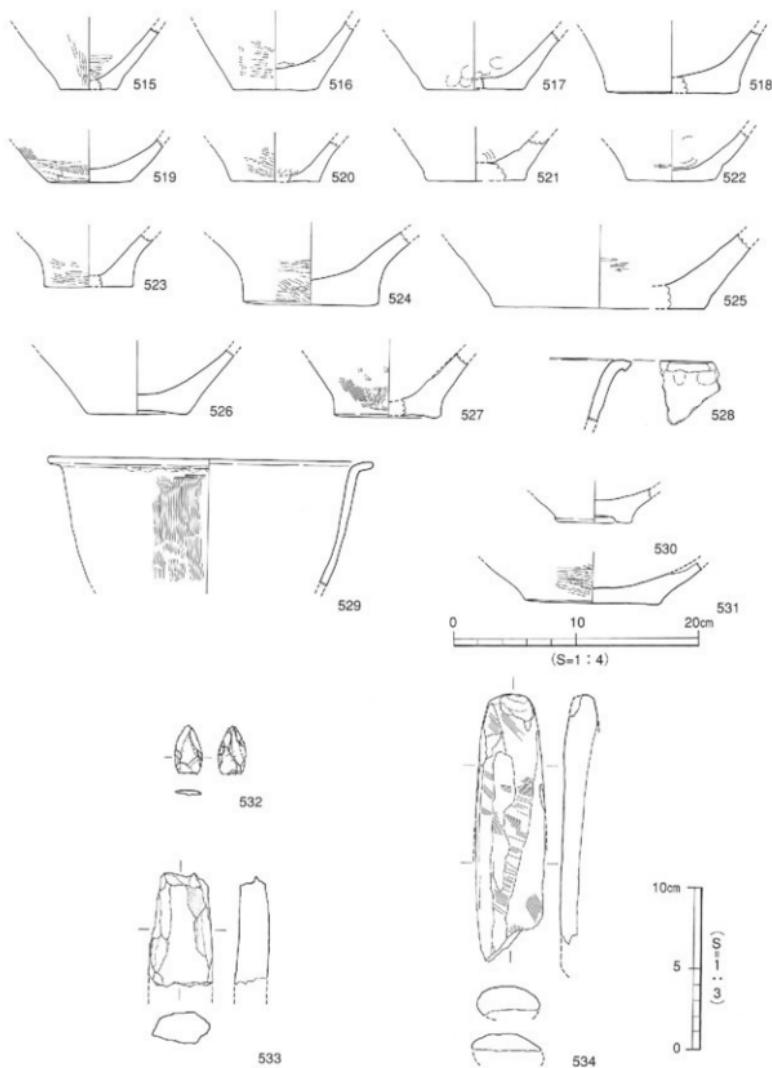
調査では、SD1出土遺物のうち出土地点や層位の不明なものが数点ある。ここでは、地点不明出土遺物として掲載する。

石 器(541・542) 541は伐採斧の欠損品とみられ、研磨痕が認められる。542は大陸系磨製石器。器種は不明である。

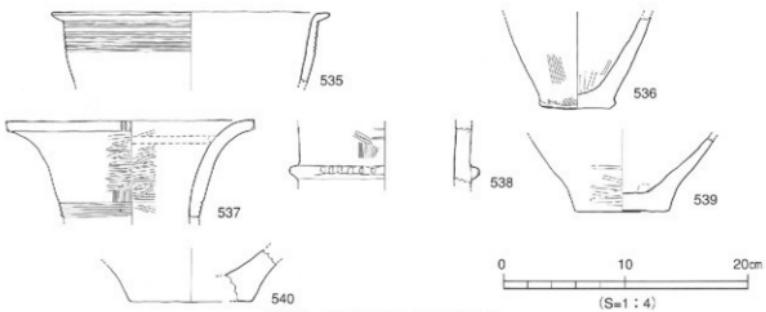
時期：出土した甕形土器、壺形土器は弥生時代前期末～中期初頭の形態を示している。よって、SD1は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第41図 SD1⑦層出土遺物実測図(1)



第42図 SD1⑦層出土遺物実測図(2)



第43図 SD1⑧層出土遺物実測図



第44図 SD1層位不明出土遺物実測図

S D2 (第45~47図、図版8)

S D2は調査区東側、A11~D11区に位置する。第V層上面での検出であり、第IV層が覆う。ここでは、発掘調査時の工程をふまえて、溝の構造と溝内から出土した遺物の説明を行う。

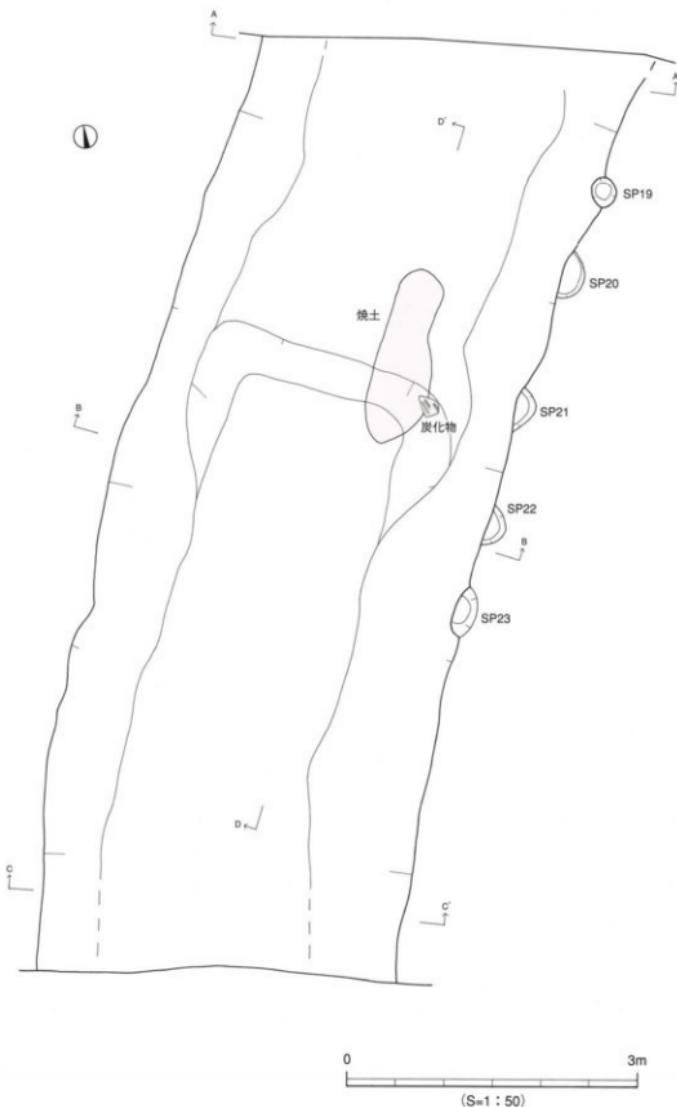
1) 調査工程

まず、調査区北壁沿い(A-A'地点)と溝中央部(B-B'地点)、及び溝南側(C-C'地点)に幅50cmのトレーナーを設定した(第45図)。トレーナーの土層観察により、溝の埋土を7層(①~⑦層)に分層した。その後、①層から順に掘り下げをし、遺物の取り上げを行った。掘り下げでは、B-B'地点とC-C'地点に幅50cmのベルトを設定し、土層を確認しながら調査を進めた。

2) 概 略

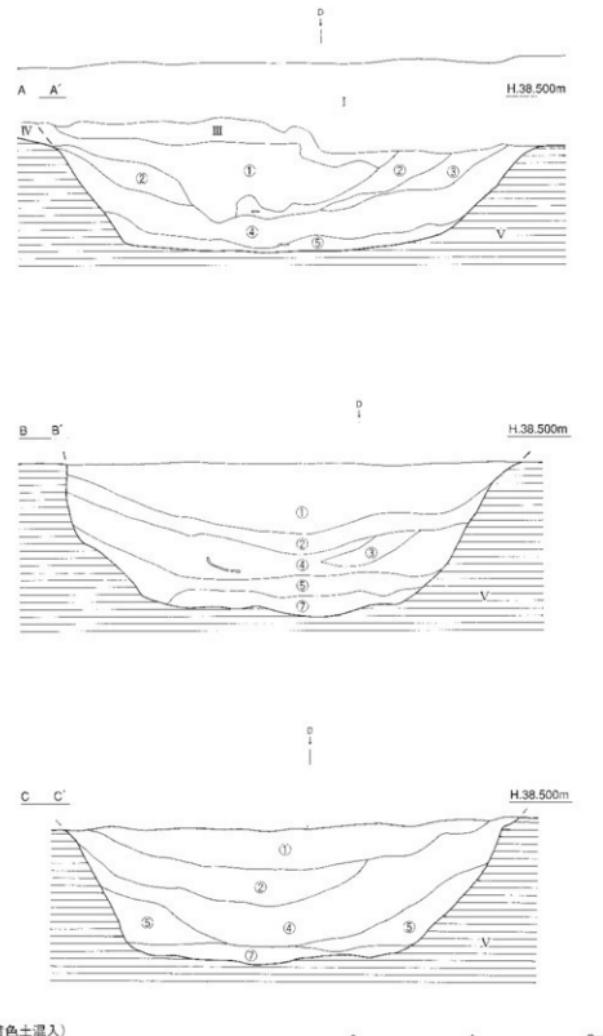
S D2の平面形状は、北東から南東方向に緩やかなカーブを描く。溝の規模は、幅3.95m、検出長9.70m、深さは検出面下1.1~1.5mを測る。溝東壁は2基のピット(S P 19・23)に切られ、3基のピット(S P 20~22)を切っている。SD1東側壁体とSD2西側壁体との間隔は20mを測る。

溝の断面形態は逆台形状を呈する。壁面の傾斜は、西側壁体に比べ東側壁体が緩やかになる。東壁では傾斜角50~55°、西壁では60~65°となる。溝基底面は北側が高く、中央部から南側は段状に低くなっている。(比高差30cm)。なお、溝基底面と壁体は第V層である。



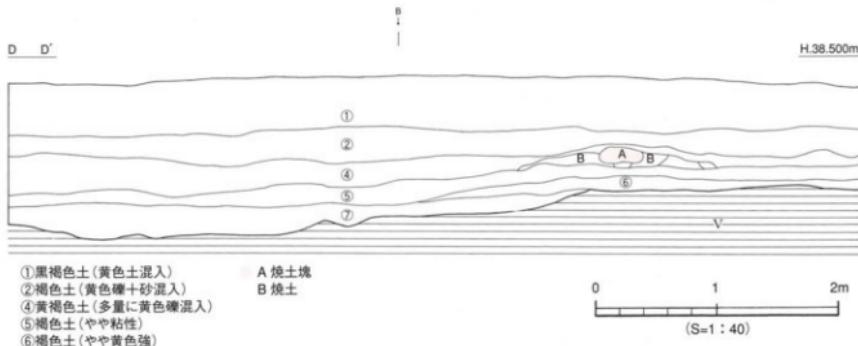
第45図 SD2測量図

遺構と遺物



- ① 黒褐色土(黄土混入)
- ② 褐色土(黄色壤土砂混入)
- ③ 貴褐色土(多量に黄色壤土混入)
- ④ 黄褐色土(③より多く黄色壤土混入)
- ⑤ 棕色土(やや粘性)
- ⑦ 黑色粘質土

第46図 SD2土層図(1)



第47図 SD2土層図（2）

遺物は土器と石器が出土した。土器は大半が弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半の土器も数点出土している。埋土上位からは、須恵器片、鉄器片のほか、完形の管玉が1点出土した。

溝の埋土は、前述したとおり7層に細分される。①層は黒褐色土に黄色土がブロック状に混入するもので、溝北側では検出幅2.7m、層厚60cm、溝南側では検出幅3.3m、層厚30cmを測る。発掘調査時は、①層をSD2埋土として掘り下げたが、整理作業の段階で、①層から時期の異なる土器(弥生中期後半)が比較的多く出土した。調査壁及びベルトの土層観察より、SD1と同様、①層は本来、SD1とは異なる遺構の埋土と考えられる。このほか、①層中からは須恵器片と鉄器片、管玉が出土したが、これらの遺物もSD1とは異なる別の遺構に伴うものであろう。

②層は褐色土に黄色土と砂礫を含む。層厚10~30cmを測る。③層は黄褐色土に礫が混入するもので、溝北東部のみに堆積し、層厚10~20cmを測る。③層中からの遺物の出土はない。④層は黄褐色土に、礫が多く混入する。溝の中位付近に堆積し、層厚20~50cmを測る。④層掘り下げ時に、溝中央部付近から60×180cmの範囲に、厚さ10cmの焼土を検出した。⑤層は褐色土で粘性が強く、層厚15~25cmを測る。溝北半部では⑤層下に溝基底面を検出した。⑥層は褐色土に黄色土が混入するもので、溝北東部のみに堆積し、層厚5~10cmを測る。⑥層中からの遺物の出土はない。⑦層は黒色粘質土で、粘性が非常に強い。溝中央部から南側の溝基底面付近に堆積し、層厚10~15cmを測る。

各土層からの遺物の出土状況をみることにする。埋土上位の①・②層からは比較的多くの遺物が出土したが、埋土中位から下位の④・⑤・⑦層からは少量の出土量であった。

ここで、各層ごとに出土した遺物の説明を行う。

3) SD2出土遺物 (第48~54図、図版17)

①層出土遺物 (第48・49図、543~584)

①層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器は甕形土器、壺形土器があり、石器は扁平片刃石斧、砥石がある。このほか、須恵器片1点と鉄器片1点、完形の管玉1点が出土した。

甕形土器(543～564) 543・544は貼付口縁。543は無文、544は胴部に断面三角形状の凸帯文を1条貼り付ける。545・546は折り曲げ口縁。胴部に沈線文と刺突文を施す。546の沈線文は、2条1組の工具により施される。547は「く」の字状口縁。頸部に刻目凸帯文1条を貼り付ける。弥生中期後半。548～550は胴部片。548は無文、549・550は沈線文と刺突文を施す。

551～564は底部片。551～553・559～561はわずかに上げ底、554～558・562は平底となる。563・564はくびれをもつ上げ底となる(弥生中期後半)。

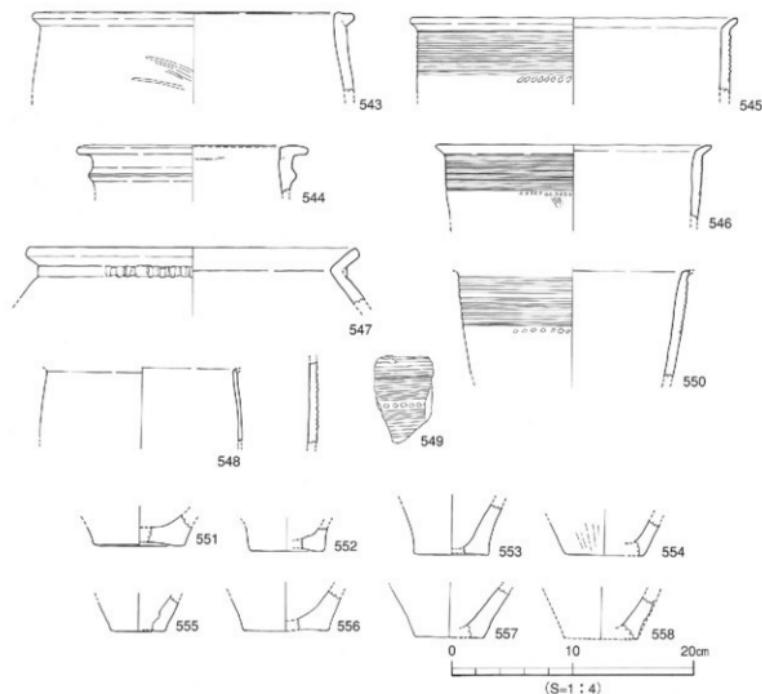
壺形土器(565～578) 565は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。566は口縁端部を上下方に拡張し、口縁端面に凹線文4条を施す(弥生中期後半)。567は頸肩部片。頸部に刻目凸帯文1条をもつ。

568～578は底部片。568は上げ底、その他は平底となる。

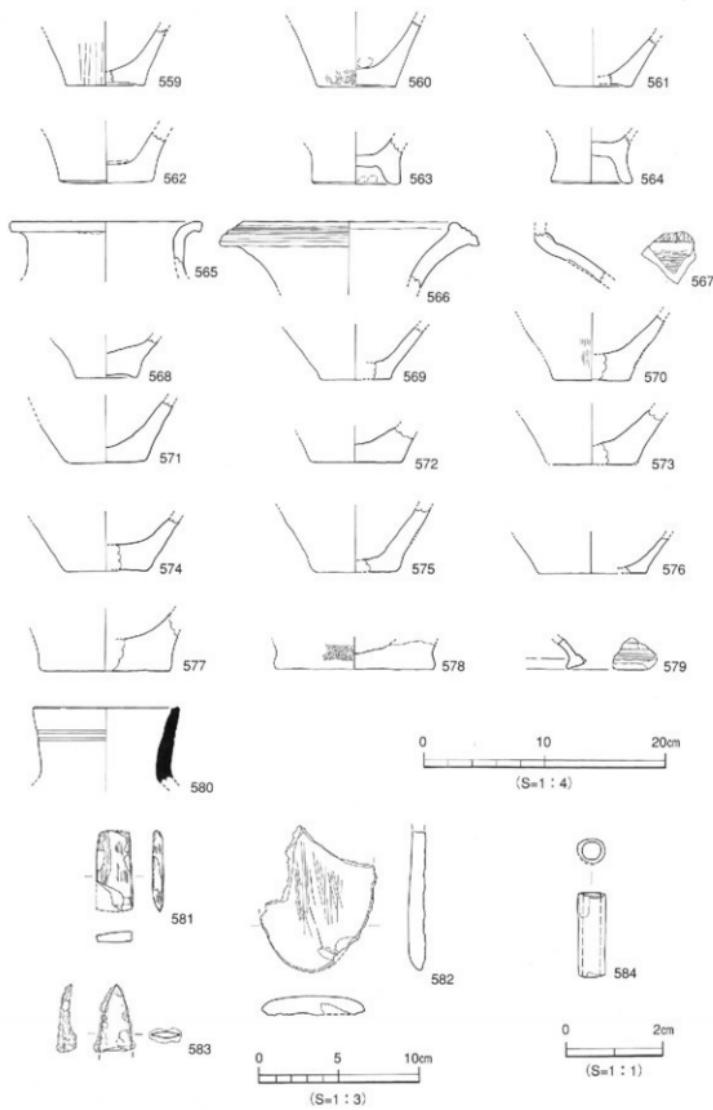
高環形土器(579) 579は高環形土器の脚部片。脚裾部に凹線文4条以上を施す(弥生中期後半)。

須恵器(580) 580は須恵器の壺。頸部に沈線文2条を施す(古墳時代後期)。

石 器(581・582) 581は扁平片刃石斧である。刃部の一部が欠損している。刃部に研ぎ直した痕跡が認められる。結晶片岩製。582は手持ちの砥石である。片面に線状の使用痕が認められる。



第48図 SD2①層出土遺物実測図(1)



第49図 SD2①層出土遺物実測図(2)

鉄器(583) 583は鉗もしくは劍の先端部と思われる。

装身具(584) 584は碧玉製の管玉である。色調は濃緑色を呈し、重さ7.2gを測る。

②層出土遺物（第50図、585～604）

②層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と須恵器が出土した。土器の中には、外來的要素の強いものが1点(587)出土している。このほか、石器素材が1点出土した。

壺形土器(585～594) 585は貼付口縁。胸部に沈線文6条を施す。586・587は折り曲げ口縁。586は口縁端面に刻目を施す。587は口縁端面にヘラ描き沈線文1条と刻目、胴部に2条1組の工具による沈線文と山形文を施す。外來系。588は胴部片で、2条1組の工具による沈線文と刺突文を施す。口縁部内面はヨコ方向のヘラミガキ調整、胴部内面はナデ調整を施す。589は口縁端部より下がる位置に粘土紐を貼り付けて成形する。口縁端面は「コ」字状に仕上げる。

590～594は底部片。590・593・594は平底、591・592はわずかに上げ底となる。

壺形土器(595～600) 595は口縁部が外反し、口縁端面はナデによりくぼむ。外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整を施す。596は外傾する頸部片で、断面三角形状の凸帯文を1条施す。597は胴部片で、「M」字状の凸帯文(上段のみ押圧)1条と凸帯文(押圧)1条及び沈線文を施す。598～600は底部片で、598はわずかに上げ底、599・600は平底となる。

蓋形土器(601・602) 601はつまみ上面は大きくくぼみ、602は緩やかにくぼむ。調整方法は摩滅が著しく不明である。

須恵器(603) 603は須恵器の壺である。口縁部外面は肥厚する（古墳後期）。

石器(604) 604は石器素材と思われる。結晶片岩製。

④層出土遺物（第51・52図、605～631）

④層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器が出土した。石器は、サヌカイト製のスクレイバーが1点出土した。

壺形土器(605～619) 605～607は貼付口縁。胸部にヘラ描き沈線文を施す。607は口縁端面に連鎖状刻目文2列を施す。608～611は折り曲げ口縁。608・609は胴部にヘラ描き沈線文、口縁端面に刻目を施す。611は2条1組による沈線文と刺突文を施す。調整方法は606・608の内面がヘラミガキ調整、その他はナデ調整である。612は胴部片で、ヘラ描き沈線文を施す。613は「く」の字状口縁を呈し無文（弥生中期後半）。

614～619は底部片。614・616・619はわずかに上げ底、615・618・619は平底となる。

壺形土器(620～629) 620・621は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。620は頸部にヘラ描き沈線文7条、肩部にヘラ描きの弧文3条を施す。口頸部外面は刷毛目調整、胴部外面はヘラミガキ調整を施す。621は頸部にヘラ描き沈線文1条を施す。622・623は頸部片。622は沈線文と刻目凸帯文、623は凸帯文を施す。623の内面には注口状の凸帯文を施す。622は内外面共に、丁寧なヘラミガキ調整を施す。

624～629は底部片。624はわずかに上げ底、その他は平底となる。

鉢形土器(630) 630は貼付口縁。無文。内外面共に、ナデ調整を施す。

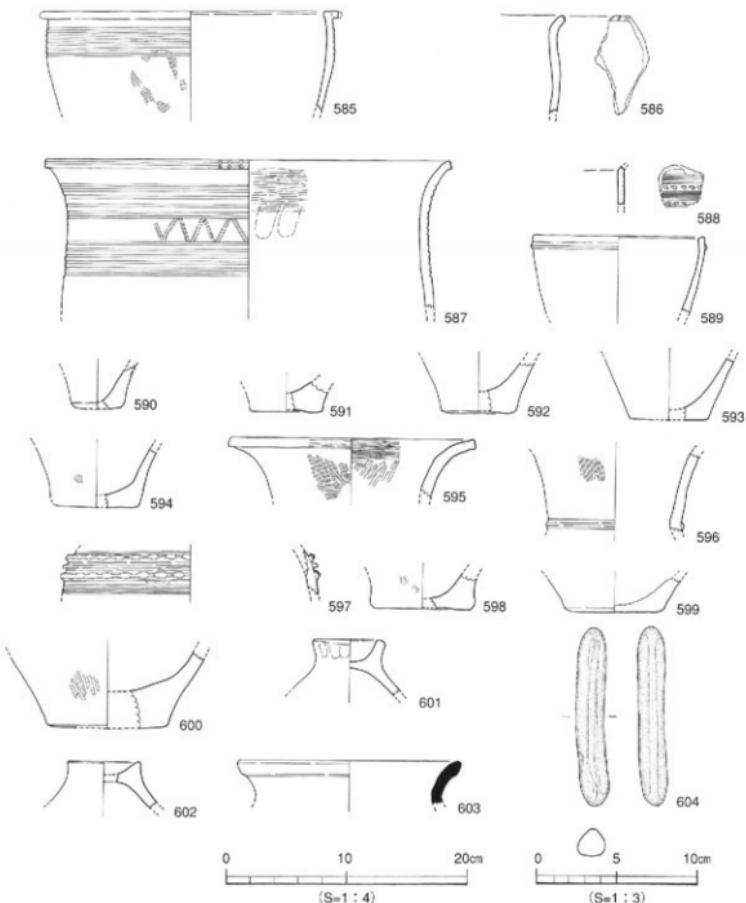
石器(631) 631は完形のスクレイバーである。サヌカイト製。

⑤層出土遺物 (第53図、632~643)

⑤層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器素材が1点出土した。
壺形土器(632~634) 632は折り曲げ口縁。無文。633・634は底部片で、平底となる。

壺形土器(635~642) 635・636は直立する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。635は頸部にヘラ描き沈線文1条を施す。637は口頸部片で、内面に凸帯文1条を施す。638・639は頸部片。ヘラ描き沈線文と凸帯文を施す。640~642は底部片。640は平底、641・642はわずかに上げ底となる。

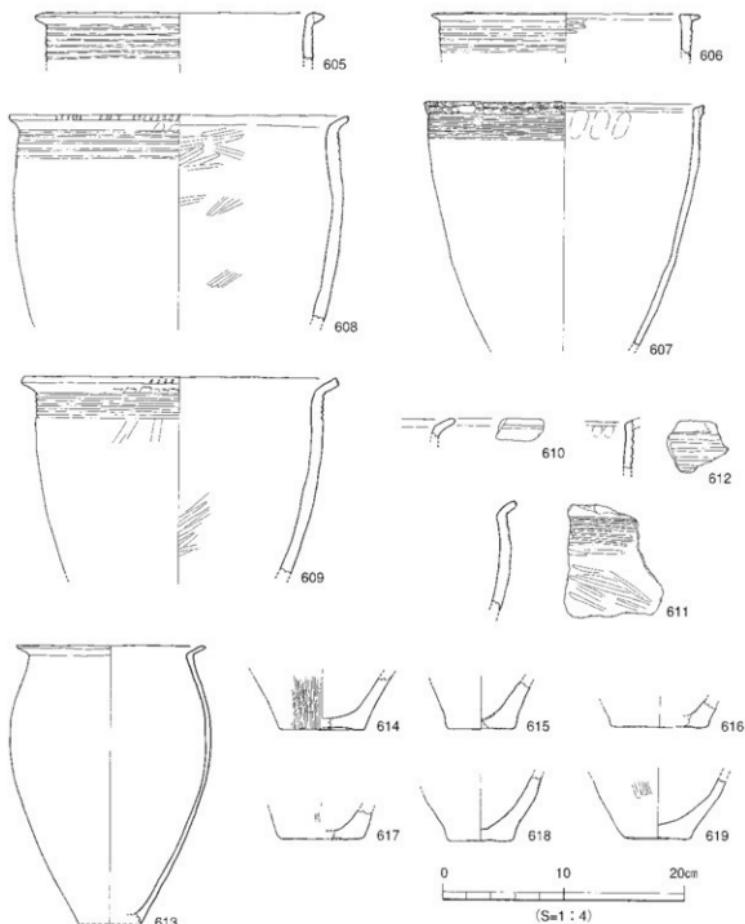
石 器(643) 643は石器素材と思われる。結晶片岩製。



第50図 SD2②層出土遺物実測図

⑦層出土遺物（第54図、644～652）

⑦層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と、柱状片刃石斧が1点出土した。壺形土器(644～650) 644・645は直立する頭部に、短く外反する口縁部をもつ。644は頭部にヘラ描き沈線文、645は凸帶文1条を施し、凸帶上に連鎖状刻目文2列を加える。645の内面には凸帶文1条を施す。646・647は肩～胴部片。647は格子目文を施す。648～650は底部片。648・649はわずかに上げ底、650は平底となる。



第51図 SD2(4)層出土遺物実測図(1)

鉢形土器(651) 651は貼付口縁。無文。内面にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

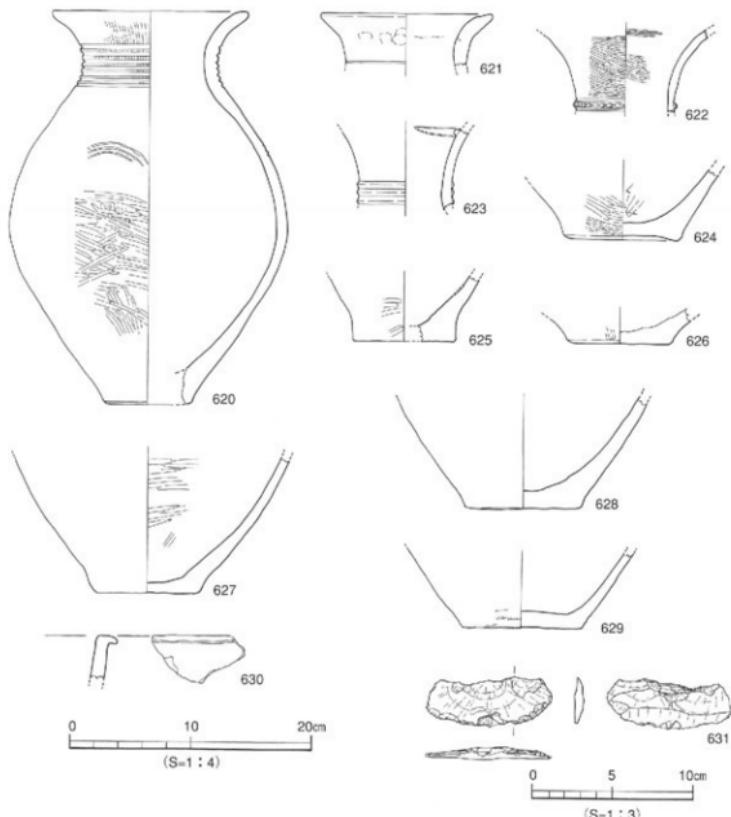
石 器(652) 652は柱状片刃石斧である。刃部は欠損している。石材は不明。

地点不明出土遺物 (第54図、653)

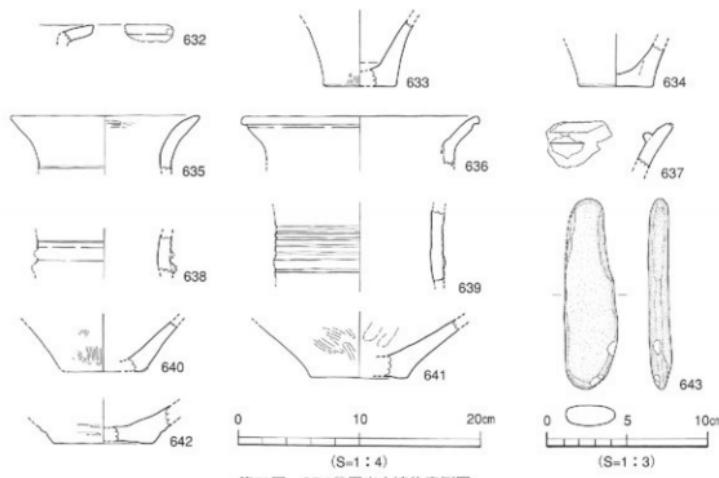
S D2からは、出土層位や出土地点の不明な遺物が少量ある。ここでは、地点不明出土遺物として掲載する。

石 器(653) 653はほぼ完形の石庖丁の木製品である。結晶片岩製。

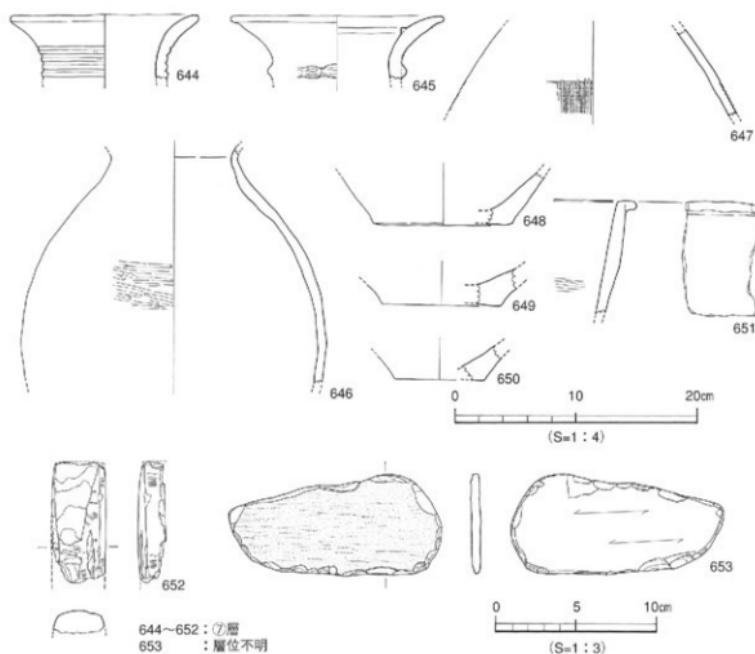
時期：出土した変形土器、壺形土器は弥生時代前期末～中期初頭の形態を示している。よって、S D2は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第52図 SD2④層出土遺物実測図(2)



第53図 SD2(5)層出土遺物実測図



第54図 SD2(7)層・層位不明出土遺物実測図

(2) 土坑(SK)

弥生時代の土坑は16基を検出した。時期別にみると、前期末～中期初頭の土坑は11基、中期後半の土坑は5基となる。前者は平面形態で3種類に分類でき、長方形土坑4基、橢円形土坑4基、方形土坑3基となる。ここでは、時期と平面形態別に各土坑の説明をする。

1) 弥生時代前期末～中期初頭

①長方形土坑

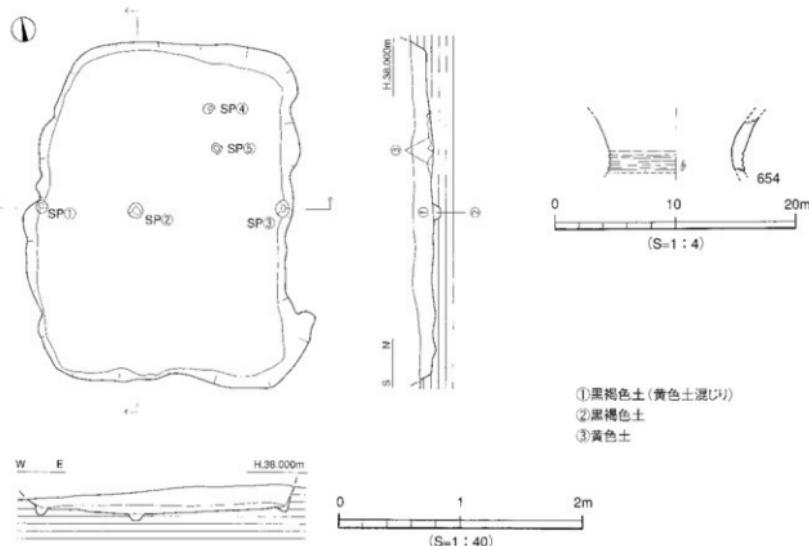
SK2(第55図・図版9)

調査区中央部、B6～C7区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ2.80m、幅2.22m、深さ16cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。基底面には凹凸があり、遺構北側がやや高くなっている。基底面北半部からは径10～15cmの小ピット5基(S P ①～⑤)を検出した。そのうちの3基(S P ①～③)は、東西主軸上の東西壁際と中央部に直線上に並んでいる。ピット埋土はすべて黒褐色土單層である。遺物は埋土中より、弥生土器片が少量出土した。

出土遺物

壺形土器(654) 654は緩やかに外反する頭部片で、ヘラ書き沈線文4条以上を施す。

時期：出土した遺物の特徴と土坑埋土がSD1・2と酷似することから、SK2は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第55図 SK2測量図・出土遺物実測図

SK3 (第56図)

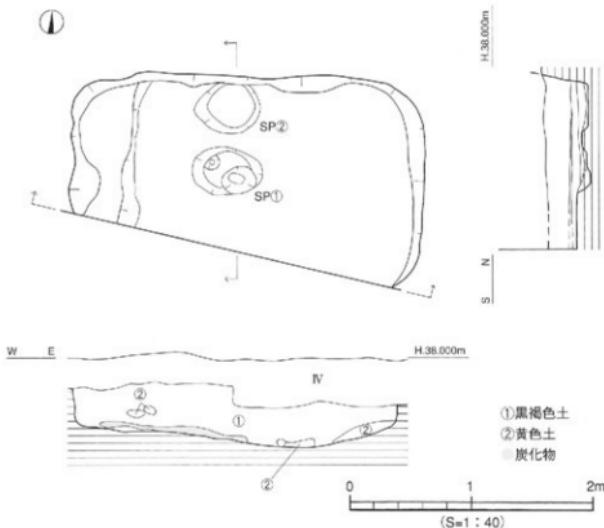
調査区中央部南側、D6・7区に位置する。遺構の南部分は調査外に続く。平面形態は長方形を呈するものとみられ、規模は東西長2.94m、南北検出長1.60m、深さ45cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土単層であるが、黄色土がブロック状に混入する。基底面は西側に幅20~30cmの浅いテラスをもち、中央部北側には径50cm、深さ10cmのピット2基(S P①・②)を検出した。ピット埋土は黒褐色土単層である。基底面南西部にて炭化物を検出したが、平面プランは図化していない。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期判断はしかねるが、土坑埋土がSK2と酷似することから、SK3は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

SK11 (第57図)

調査区中央部北西寄り、B6区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ0.80m、幅0.54m、深さ21cmを測る。今回検出した土坑の内では、最も規模の小さな土坑である。断面形態は皿状で、土は黒褐色土単層であるが、土坑西壁付近に焼土と褐色土がブロック状に混入する。また、基底面にて炭化物を検出したが、これらの平面プランは図化していない。基底面中央部や北寄りにて、小ピット1基(S P①)を検出した。規模は径10cm、深さ10cmを測り、埋土は黒褐色土単層である。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：出土した遺物と埋土より、SK11は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第56図 SK3測量図

SK10 (第58図・図版9)

調査区中央部、B6区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ1.30m、幅0.80m、深さ20cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土單層である。基底面南側より小ピット1基(S P①)を検出した。規模は径10cm、深さ5cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土單層である。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく、時期特定はしかねるが、埋土がSK14に酷似することから、SK10は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

SK14 (第59図)

調査区中央部北東寄り、A・B9区で検出した。遺構南西部は遺存状況が悪く、壁体は消失している。平面形態は長方形を呈するものとみられ、規模は長さ3.20m、幅2.10m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状であり、埋土は黒褐色土單層である。基底面は中央部がわずかに凹むが、ほぼ平坦である。基底面にて大小4基のピット(S P①～④)を検出した。ピット埋土はすべて黒褐色土單層である。遺物は埋土中より弥生土器片が少量出土したが、図化するものはない。

時期：出土した遺物と埋土より、SK14は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

②楕円形土坑**SK1 (第60図・図版9)**

調査区中央部、C6～D7区に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径2.83m、短径1.94m、深さ35cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土單層であるが、北壁中央部にのみ黑色粘質土が堆積する。基底面には貼り床が施されている。貼り床は黒褐色土(黄色土混じり)で構築され、厚さ10cmを測る。基底面の東西壁際からは円形ピット2基(S P①・②)を検出した。規模は径20cm、深さ15cmを測る。ピット埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土單層である。遺物は埋土中より、弥生土器片が数点と石器1点が出土した。

出土遺物

石器(655) 655はスクレイパーである。片面で片面より刃部が作られる。

時期：出土遺物が僅少で時期特定はしかねる。土坑埋土がSD1・2と類似することから、SK1は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

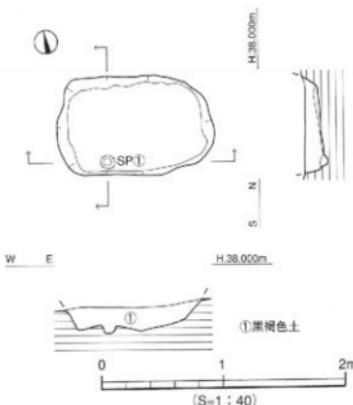
SK12 (第61図)

調査区中央部北東寄り、B8区に位置し、調査区北壁に接するように検出した。平面形態は不整の楕円形を呈し、規模は長径2.22m、短径1.80m、深さ19cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土を基調とし、黄色土がブロック状に混入する。基底面は西側がわずかに高く、テラス状の平坦面をもち、東側は土坑中央部に向かって緩やかに傾斜している。テラスと土坑基底面との境に小ピット1基(S P①)を検出した。規模は径20cm、深さ10cmを測り、埋土は黒褐色土單層である。土坑内からの遺物の出土はない。

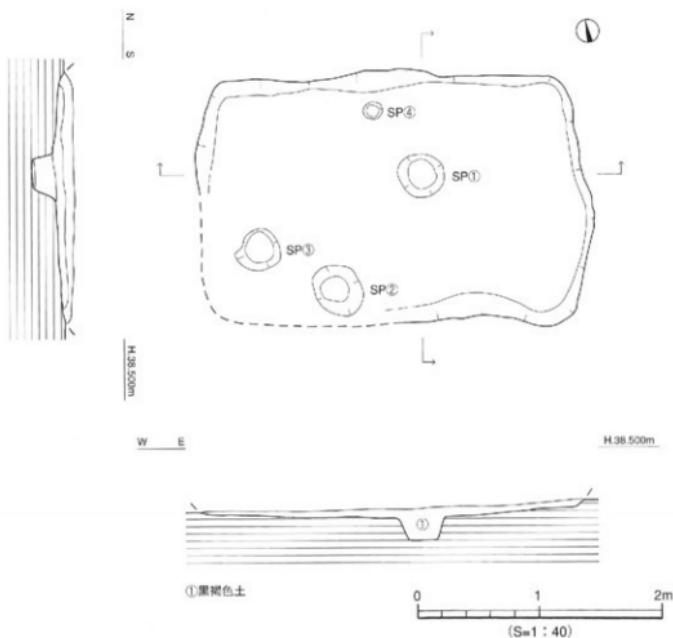
時期：埋土がSK2・3に酷似することから、SK12は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。



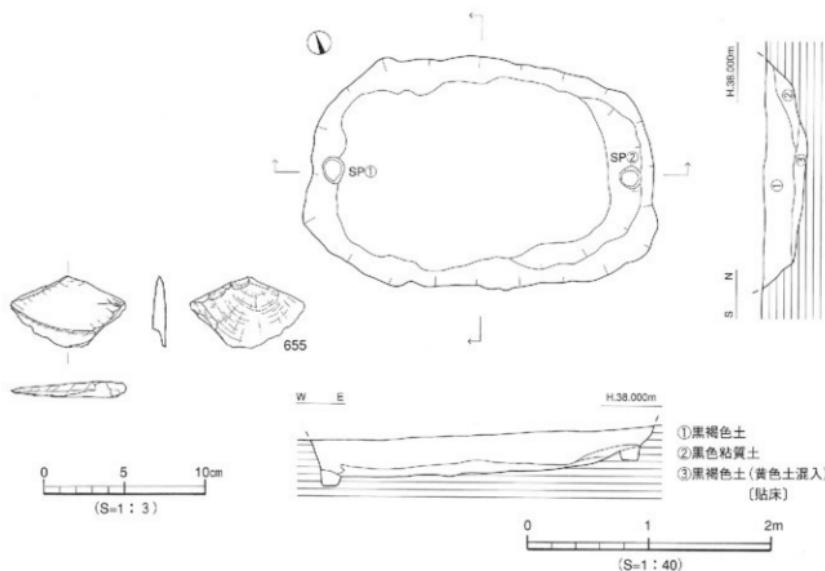
第57図 SK11測量図



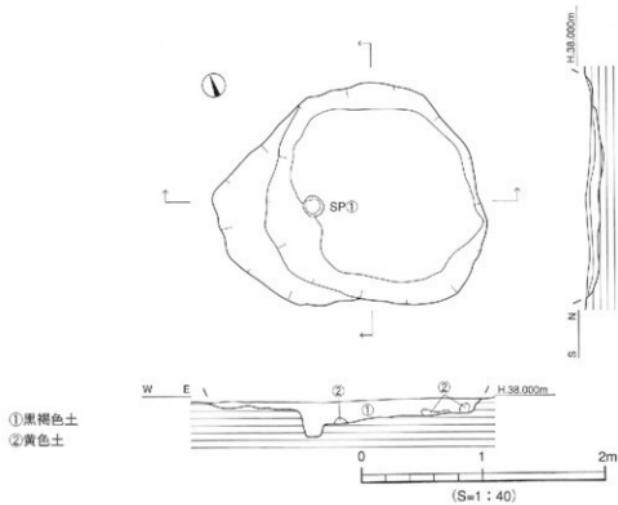
第58図 SK10測量図



第59図 SK14測量図



第60図 SK1測量図・出土遺物実測図



第61図 SK12測量図

S K13 (第62図)

調査区中央部北東寄り、A9区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は、丸味をもつ2ヶ所のコーナー部を検出したため、楕円形もしくは円形と思われる。規模は東西長2.00m、南北検出長1.24m、深さ28cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土単層である。基底面は平坦で、南側中央部からビット1基(S P①)を検出した。規模は径45cm、深さ20cmを測り、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。遺物は埋土中より、弥生土器片が数点と砥石1点が出土した。

出土遺物

壺形土器(656・657) 656は折り曲げ口縁、657はやや丸味のある薄い平底となる。

石器(658) 658は砥石である。側面に細かい金属器で削った痕跡が認められる。両面及び側面に断面「V」字状の線状使用痕が認められる。

時期：出土した遺物の特徴より、SK13は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

③方形土坑**S K7 (第63図)**

調査区南壁中央部、D4・5区に位置し、南側は調査区外に続く。平面形態は方形を呈するものとみられ、規模は東西長3.00m、南北検出長1.15m、深さ40cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は2層に分層され、①層黒褐色土、②層黒色土である。基底面は西側がわずかに高くなっている。基底面中央部東寄りに、小ビット2基(S P①・②)を検出した。径8～12cm、深さ5cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土単層である。土坑内からは、遺物の出土はない。

時期：埋土がSK11・14と酷似することから、SK7は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

S K9 (第64図)

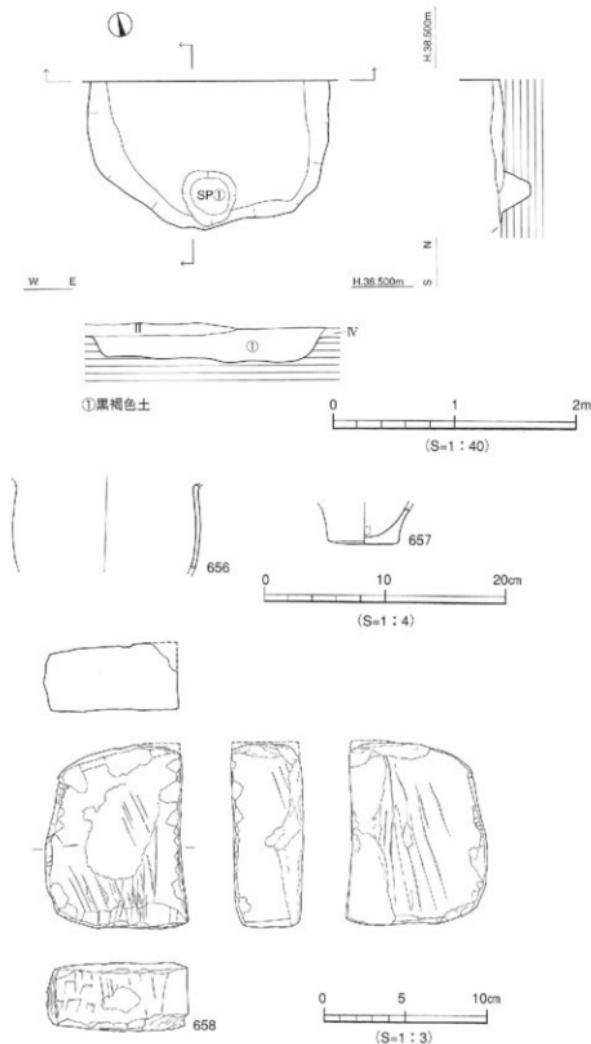
調査区北壁中央部、A6区に位置する。北側部分は調査区外に続くために、遺構の全容は明らかではないが、残存する2ヶ所のコーナー部を検出したことより、平面形態は方形を呈するものとみられ、規模は東西長1.70m、南北検出長1.35m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土単層である。基底面より小ビット1基(S P①)を検出した。規模は径10cm、深さ5cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土である。基底面はほぼ平坦である。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、岡化しうるものはない。

時期：出土した遺物の特徴と埋土より、SK9は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

S K15 (第65図)

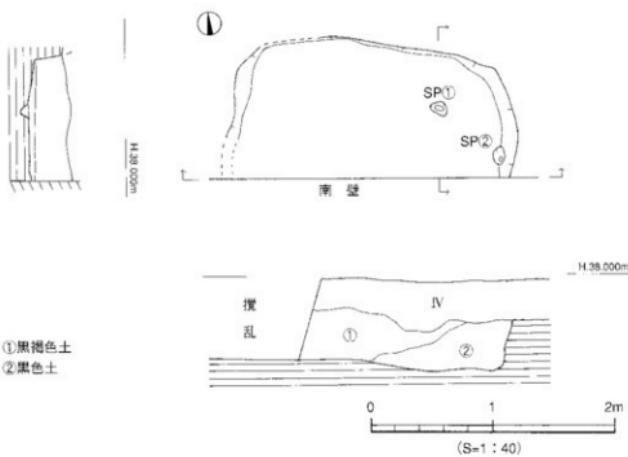
SD1の東側、C5区で検出した。遺構北西部はSD1と重複するが、切り合い関係は判断できなかった。平面形態は不整形で、規模は長さ2.03m、幅1.70m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土を基層とし、黄色土がブロック状に混入する。基底面はほぼ平坦である。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：埋土がSK10・13・14と酷似することから、SK15は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

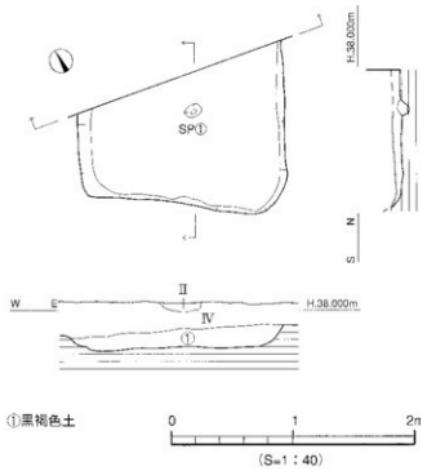


第62図 SK13測量図・出土遺物実測図

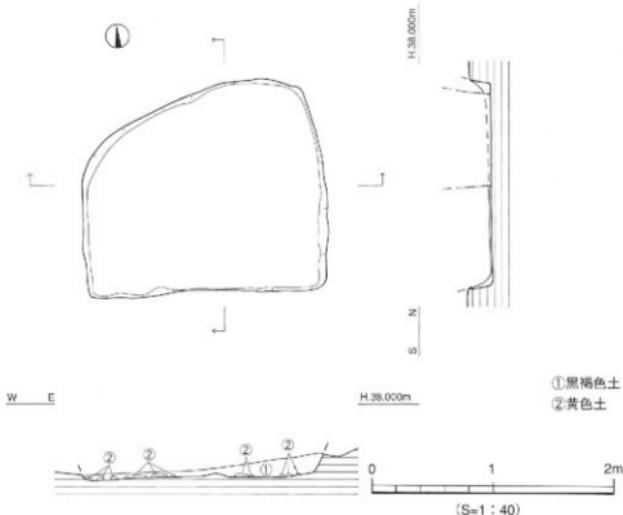
遺構と遺物



第63図 SK7測量図



第64図 SK9測量図



第65図 SK15測量図

2) 弥生時代中期後半

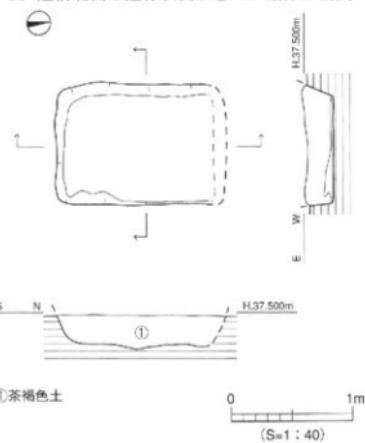
SK5 (第66図)

調査区中央部南西寄り、D4区に位置し、SD1を切る。遺構北側は遺存状況が悪く、壁体は消失している。平面形態は長方形を呈するものとみられ。規模は南北検出長1.42m、東西長1.00m、深さ25cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土単層である。基底面はわずかに土坑中央部がくぼむ。遺物は埋土中より、弥生土器片と石器が出土した。

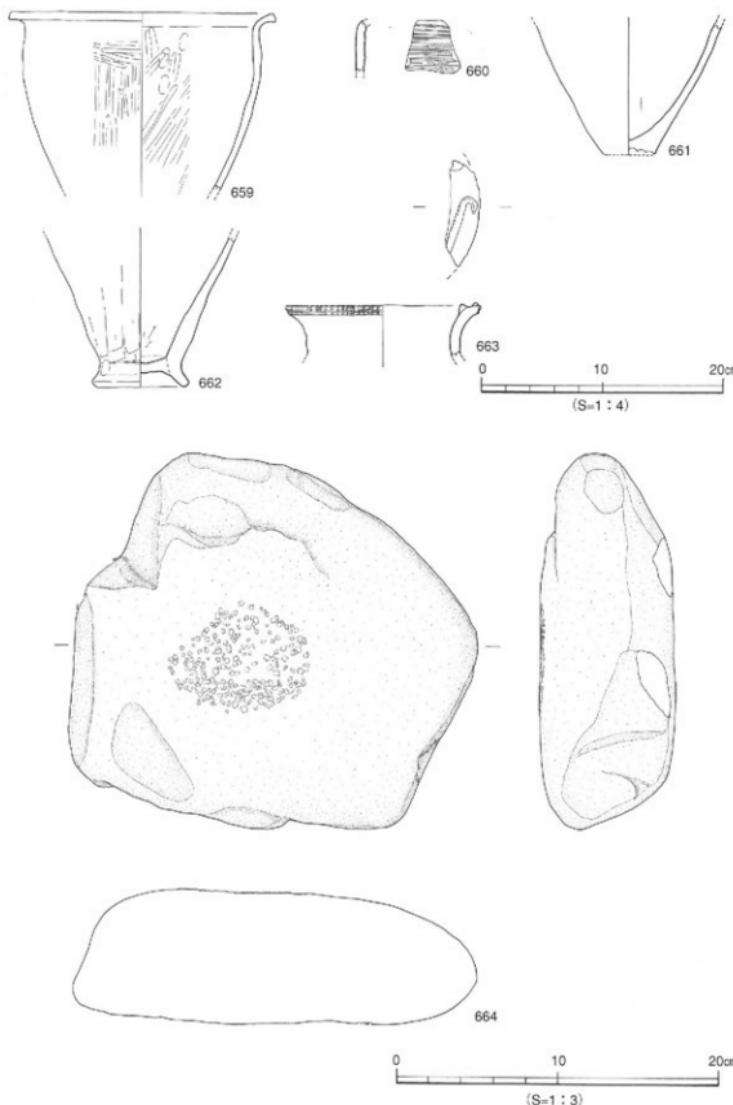
出土遺物（第67図） 豊形土器(659～662)
659は無文の折り曲げ口縁。660は折り曲げ口縁で、胴部にヘラ描き沈線文を施す。661・662は底部。661は小さな底部、662はくびれをもつ上げ底となる。

壺形土器(663) 短く外反する口頭部。口縁端面にヘラ描き沈線文と刻目、口縁部内面に注口状の凸帯文を施す。石器(664) 664は台石である。片面の中央部が凹み、細かく押打した使用痕が認められる。

時期： SD1を切ることと壺形土器（659）の特徴より、SK5は弥生時代中期後半の遺構とする。



第66図 SK5測量図



第67図 SK5出土遺物実測図

SK4 (第68図)

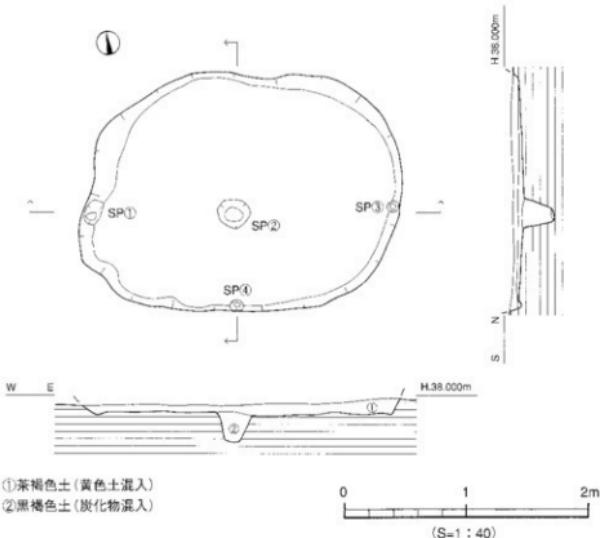
調査区中央部、B・C 8区に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径2.63m、短径1.95m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土と黄色土の混合土である。基底面は中央部がわずかにくぼむ。基底面からは4基のピット(S P①～④)を検出した。北壁を除く壁際には、径10～20cm、深さ5cmの浅いピットが3基(S P①・③・④)ある。ピット埋土は黒褐色土単層である。また、中央部に径30cm、深さ25cmのピット1基(S P②)があり、埋土中に炭化物が混入している。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、同化しうるものはない。

時期：埋土がSK5に類似することから、SK4は弥生時代中期後半の遺構としておく。

SK16 (第69図)

SD2の東側、D12区で検出した。西側をSP32に切られ、南側は調査区外に続く。平面形態は、楕円形を呈するものとみられ、規模は南北検出長1.75m、東西長1.30m、深さ15cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土に黄色土が混入する。基底面はほぼ平坦である。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：埋土がSK4と類似することから、SK16は弥生時代中期後半の遺構としておく。



第68図 SK4測量図

SK6 (第70図)

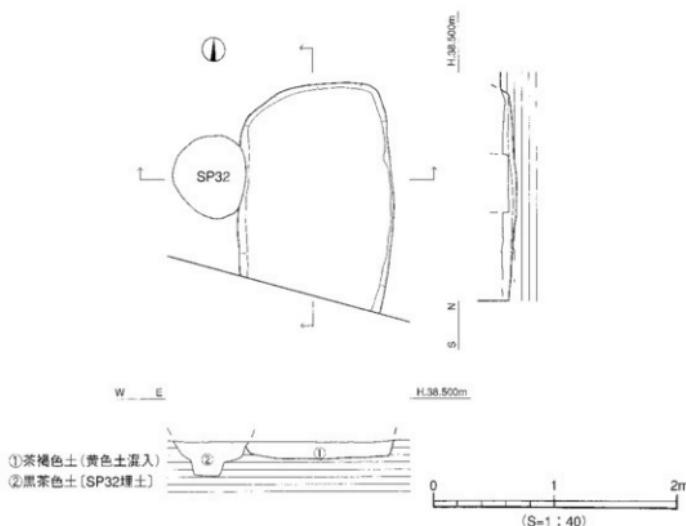
調査区中央部北西寄り、B5区に位置し、SD1のテラス部基底面で検出した。基底部をわずかに残すものであり、平面形態も不定形と明確でない。規模は長軸2.16m、短軸1.75m、深さ5cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土単層である。基底面にはやや凹凸がみられる。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：SD1を切ることと埋土がSK5と酷似することから、SK6は弥生時代中期後半の遺構としておく。

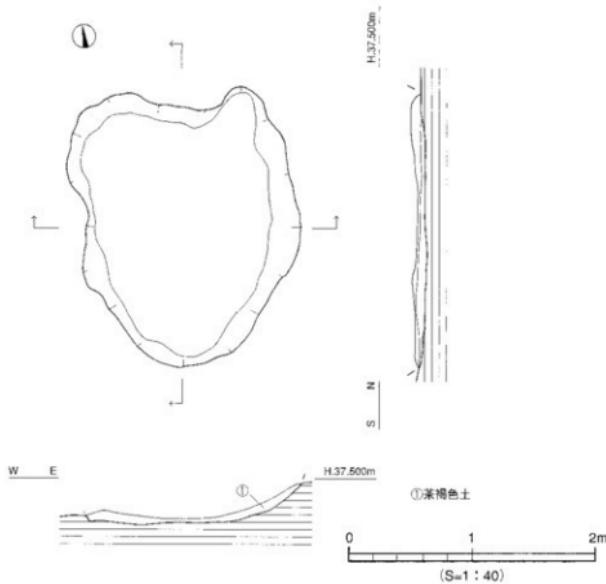
SK8 (第71図)

調査区中央部西寄り、B・C5区に位置し、SD1のテラス部基底面で検出した。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ1.52m、幅1.30m、深さ30cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は上下2層(①・②層)に分層でき、①層は茶褐色土、②層は茶褐色土に黄色土が混入する。基底面は遺構南側がややくぼむ。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：SD1を切ることと埋土がSK5に酷似することから、SK8は弥生時代中期後半の遺構とする。



第69図 SK16測量図



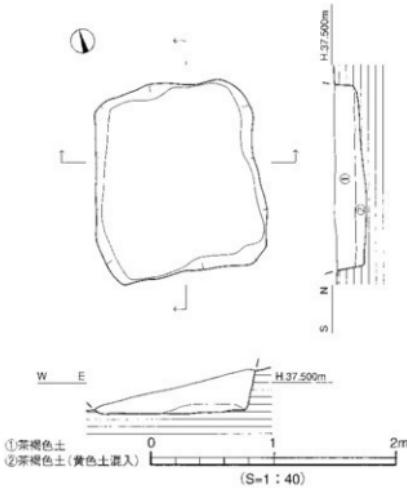
第70図 SK6測量図

(3) 柱穴 (SP) 出土遺物 (第72図)

本調査では、柱穴内から弥生時代の遺物が出土している。ここでは、実測図のみを掲載した。

壺形土器(665~672) 665はSP 83出土品で、口縁端面に刻目を施す。666はSP 29出土品で、「く」の字状口縁である。667はSP 3出土の胴部片で、ヘラ描き沈文線と刺突文を施す。668~672は底部。668・669はSP 53出土品。668はくびれの上げ底で、胴部の張りが弱い。669は脚台風の底部である。670はSP 92出土品で、くびれの上げ底となる。671はSP 38、672はSP 82出土品で平底となる。

壺形土器(673) SP 24出土品で、平底となる。



第71図 SK8測量図

高坪形土器(674・675) 674・675はS P 56出土品。675は脚裾部に凹線文3条が巡る。

石器(676) S P 90出土の柱状片刃石斧である。断面形態はわずかに丸味をもつ四角形となる。

(4) 第IV層出土遺物 (第73図)

本調査では、第IV層中より弥生時代に時期比定される遺物が出土した。ここでは、第IV層中から出土した遺物のうち28点の実測図を掲載した。

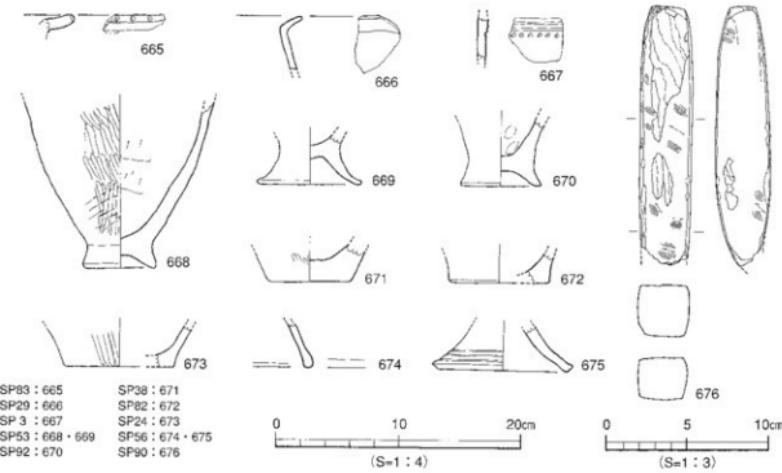
甕形土器(677～687) 677～680は口縁部片。677は逆「L」字状に強く外反し、口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。678は水平近くに強く外反した口縁部で、頭部に刻目凸帯文を1条施す。679・680は「く」の字状口縁で、679は内外面共にヘラミガキ調整を施す。679は口縁端部が丸味のある面をもち、680は「コ」字状となる。681～687は底部片。681・685・686・687は平底、682・684はわずかに上げ底、683はくびれの上げ底となる。

壺形土器(688～700) 688は口縁端部は丸味のある面をもつ。外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施す。689は細長い筒状の頸部上位に、穿孔を2ヶ所施す。頸部外面に沈線文と凸帯文(連鎖状刻目文1列)、内面に凸帯文を施す。690～700は平底の底部片である。

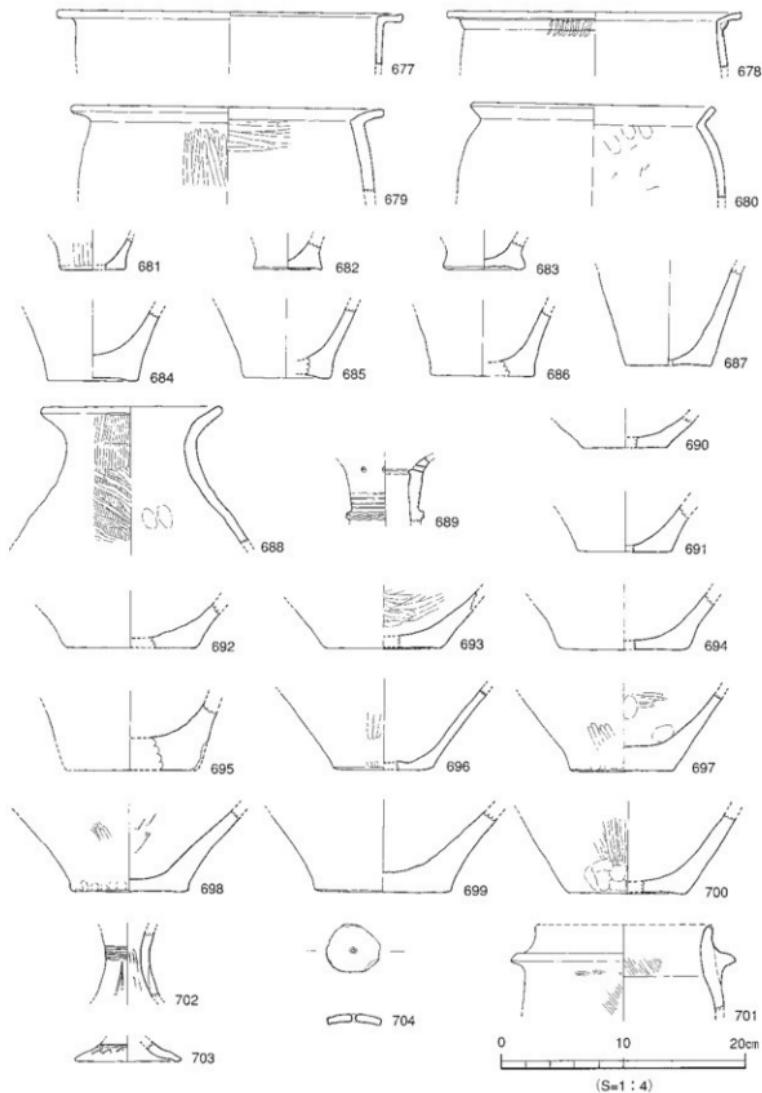
鉢形土器(701) 直立気味の口縁部。口縁下に断面三角形状の凸帯が巡る。

高坪形土器(702・703) 702は柱部で、上位で若干すぼまり、その後緩やかに広がる。外面に極めて細いヘラ描き沈線文6条と、貫通しない矢羽根透かしを4ヶ所に施す。703は大きく外反する脚裾部。外面にヘラ描き沈線文と山形文を施す。

紡錘車(704) 土器洞部片の再利用品のため、湾曲がみられる。中央部に両面から径0.3cm大の孔を穿つ。



第72図 柱穴出土遺物実測図



第73図 第IV層出土遺物実測図

4. 古墳時代～古代の遺構と遺物

本調査では、古墳時代の遺構は未検出であるが、古代の遺構は性格不明遺構1基がある。第Ⅲ層中からは、古墳時代から古代の遺物が出土している。

(1) 性格不明遺構

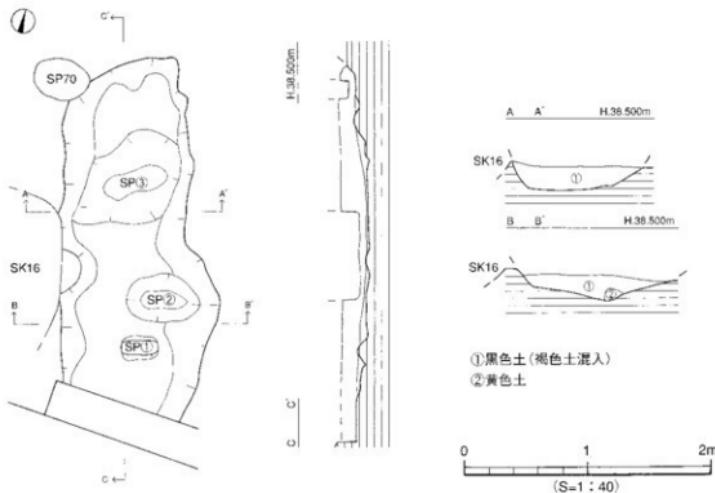
S X1 (第74図)

調査区東側、D12区に位置する。SK16と重複し、南側は調査区外に続く。平面形態は不整形な長方形である。規模は検出長3.80m、幅1.30m、深さ22cmを測る。断面形態は舟底状を呈し、埋上は黒色土に褐色土が混入する。壁体は緩やかに立ち上がる。基底面にて大小3基のピット(S P ①～③)を検出した。ピット埋土は土坑埋土と同様の黒色土である。遺物は埋土中より弥生土器片、土師器片、須恵器片が少量出土している。

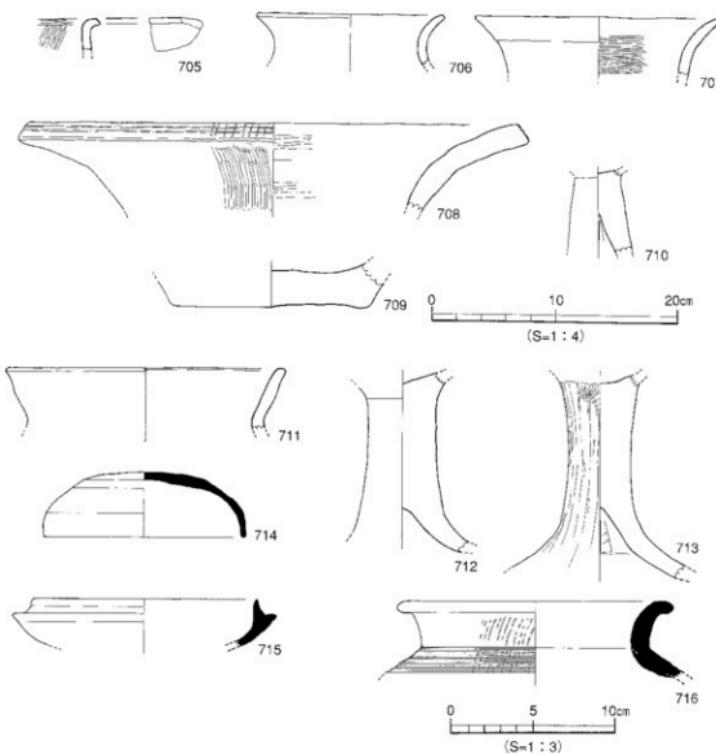
出土遺物 (第75図)

705は変形土器の口縁部。折り曲げ口縁で、内面にヘラミガキ調整を施す。706～709は壺形土器。706～708は口縁部。708の口縁端面にはヘラ描き沈線文2条と刻日を施す。709は大きく厚い平底である。710は高环形土器の脚部である。711～713は土師器。711は変形土器で、口縁端部は内傾する。712・713は高环形土器の柱部である。713は柱部外面に縱方向のヘラケズリを施す。714～716は須恵器。714は坏蓋で、天井部は丸味をもち、口縁部は垂下する。715は坏身で、受部はほぼ水平に伸び、端部は尖る。たちあがりは低く内傾する。716は蓋で、口縁部は短く外反し、口縁端部は水平に突き出し尖縁状となる。

時期：出土した遺物の特徴より、S X1は古代、7世紀代の遺構とする。



第74図 SX1測量図



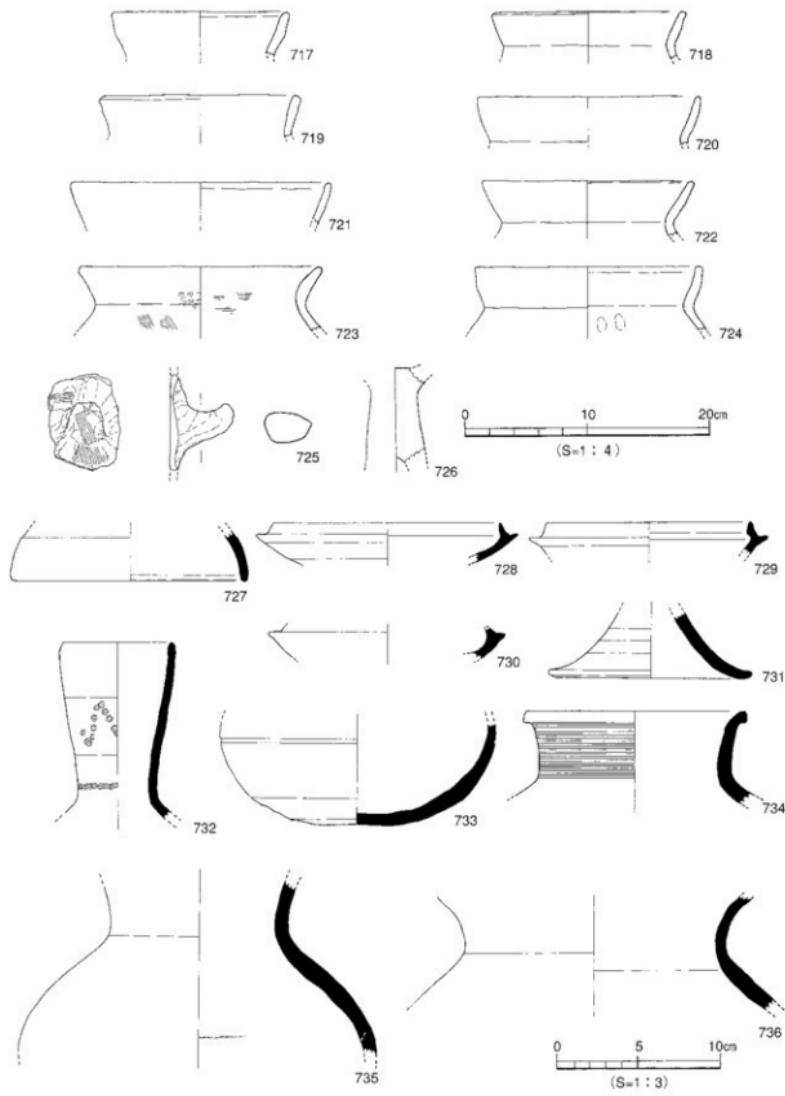
第75図 SX1出土遺物実測図

(2) 第III層出土遺物 (第76・77図、図版18)

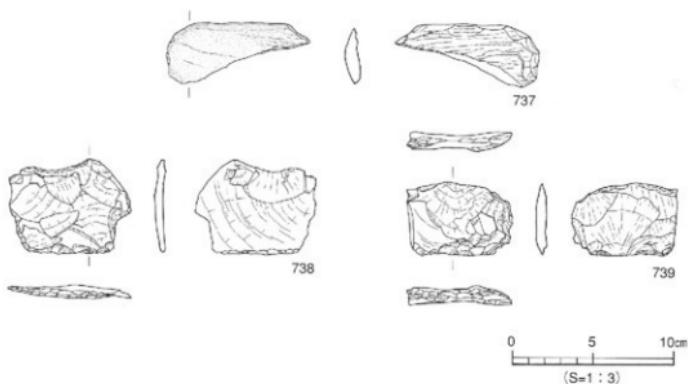
本調査では、第III層中より古墳時代～古代の遺物が出土した。ここでは、第III層中から出土した遺物のうち23点の実測図を掲載している。

上飾器(717～726)

壺形土器(717～724) 717は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は内傾し内側に稜をもつ。718は口縁部中位で肥厚し、口縁端部は「コ」字状となる。719は口縁部中位から端部にかけてやや肥厚し、口縁端部は「コ」字状となる。720は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は先細りする。721は口縁部が内湾し、口縁端部はやや内傾する。722は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は丸味をもつ。723は口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は丸味をもつ。724は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は「コ」字状となる。



第76図 第III層出土遺物実測図(1)



第77図 第III層出土遺物実測図(2)

瓢形土器(725) 725は把手部の破片で、上方に緩やかに湾曲する。

高環形土器(726) 726は中実の細長い柱部。

須恵器(727～736)

727は坏蓋。天井部と口縁部の境に甘い稜をもつ。口縁端部に細い凹線が1条巡る。728～730は坏身。728のたちあがりは短く内傾し、中位付近で稜をもち直立する。たちあがり端部は先細りする。729のたちあがりは短く内傾し、端部は先細りする。730のたちあがりはやや内湾する。受部は短く水平である。731は高环の脚部で、大きく外反する。732は長頸壺。外傾ぎみに立ち上がる細長い口頸部をもち、口縁部付近で内湾する。頸部外面に竹管文を施す。733・734は壺。733は丸底の底部で、肩胴部境に沈線文が1条巡る。734は外傾ぎみに立ち上がる口頸部をもつ。外面に回転力カキメ調整を施す。735・736は甕。735は口頸部は外傾ぎみに立ち上がり、736は口縁部が短く外反する。

石 器(737～739) 737はサヌカイト製の剥片、738・739はサヌカイト製のスクレイパーである。

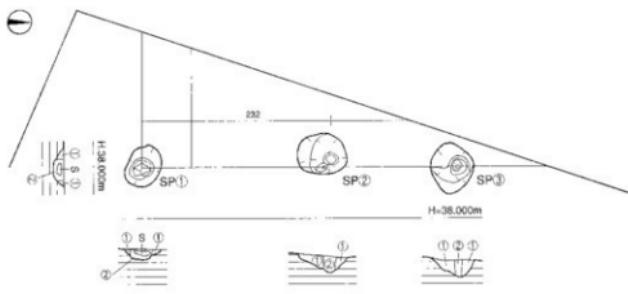
5. 時期不明の遺構と遺物

本調査では、時期特定が困難な遺構に掘立柱建物址がある。3棟の建物址を検出したが、柱穴内からの遺物の出土がなく、ここでは、時期不明の遺構として取り扱っている。

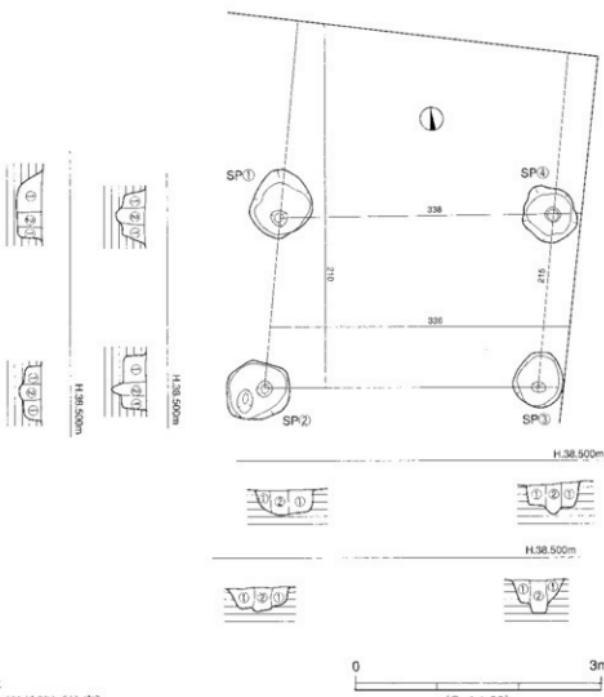
(1) 掘立柱建物址

掘立1 (第78図)

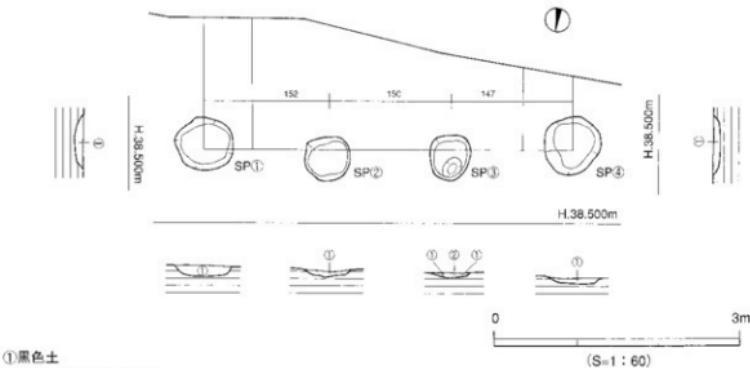
調査区西側、B・C2区に位置し、3基の柱穴(S P①・②・③)を検出した。建物北側と西側は調査区外に統くものと思われる。柱穴の平面形態は円～梢円形を呈し、規模は径45～65cm、深さ13～20cm、柱穴間隔は2.32mを測る。建物の方向は特定できない。柱穴埋土は黒色土単層である。検出した3基には柱痕が見られ、径15～30cm、深さ25cmを測り、柱痕埋土は粘性の強い黒色土である。遺物はS P①の基底面よりやや浮いた状況で、径14×20cm、厚さ5cmの大の扁平な石を検出した。また、柱穴内からは弥生土器片が少量出土したが、図化しうるものはない。



第78図 振立1測量図



第79図 振立2測量図



第80図 掘立3測量図

掘立2 (第79図、図版9)

調査区東側、B12・13区に位置し、1間×1間以上の建物址と考えられる。4基の柱穴(S P ①～④)を検出した。柱穴の平面形態は円～楕円形を呈し、規模は径64～85cm、深さ27～43cm、柱穴間隔は東西長3.38m、南北長2.10～2.15mを測る。柱穴埋土は黒茶色土単層である。柱痕はすべての柱穴で検出され、径15～25cm、深さ25～33cm、柱痕埋土は粘性の強い黒茶色土である。柱穴内からは弥生土器片が少量出土したが、図化しうるものはない。

掘立3 (第80図)

調査区南壁C8・9区、SD2の西側に位置し、東西方向に4基の柱穴(S P ①～④)を検出した。柱穴の平面形態は円形を呈し、規模は径50～72cm、深さ8～14cm、柱穴間隔は1.47～1.52mを測る。柱痕埋土は黒色土単層である。柱痕はS P ③で検出され、径22～25cm、深さ8cmを測る。柱痕埋土は粘性の強い黒色土である。柱穴内からの遺物の出土はない。

6. まとめ

本調査では、弥生時代から古代にかけての遺構と遺物を検出した。遺構は掘立柱建物址、土坑、溝、ピットがあり、遺物は、弥生時代前期末から中期後葉と古墳時代から古代の土器と石器が多数出土している。ここでは特に、弥生時代の資料を取り上げ、遺構と遺物とに分けてまとめを行う。

(1) 弥生時代の遺構：溝2条と土坑16基を検出した。

1) SD1・SD2は検出幅4m前後、深さ1～1.2mを測る大型の溝である。埋土中に砂を含まないことから、空掘りの「壕」と考えられる。両者は規模、断面形態、埋土が類似すること、溝内から出土した遺物が弥生時代前期末～中期初頭に時期比定されることから、ほぼ同時期に併存していたものと推測される。SD1は、調査地に隣接する久米高畠遺跡23次調査地検出の溝SD001と同一のものであり、SD1はその形状から環濠の可能性がある。

2) 土坑は16基を検出した。時期別にみると、弥生時代前期末～中期初頭の土坑は11基、中期後半の土坑は5基である。このうち、SD1とSD2とで挟まれた地域内には、SK16を除く15基の土坑が存在する。特にSD1・2と同時期に存在したものと考えられる土坑は、前述の11基がある。これらの土坑は平面形態で3種類に分類でき、長方形土坑4基、楕円形土坑4基、方形土坑3基となる。規模でみると、長方形と楕円形を呈するものでは、大型・小型の2者がみられる。大型土坑は長軸2.5～3.0m、短軸1.5～2.0mを測り、小型土坑は長軸0.8～1.2m、短軸0.5～0.8mを測る。断面形態は遺存状況が良好でなく、明確な判断はしかねるが、SK7とSK15は壁体の一部がほぼ垂直に立ち上がるところから、貯蔵穴の可能性がある。ただし、いずれの土坑内からも遺物の出土は僅少であり、土坑の性格は断定しえない。

(2) SD1・2出土遺物

本調査では、SD1とSD2より、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と石器が多量に出土した。土器は壺形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、蓋形土器、ミニチュア品と円盤状土器製品がある。上器の中には、外来的要素の強いものが2点出土している。また、貝殻文を施した土器が3点出土している。このほか、SD1より繩文時代晚期の浅鉢片が1点出土している。

石器は石鎌、石庖丁、加工斧、伐採斧、砥石、敲石、台石、スクレイパー、石核、剥片が出土した。ここでは、土器と石器とに分けて、若干の分析を行う。

1) 土製品

① 器種と器形

弥生時代前期末から中期前葉の土器は、299点が数えられた。各器種の出土量は、壺形土器173点、壺形土器87点、鉢形土器32点、蓋形土器4点、高坏形土器2点、ミニチュア品1点である。また、各器種の構成比は壺形土器57.8%、壺形土器29.1%、鉢形土器10.7%、蓋形土器1.3%、高坏形土器0.7%、その他0.4%となる。壺形土器は出土量の半数を占め、壺形土器は約30%となり、この二器種が主要のものとなっていることがわかる。鉢形土器は、個体識別の問題もあるが、若干の増加を考えても、15%程度にとどまるものと考えられる。

次に、各器種の器形態について整理する。

壺形土器 口縁部の成形手法により、3つに分類される。折り曲げによるもの(a類)、口縁端部に粘土紐を貼り付けるもの(b類)、口縁部よりやや下がる位置に粘土紐を貼り付けるもの(c類)がある。壺形土器は148点あり、これらの比率はa類が64点(43.2%)、b類が83点(56.1%)、c類が1点(0.7%)である。a類とb類が量的に主体をなし、c類は極少量であることがわかる。

法量でみると、口径35cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品がある。大型品は5点出土しており、口縁部形態はa類が2点、b類が3点となる。中・小型品は143点出土しており、a類が62点、b類が80点、c類が1点となる。

器形態は、胴部にやや膨らみをもち、胴上半部は直立気味に立ち上がる。さらに、胴部最大径は口径を凌ぐことはなく、口径に近い値を示す。底部形態はやや厚い平底が多く、わずかに上げ底を呈するものもある。

壺形土器：出土品は、口径が30cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品があり、口縁部の形態には幾つかのものがみられる。

大型品は2点出土している。頸部径は広く、短い口縁部をもつ。中・小型品は82点出土している。筒状の長い口縁部をもつもの(I類)、短頭のもの(II類)、頸部が内傾した後、短く外反するもの(III類)、頸部が直立ないし外傾するもの(IV類)に分類される。これらの比率は、I類が37点(45.1%)、II類が2点(2.4%)、III類が30点(36.6%)、IV類が13点(15.9%)となる。I類とIII類の出土量が多く、II類は極少量であることがわかる。

胴部形態は球形化を呈し、特にI類が胴部中位に最大径をもつようになる。底部形態はやや厚い平底が多く、わずかに上げ底を呈するものも1/3程度みられる。

鉢形土器：口径が30cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品がある。口縁部の成形方法により、折り曲げるものの(A類)、口縁端部に粘土紐を貼り付けるもの(B類)、直口口縁のもの(C類)に分類される。大型品は5点出土しており、A類が2点、B類が3点となる。中・小型品は27点出土しており、A類が17点、B類が8点、C類が2点となる。

蓋形土器と高环形土器、ミニチュア品については、出土事例と遺存状況が良好でないため、論考をひかえる。

② 施文

本資料では、壺形土器と壺形土器は加飾性が強く、鉢形土器は無文である傾向が強い。以下、各器種の施文について整理する。

壺形土器：口縁端面と胴上半部に加飾されるものが多く、全く加飾のないものも少量ある(表1)。

口縁端面には刻目を施すものが多く、148点中70点(47.3%)ある。小数例では、端面に沈線文を施した後、刻目を入れるもの(1点)や、押圧文を施すもの(1点)、連鎖状刻目文を施すもの(2点)がある。

表1 壺形土器の施文一覧

		口 縁 端 面						胴 部							
		点数	無文	刻目文	沈線文+刻目	押圧文	連鎖状刻目文	点数	無文	沈線文	沈線文+刻文	沈線文+山形文	沈線文+竹管文	沈線文+刺突文+山形文	凸葉文
S型	a類	53	21	32	0	0	0	53	11	14	26	0	0	2	0
	b類	73	37	34	0	1	1	73	19	26	26	1	0	1	0
	小片	0	0	0	0	0	0	22	0	0	7	3	2	10	0
D型	a類	2	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
	b類	3	1	2	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0
	小片	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1	0	0	0
1型	a類	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	計	132	62	68	0	1	1	157	31	41	65	5	2	13	0
S型	a類	9	6	2	1	0	0	8	3	2	2	1	0	0	0
	b類	6	5	0	0	0	1	6	1	4	0	0	0	0	1
	c類	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	小片	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
D型	計	16	12	2	1	0	1	16	4	6	3	1	0	0	1
合 計		148	74	70	1	1	2	173	35	47	68	6	2	13	1

ま と め

胴部には、173点中138点(79.8%)の土器に加飾が行われる。文様は、多重沈線文为主要で、刺突文や山形文が組み合うものも多い。これらの比率は、沈線文のみを施すもの47点(27.1%)、沈線文と刺突文が組み合うもの69点(39.3%)、沈線文と山形文が組み合うもの6点(3.5%)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの13点(7.5%)となる。小数例として、沈線文と竹管文が組み合うものが2点、凸帯文を施すものが1点ある。

胴部に加飾される沈線文は、様々な工具により施されている。沈線文の技法には、以下の4種類がある。

技法a：ヘラ状工具により、単独の線で描かれる沈線文。

技法b：2条1組の工具による沈線文。

技法c：ヘラ状工具を束ねて施したと思われ、3条以上を1組とした工具による沈線文。

技法d：いわゆるクシ状工具による沈線文。

表2 壺形土器の口縁部施文一覧

		口 縁 端 面							口 縁 部 内 面				
		点数	無文	刻目文	沈線文	沈線文+刻目文	多格子文	羽状文	点数	無文	凸帯文	凸帯文(刻目)	凸帯文(押正)
S D 1	I類	36	10	9	1	8	5	3	36	11	12	12	1
	II類	2	1	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0
	III類	28	13	9	0	4	2	0	28	28	0	0	0
	IV類	8	4	4	0	0	0	0	8	8	0	0	0
	大型	2	0	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0
計		76	28	23	1	13	8	3	76	49	14	12	1
S D 2	I類	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	II類	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	III類	2	1	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0
	IV類	5	5	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
	小片	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
計		8	7	0	1	0	0	0	9	8	1	0	0
合 計		84	35	23	2	13	8	3	85	57	15	12	1

表3 壺形土器の頸・肩・胴部施文一覧

		頸 部							肩・胴 部							
		点数	無文	沈線文	凸帯文	多格子文	刻目文	凹紋	点数	無文	沈線文	凸帯文	多格子文	刻目文	凹紋	
S D 1	I類	36	5	8	6	2	2	8	3	2	23	0	1	9	2	0
	II類	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	III類	28	25	2	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	IV類	8	5	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	小片	5	0	0	0	0	0	0	1	4	26	0	5	4	6	1
S D 2	大型	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	81	34	11	7	2	2	8	4	8	50	2	6	13	8	1
	中 III類	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	IV類	5	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	合 計	87	35	15	7	2	2	8	4	9	52	3	6	13	8	1

沈線文を施した土器136点のうち、技法の不明なものが40点ある。不明なものを除く96点では、a技法が38点(39.6%)、b技法が42点(43.8%)、c技法が2点(2.0%)、d技法が14点(14.6%)となる。

壺形土器：口縁端面、頸部、胴部、口縁部内面に加飾される（表2・3）。

大型品は、口縁端面に刻目と沈線文、口縁部内面には凸帯文を施す。

中・小型品は、II類は無文、III・IV類は頸部に沈線文が施されるものが多い。なお、IV類のうち、凸帯文を施すものが小数例ある。口縁端面には、沈線文や刻目を施すものが40%ある。小数例としては、斜格子目文を施すものが2点ある。胴部への加飾は、無文であることが多いが、弧文を施すものが1点ある。

頸部が筒状を呈するI類には、口縁部内面、頸部、胴部への加飾が著しい。口縁部内面には、凸帯文をもつ傾向があり、凸帯上に刻目を施すものが36点中25点(70%)ある。頸部には、多重の沈線文のほか、沈線文と刺突文が組み合うもの、凸帯文を施すものが多い。口縁端面は、刻目や沈線文を施すものが多く、斜格子目文、剥状文を施すものも小数例みられる。胴部は、肩部から胴部中位まで、多重沈線文と刻目凸帯文で加飾するものが多く、凸帯上に連鎖状刻目文を施すものが小数例みられる。そのほか、文様のモチーフとしては、刺突文、山形文、斜格子目文、孤文がある。孤文のうち貝殻を使用するものが3点ある。このほか、胴部に凸帯文を施すもののうち、凸帯を貼り付ける前に、胴部に沈線文を1条施すことが確かめられた。

頸部や胴部に沈線文を施した土器95点のうち、沈線文技法の不明なものが7点ある。不明なものを除く88点では、a技法が58点(65.9%)、b技法が28点(31.8%)、d技法が2点(2.3%)となる（表4・5）。

鉢形土器：無文であることを基調とする。

表4 SD1出土土器の沈線文技法一覧

	壺 形 土 器					壺 形 土 器						
	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計
① 屢	0	2	0	2	6	10	3	2	0	1	0	6
② 脊	5	4	0	2	2	13	5	4	0	1	2	12
③ 脊	2	8	0	2	5	17	1	4	0	0	1	6
④ 屢	7	12	1	7	9	36	14	5	0	0	3	22
⑤ 罂	14	12	1	1	11	39	24	11	0	0	0	35
⑦ 脊	5	0	0	0	0	5	5	1	0	0	0	6
⑧ 脊	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
計	33	38	2	14	34	121	52	27	0	2	7	88

表5 SD2出土土器の沈線文技法一覧

	壺 形 土 器					壺 形 土 器						
	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計
① 屢	0	1	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0
② 脊	0	2	0	0	1	3	0	1	0	0	0	1
③ 罂	5	1	0	0	1	7	2	0	0	0	0	2
⑤ 屢	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
⑦ 屢	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	5	4	0	0	6	15	6	1	0	0	0	7

③調 整

壺形土器：外面は刷毛目調整と刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すものが多い。内面はヘラミガキ調整ないし、ナデ調整を施す。

壺形土器：外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すものが多い。内面は、口縁部はナデまたはヘラミガキ調整、胴部はナデ調整が多い。

鉢形土器：外面は刷毛目調整を施すものが多いが、内面はナデまたはヘラミガキ調整を施す。

2) 石 器 (表6・7)

本調査では、SD1とSD2から56点の石器が出上した。器種構成は石鏃2点、石庖丁9点、扁平片刃石斧5点、柱状片刃石斧2点、伐採斧4点、砥石6点、台石6点、敲石2点、スクレイバー6点、石核2点、剥片8点、石器素材2点、その他2点である。

①石 鏃：石鏃は2点ある。両者共に、SD1から出土した打製のものである。形態は凹基無茎鏃と半基無茎鏃とがあり、石材はサヌカイトと赤色チャートを使用する。

②石庖丁：石庖丁は9点ある。SD1から8点、SD2から1点が出土した。このうち、未製品が4点含まれている。平面形態は4種類に分類され、外湾刃半月形態1点、直線刃半月形態1点、長方形態1点、楕円形態1点となり、形態の不明なものが4点ある。石材は結晶片岩を使用するものが7点、不明なもの2点がある。

③扁平片刃石斧：扁平片刃石斧は5点ある。SD1から4点、SD2から1点が出土した。このうち、未製品が1点ある。平面形態は基部に比べ、刃部の幅が広く、側面はやや丸味をおびる。石材は結晶片岩を使用するものが3点あり、他の2点は不明である。

表6 SD1出土石器一覧

	石鏃	石庖丁	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	伐採斧	砥石	台石	敲石	スクレイバー	石核	剥片	その他	計
① 扁	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
② 砥	0	0	1	0	0	1	1	0	3	0	0	0	6
③ 扁	0	0	1(1)	0	0	0	0	4	0	0	3	1	9
④ 柄	0	3(2)	1	0	1	2	1	2	1	1	5	0	17
⑤ 扁	0	3(1)	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	7
⑥ 扁	1	0	0	1(1)	1	0	0	0	0	0	0	0	3
扁不明	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
計	2	8(3)	4(1)	1(1)	4	5	6	2	5	2	8	2	49

表7 SD2出土石器一覧

	石鏃	石庖丁	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	伐採斧	砥石	台石	敲石	スクレイバー	石核	剥片	その他	計
① 扁	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
② 扁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
④ 扁	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
⑥ 扁	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
⑦ 扁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
扁不明	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	1(1)	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	7

④柱状片刃石斧：柱状片刃石斧はSD1とSD2よりそれぞれ1点ずつ出土している。SD1出土品は未製品である。石材や平面形態は不明である。

⑤伐採斧：伐採斧はSD1より4点出土している。すべて破損品で、断面形態は橢円形を呈する。石材はすべて結晶片岩を使用する。

⑥砥 石：砥石はSD1より5点、SD2より1点が出土した。石材は不明である。

⑦台 石：台石はSD1より6点が出土した。石材は不明である。

⑧敲 石：敲石はSD1より2点が出土した。石材は不明である。

⑨その他：このほか、スクレイバーがSD1より5点、SD2より1点出土した。石材はサヌカイトを使用するもの2点、安山岩を使用するもの3点、泥岩を使用するもの1点である。また、SD1より安山岩製の石核2点、SD2より結晶片岩製の石器素材2点が出土した。

以上、簡単ではあるがまとめを行った。

本調査では、弥生時代前期末から中期前葉の溝(SD1・2)を検出した。SD1は調査区南側に隣接する久米高畠遺跡23次調査地で検出したSD001に続くものである。土坑は16基を検出した。これらの土坑と同時期の土坑は、調査地東側に隣接する久米高畠遺跡24次調査地からも多数出土しており、来住台地での弥生時代の大規模な集落の可能性を示す重要な資料となるものである。今後、調査地周辺での調査は細心の注意を払う必要がある。

遺物は、弥生時代前期末から中期前葉の壺形土器と壺形上器が多数出土した。出土した壺形土器と壺形土器の施文について、若干の分類を行うことができたことは調査での一つの成果である。また、石器は、石庖丁の未製品が多数出土し、台石、砥石などの製作にかかる製品が出土しており、来住台地の集落内での石製品の製作が行われたことが確認できた。また、これらの石製品が弥生時代前中期から中期初頭の土器と共に出土したことは、松山平野の石器研究を考える上で好資料となる。

遺構・遺物－凡例－

(1) 以下の表は遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 各記載について

法 量 櫛 () : 復元推定値。

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。

例) 口→口縁部、胴上→胴部上半、大→天井部。

胎上・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母。

() の内の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

遺構一覧

表8 溝一覧

溝 (SO)	地 区	断面形	規 模 (m) 長さ×幅×深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	A 3～D 4	逆台形	10.55×10.55×1.00	南北	黒褐色土 石	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	
2	A 11～D 11	逆台形	10.00×3.95×1.20	南北	黒褐色土 石・灰 瓦末・植物遺体	弥生・須恵 石	弥生前期末 ～中期初頭	

表9 掘立柱建物址一覧

掘立 柱 (筒)	規 模 (間)	方 向	柵 行		梁 行		床面積 (m ²)	時 期	備 考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)			
1	2×?	不明	3.88		2.32	1.70	1.70	6.6	不明
2	1×1	不明	4.52		2.10	3.66	3.36	16.5	不明
3	3×?	不明	4.49		1.50	1.52	1.52	6.8	不明

表10 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 (m) 長さ×幅×深さ		床面積 (m ²)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ(m)	幅(m)					
1	C6～D7	楕円形	逆台形状	2.83	1.94×0.35	5.49	黒褐色土 +黄色土	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット 貼床
2	B6～C7	長方形	皿 状	2.80	2.22×0.16	6.21	黒褐色土 +黄色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
3	D6・7	長方形	逆台形状	2.94	(1.60)×0.45	(4.70)	黒褐色土	炭化物	弥生前期末 ～中期初頭	テラス 小ビット
4	B・C8	楕円形	皿 状	2.63	1.95×0.12	5.12	茶褐色土 +黄色土	弥生	弥生中期後半	小ビット
5	D4	長方形	皿 状	1.42	1.00×0.25	1.42	茶褐色土	弥生 石	弥生中期後半	
6	B5	不定形	皿 状	2.16	1.75×0.05	3.78	茶褐色土		弥生中期後半	
7	D4・5	方 形	逆台形状	3.00	(1.15)×0.40	(3.45)	黒褐色土		弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
8	B・C5	長方形	逆台形状	1.52	1.30×0.30	1.97	茶褐色土 +黄色土	弥生	弥生中期後半	
9	A6	方 形	皿 状	1.70	(1.35)×0.18	(2.29)	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
10	B6	長方形	皿 状	1.30	0.80×0.20	1.04	黒褐色土		弥生前期末 ～中期初頭	
11	B6	長方形	皿 状	0.80	0.54×0.21	0.43	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
12	B8	不整椭円形	逆台形状	2.22	1.80×0.19	3.99	黒褐色土 +黄色土		弥生前期末 ～中期初頭	テラス 小ビット
13	A9	円形か 楕円形	皿 状	2.00	(1.24)×0.28	(2.48)	黒褐色土	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
14	A・B9	長方形	皿 状	3.20	2.10×0.10	6.72	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ビット
15	C5	不整方形	皿 状	2.03	1.70×0.18	3.45	黒褐色土 +黄色土		弥生前期末 ～中期初頭	
16	D12	楕円形	皿 状	(1.75)	1.30×0.15	(2.27)	茶褐色土 +黄色土		弥生中期後半	

表11 性格不明遺構一覧

特種種 (SX)	地 区	平 面 形	断面形	規 模 (m) 長さ×幅×深さ		床面積 (m ²)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ(m)	幅(m)					
I	D12	不整長方形	舟底状	3.80	1.30×0.22	4.94	黑色土 (褐色土底)	弥生・上層 須恵	古墳後期	

表12 SD1 ①層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (裏面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	甕	口径(30.0) 残高 6.9	貼付口縁。無文。	マメツ、ハクリ	マメツ、ハクリ	乳 桃 色 乳 烧 色	石長(1~2)多 ○		
2	甕	残高 3.3	貼付口縁。無文。	⑩ミガキ ⑪ヨコナデ ⑫ハケ(5%)	ミガキ	灰 茶 色 灰 茶 色	石長(1~2) ○		
3	甕	残高 3.3	貼付口縁。クシ沈線文(4条1組) 8条以上。	⑬ミガキ ⑭ヨコナデ ⑮ハケ(4%)	ミガキ	暗赤 茶 色 暗赤 茶 色	石長(1~2) ○	11	
4	甕	残高 3.8	貼付口縁。沈線文9条以上。	マメツ	マメツ	乳灰 茶 色 乳灰 茶 色	石長(1~2) ○		
5	甕	残高 4.0	貼付口縁。沈線文(ヘラ・2条1組) 7条+刺突文2列。	マメツ	マメツ、ハクリ	乳 茶 色 乳赤 椿 色	石長(1~2)多 ○		
6	甕	残高 4.9	貼付口縁。沈線文4条+刺突文+沈 線文1条以上。	マメツ	マメツ	乳灰 茶 色 乳灰 茶 色	石長(1~2)多 ○		
7	甕	残高 4.2	貼付口縁。沈線文+刺突文2列。	ナデ	マメツ	暗灰 茶 色 乳 茶 色	石長(1~3) ○		
8	甕	残高 1.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰 茶 色 乳灰 茶 色	石長(1~3) ○	11	
9	甕	残高 1.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文1条以上。	マメツ	ナデ	暗灰 茶 色 暗灰 茶 色	石長(1~3)多 ○		
10	甕	残高 3.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文8条+刺突文1列以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳 茶 色 乳 茶 色	石長(1~3) ○	11	
11	甕	口径(38.0) 残高 10.3	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組) 14条+刺突文。大品。	⑬ヨコナデ ⑭ハケ(5%)	マメツ	乳灰 黄 色 乳灰 黄 色	石長(1~3) ○	11	
12	甕	残高 4.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	⑬ヨコナデ ⑭ハケ(5%)	ミガキ	灰 色 乳 茶 色	石長(1~3) ○		
13	甕	残高 5.6	折り曲げ口縁。口縁端面下端部に 刻目。	⑬ヨコナデ ⑭マメツ	⑭ナデ ⑬ミガキ	灰 白 色 灰 白 色	石長(1~2) ○		
14	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面下端部に 刻目。	⑬ヨコナデ ⑭マメツ	マメツ	灰茶 白 色 灰茶 白 色	石・長(1) ○	11	
15	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文4条以上。	ヨコナデ	⑭ミガキ ⑭マメツ	黄 白 色 黄 白 色	石長(1~4) ○		
16	甕	口径(36.0) 残高 5.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(出位不明)9条+刺突文 2列。	⑬ヨコナデ ⑭マメツ	ミガキ	乳灰 茶 色 乳灰 茶 色	石長(1~3) ○		
17	甕	口径(29.6) 残高 7.1	「く」字状口縁。口縁端部は上方につ まみ上げる。頸部に刻目凸帯文1条。 弥生中期後半	⑬ヨコナデ ⑭マメツ	マメツ	乳灰 茶 色 乳灰 茶 色	石長(1~4) ○	11	
18	甕	口径(36.0) 残高 5.6	「く」字状口縁。口縁端部は上方につ まみ上げる。頸部に刻目凸帯文1条。 弥生中期後半	⑬ヨコナデ ⑭ハケ(5%)	⑭ヨコナデ ⑭ハケ(5%)	灰 茶 色 長(1) 乳灰 茶 色	石長(1~3) ○	11	
19	甕	口径(23.4) 残高 2.3	「く」字状口縁。口縁端面に凹線文1条。 弥生中期後半。	マメツ	⑬ヨコナデ ⑭マメツ	乳赤 茶 色 乳黄 灰 色	石・長(1)少 ○	11	
20	甕	口径 24.4 残高 2.1	「く」字状口縁。口縁端面はナデによ り凹む。	⑬ヨコナデ ⑭ミガキ	⑬ヨコナデ ⑭ミガキ	暗 茶 色 暗 茶 色	石長(1~3) ○	11	
21	甕	残高 4.6	ヘラ沈線文3条以上+刺突文+沈 線文3条+刺突文-沈線文3条+刺突 文+沈線文2条以上。	ハケ(5%)	マメツ	乳 茶 色 乳黄 茶 色	石長(1~2) ○	11	
22	甕	残高 3.9	刺突文+ヘラ沈線文1条+山形文(2 条1組)+沈線文1条+刺突文+沈 線文1条以上。	ハケ(5%)	ナデ→ミガキ	乳灰 茶 色 乳 茶 色	石長(1~2)少 ○	11	

SD1 ①層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		胎土 (外) 色調 (内)	備考	図版
				外面	内面			
23	甕	底径(5.8) 残高 4.3	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	灰黄白色 黒灰色 ○	焼付着	
24	甕	底径(6.2) 残高 2.4	上げ底。	ナデ	ミガキ	灰桃色 灰桃色 ○		
25	甕	底径(6.0) 残高 6.1	わずかに上げ底。	⑤マツツ ⑥ナデ	マツツ	灰茶色 灰黄色 ○		
26	甕	底径(6.6) 残高 7.5	わずかに上げ底。	⑦ミガキ ⑧ナデ	ミガキ	乳茶色 灰褐色 ○		
27	甕	底径 5.2 残高 8.4	平底。	⑨ミガキ ⑩ナデ→ミガキ ⑪ミガキ	ナデ	灰赤茶色 灰褐色 ○	焼付着	
28	甕	口径(14.0) 残高 10.5	内縁する頸部に短く外反する口縁部。 無文。	ハケ(小口)→ミガキ (小口痕)	マツツ	灰黄白色 灰黄白色 ○		
29	壺	残高 3.9	口縁端面にヘラ沈線文 1 条+刻目。	⑫マツツ ⑬ミガキ	板ナデ	赤茶色 赤茶色 ○		11
30	壺	口径(9.4) 残高 4.3	外縁するやや太い口縁部。口縁端面 上縁に刻目。頸部にヘラ沈線文 1 条以上。	⑭ヨコナデ ⑮ハケ(口)→ナデ	ハケ(口)→ミガキ →ヨコナデ →ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色 ○		
31	壺	口径(18.0) 残高 7.5	外縁する口縁部。口縁端面に斜格子 口文。頸部に沈線文(2 条 1 刻) 3 条 以上。	⑯ヨコナデ ⑰ハケ(口)→ナデ	ナデ→ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色 ○		
32	壺	口径(15.6) 残高 3.6	口縁端部を上下方に拡張し、口縁端 面に凹線文 4 条を施す。弥生中期後半。	⑱ヨコナデ ⑲ハケ(口)→ミガキ ⑳ナデ	⑲ヨコナデ ⑳ナデ	乳赤茶色 灰褐色 ○		
33	壺	口径(8.1) 残高 3.9	直立する太い口縁部。口縁端面に山 形文(2 条 1 刻)。口縁端部にヘラ 沈線文 2 条+波状文+沈線文 4 条以上。	ハケ(口)→ミガキ	マツツ	乳灰茶色 乳茶色 ○		
34	壺	残高 4.7	ヘラ沈線文 2 条以上+刻目凸帯文+ 沈線文 5 条+刻目凸帯文+沈線文 2 条以上。	マツツ	マツツ	黄白色 黄白色 ○		11
35	壺	残高 4.6	刻目凸帯文 1 条。	④マツツ ⑤ヨコナデ ⑥ミガキ	マツツ+ハクリ	乳灰茶色 乳灰茶色 ○		
36	壺	残高 4.4	刻文交文+沈線文 8 条+刻突文。	マツツ	マツツ	茶色 茶色 ○		11
37	壺	残高 6.9	沈線文 7 条+山形文(2 条 1 刻)+沈 線文 5 条以上。	ハケ(口)→ナデ	マツツ	黄色 黄色 ○		11
38	壺	残高 7.0	刻突文+クシ沈線文(4 条 1 刻) 7 条 以上。	ハケ(口)→ミガキ ナデ(指痕痕)		暗赤茶色 暗赤茶色 ○		11
39	壺	底径 6.4 残高 12.9	突出した厚みのある底部。わずかに 上げ底。	ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色 ○	黒斑	
40	鉢	残高 3.3	直口口縁。沈線文(2 条 1 刻) 8 条以 上。	⑪ヨコナデ ⑫ミガキ	ナデ→ミガキ	茶色 茶色 ○		
41	鉢	残高 3.2	貼付口縁。無文。	(指痕痕)	マツツ	乳茶色 乳茶色 ○		
42	鉢	口径(10.4) 残高 3.9	小鉢品。貼付口縁。無文。	⑬ミガキ ⑭ヨコナデ ⑮ミガキ	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(口)→ナデ ⑰ナデ→ミガキ	灰色 灰色 ○		
43	鉢	口径(14.0) 残高 5.0	貼付口縁。無文。	⑯ハケ(口)→ミガキ ⑰ヨコナデ ⑱ハケ→ミガキ	ナデ→ミガキ	黒灰色 暗赤茶色 ○		
44	鉢	口径(26.0) 残高 8.0	貼付口縁。無文。	⑲ヨコナデ ⑳ハケ(口)→ミガキ	ミガキ	茶白色 茶白色 ○		

出土遺物觀察表

SD1 ①層出土遺物觀察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
45	鉢	口径(18.6) 残高 7.7	貼付口縁。沈縫文6条+山形文(2条 1組)+沈縫文(2条1組)。器壁厚い。 裏の可能性あり。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石長(1~4) ◎		
46	鉢	残高 5.7	貼付口縁。口縁端面に刺突文。	⑤ヨコナデ(上貝型) ⑧ハケ(6%)→ミガキ		灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ◎		
47	鉢	残高 7.6	貼付口縁。口縁端面に刻印。	⑤ヨコナデ ⑧ハケ(6%)→ミガキ ⑨ミガキ	⑥ナデ(指跡痕)	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ◎		
48	鉢	残高 3.5	器壁薄い。	ミガキ	ミガキ	墨灰色 墨灰色	石長(1)少 風灰色	調文土器	

表13 SD1 ①層出土遺物觀察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
49	石鐵	完形	サスカイト	2.50	1.85	0.30	1.17		
50	扁平片刃石斧	ほぼ完形	不明	4.20	2.50	0.60	13.75		
51	石庖丁	1/3	不明	5.70	3.00	0.50	11.28		
52	石庖丁	1/2	不明	7.20	4.70	0.60	26.37		
53	砥石	石	不明	14.20	4.10	4.00	313.00		

表14 SD1 ②層出土遺物觀察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
54	甕	口径(22.6) 残高 4.4	貼付口縁。無文。	⑤ヨコナデ ⑧マメツ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石長(1~3) ◎		
55	甕	残高 6.6	貼付口縁。無文。	⑤ヨコナデ ⑧ハケ(5~6%)	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ◎	12	
56	甕	口径 21.8 残高 12.5	貼付口縁。口縁端面下端に刻印。 胴部は無文。	⑤ナデ ⑧ハケ(5%)→ミガキ		乳茶色 乳赤茶色	石長(1~3) 黒灰	12	
57	甕	残高 3.1	貼付口縁。口縁端面に刻印。 ヘラ沈縫文3条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~2) ◎	12	
58	甕	口径(23.4) 残高 4.5	貼付口縁。沈縫文(2条1組)8条以上。	ヨコナデ	ミガキ	茶色 茶色	石長(1~2) ◎	12	
59	甕	口径(25.6) 残高 5.3	貼付口縁。沈縫文8条+刺突文1列。	⑤ヨコナデ ⑧マメツ	マメツ	灰黃白色 灰黃白色	石長(1~4) ◎	12	
60	甕	口径(22.2) 残高 4.5	貼付口縁。沈縫文(2条1組)8条以上。 +刺突文1列以上。	ヨコナデ	ミガキ	灰黃茶色 茶色	石長(1~4) ◎		
61	甕	口径(23.0) 残高 4.7	貼付口縁。口縁端面に刻印。 沈縫文(2条1組)6条+山形文2条。	⑤ヨコナデ ⑧マメツ	ミガキ	乳灰茶色 黄茶色	石長(1~3) ◎	12	
62	甕	口径(24.2) 残高 6.4	折り曲げ口縁。無文。	⑤ナデ ⑧ハケ(6%)	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ◎		
63	甕	口径(25.0) 残高 7.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻印。 ヘラ沈縫文4条。	⑤ヨコナデ ⑧ハケ(4~5%)	ミガキ	乳灰茶色 茶色	石長(1~3) ◎	12	

SD1 ②層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形 横・施 文	調 整		外觀 (内面)	胎 土 (内面)	燒 成	備考 図版
				外面	内面				
64	甕	口径(23.6) 残高 5.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ケシ沈線文(4条1組)8条+刺突文 2列	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(7~8%)	マメツ	黒 灰 色 桃 棕 色	石・長(1~2) ◎		12
65	甕	口径(22.7) 残高 6.9	折り曲げ口縁。沈線文7条+刺突文 +沈線文8条+刺突文。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(10%)	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	灰 茶 色 灰 茶 色	石・長(1~2) ◎		
66	甕	口径(22.8) 残高 11.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)6条+刺突文+沈 線文7条+刺突文2列。	ナデ	ナデ	灰 茶 色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		12
67	甕	口径(22.4) 残高 7.9	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文5条+山 形文+沈線文5条+刺突文。	一部ハケ(7%)	ナデ上げ?	乳 茶 色 乳 茶 色	石・長(1~3) ◎		
68	甕	残高 3.3	ヘラ沈線文1条以上+半截竹管文。	ハケ(10%)→ミガキ	ナデ?	乳灰茶色 灰 茶 色	石・長(1~2) ◎		12
69	甕	残高 5.8	ヘラ沈線文3条以上+刺突文。	一部ハケ(7%)	マメツ	黄 白 色 黄 白 色	石・長(1~3) ◎		
70	甕	底径(6.0) 残高 4.3	くびれの上げ底。弥生中断後半。	⑩ハクリ ⑪ナデ	ナデ	乳 茶 色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
71	甕	底径(7.2) 残高 3.9	上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	黒 灰 色 灰 茶 色	石・長(1~3) ◎		
72	甕	底径(7.2) 残高 4.7	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳 黄 茶 色 灰 茶 色	石・長(1~3) ◎		
73	甕	底径 6.2 残高 5.6	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	黄 茶 色 黒 色	石・長(1~2) ◎	内面に 煤付着	
74	甕	底径 5.2 残高 5.8	厚みのある平底。	⑩ナデ→ミガキ ⑪ナデ	ナデ	灰 茶 色 灰黄茶色	石・長(1~2) ◎	外面上 煤付着	
75	甕	底径(7.2) 残高 4.2	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	灰 茶 色 黒 灰 色	長(1) ◎		
76	壺	口径(21.2) 残高 6.8	短く外反する口縁部。口縁端面に刻目。	⑩ハケ(10%)→ナデ ⑪ハケ→ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 灰 茶 色	石・長(1~3) ◎		
77	壺	口径(14.8) 残高 7.0	短く外反する口縁部。口縁端面は凹む。	マメツ	工具痕	灰 白 色 灰 白 色	石・長(1~3) ◎		
78	壺	口径(17.0) 残高 7.0	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(4%) (-部ミガキ?)	ヨコナデ→ミガキ	茶 色 茶 色	石・長(1~3) ◎		12
79	壺	口径(12.8) 残高 5.1	直立する頸部に、ゆるやかに外反する 口縁部。頸部に扁平な凸帯文2条。 口縁端部内面はやや肥厚する。	⑩ナデ ⑪ミガキ?	⑩ナデ ⑪ミガキ?	乳 黄 色 乳 黄 色	石・長(1~3) ◎		
80	壺	口径(21.2) 残高 4.4	外反する口縁部。口縁端面上に刻目。	⑩ヨコナデ ⑪指彫痕	ミガキ?	乳灰桃色 灰 色	石・長(1~5) ◎		
81	壺	口径(22.0) 残高 2.5	外反する口縁部。口縁端面上に刻目。	⑩マメツ ⑪一部ハケ(3%)	マメツ	黄 白 色 黄 白 色	石・長(1~4) ◎		
82	壺	口径(23.0) 残高 2.3	外反する口縁部。口縁端面上下端に 刻目。	⑩マメツ ⑪ナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		12
83	壺	口径(20.0) 残高 8.7	筒状の颈部に外反する口縁部。口縁 端面に刻目。口縁内面に凸帯文1条。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(7%)	マメツ	黄桃白色 乳桃白色	石・長(1~3) ◎		
84	壺	残高 3.0	外反する口縁部。口縁端面上に山形文 2条、口縁内面に凸帯文1条。	⑩マメツ ⑪ハケ(8%)	ヨコナデ	灰 黄 色 乳 茶 色	石・長(1~3) ◎		12
85	甕	残高 4.8	ヘラ沈線文5条以上。小片。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳 茶 色	石・長(1~2) ◎		

出土遺物観察表

SD1 ②層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外觀) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
86	壺	残高 8.7	ヘラ沈線文4条+押抜凸唇文1条。 内面に凸唇文1条。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~4) ◎		12
87	壺	残高 4.1	刻目凸唇文2条+刺突文。	ナデ	マメツ	黄白色 黄白色	長(1) ◎		12
88	壺	残高 5.4	ヘラ沈線文4条以上+刺突文。 粘土接合部あり。	①ハケ(5~7%) ⑦ミガキ	板ナデ	乳茶色 赤茶色	石長(1~2) ◎		
89	壺	残高 4.6	刺突列点文1列。	②ハケ(5~7%) ④ハケヨコナデ ⑤ハケ	ハケ(5~7%)→ナデ (指頭痕)	灰茶色 茶色	石長(1~3) ◎		
90	壺	残高 3.0	ヘラ沈線文3条以上+竹管文。	①ハケ(5~8%) ⑦ハケ(5~3%)	ハケ(5~8%)	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ◎		12
91	壺	残高 4.6	クシ描き波状文7条以上。	ミガキ	ミガキ (一部ハケ)	茶色 茶色	石長(1~7) ◎		12
92	壺	残高 5.5	沈線文(2条1組)6条以上。	ミガキ	ハクリ	黒灰色 黒灰色	石長(1~2) ◎		
93	壺	残高 5.8	刺突文+沈線文8条+刺突文。	ミガキ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~3) ◎		12
94	壺	残高 8.0	刺突文+沈線文(2条1組)5条+刺突文2列+沈線文5条+刺突文。	マメツ	ミガキ	乳茶色 茶色	石長(1~2) ◎	黒既	
95	壺	残高 7.1	ヘラ沈線文2条+斜格子目文(2条) 沈線文2条+刺突文。	マメツ	ミガキ	乳灰黄色 灰茶色 (一部黒色)	石長(1~3) ◎		
96	壺	残高 10.2	沈線文2条+山形文(2条1組)+沈線文7条+山形文+沈線文10条+刺突文2列。	マメツ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ◎		
97	壺	残高 7.4	沈線文3条+刻目凸唇文3条+沈線文3条。	ミガキ ⑨ヨコナデ	マメツ	乳灰茶色 灰白色	石長(1~4) ◎		12
98	壺	底径 7.4 残高 7.1	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	⑩ミガキ ⑪ナデ	茶橙色 茶橙色	石長(1~3) ◎		
99	壺	底径 (8.4) 残高 3.7	平底。	⑫ミガキ ⑬ナデ	ミガキ	灰桃色 茶橙色	石長(1) ◎		
100	壺	底径 (6.6) 残高 4.0	厚みのある平底。	⑭ハケ(5%) ⑮ハケヨコナデ ⑯ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	長(1~2) ◎		
101	壺	底径(10.0) 残高 3.3	平底。	⑰ハケ(5~8%) ⑱ハケヨコナデ ⑲ナデ	ナデ (指頭痕、工具痕)	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~2) ◎		
102	壺	底径 7.8 残高 2.8	平底。	⑳ハケ(5~8%) ㉑塗けヨコナデ ㉒ナデ	ナデ	乳黄茶色 黑灰色	石長(1~3) ◎		
103	壺	底径 7.8 残高 2.8	厚みのある平底。粘土接合痕あり。	マメツ	ナデ	乳桃茶色 乳灰黄色	石長(1~3) ◎		
104	壺	底径(11.9) 残高 2.5	平底。内面はハクリ。	マメツ	ハクリ	灰黄白色 黑灰色	石長(1~5) ◎		
105	壺	底径 (8.5) 残高 5.4	平底。	マメツ	ミガキ	灰黄白色 乳茶色	石長(1~4) ◎		
106	壺	底径(10.0) 残高 5.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 灰黄色	石長(1~6) ◎		
107	壺	底径 9.0 残高 3.5	丸みのある平底。	㉓ナデ ㉔マメツ	ナデ	乳灰茶色 灰白色	石長(1~4) ◎		

出土遺物観察表

SD1 ②層出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面			
108	壺	底径(11.6) 残高 5.7	平底。	⑮ハケ(7cm) ⑯ハケ+ナデ ⑰ナデ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~2) ○	
109	壺	底径(11.8) 残高 5.2	平底。内面はハクリ。	⑮ハケ(4cm)→ミガキ ⑯ナデ	ハクリ	茶色 茶色	石長(1~2) ○	
110	鉢	残高 3.9	折り曲げ口縁。無文。	⑭ヨコナデ ⑮ハケ(6cm)	⑮ミガキ ⑯マメツ	黑色 茶色	石長(1~2) ○	
111	コシキ	底径(6.6) 残高 4.0	裏面土器の転用品。わずかに上げ底。 底部中央に孔あり(φ2cm)。	⑮マメツ ⑯ナデ	マメツ	乳灰茶色 灰茶色	6cm×3多 ○	

表15 SD1 ②層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
112	扁平片刃石斧	ほぼ光面	結晶片岩	4.56	2.00	0.85	12.25		
113	スクレイバー	完形	安山岩	8.50	6.60	1.37	72.16		
114	スクレイバー	完形	安山岩	8.10	5.70	1.10	82.36		
115	スクレイバー		泥岩	(9.00)	4.90	0.78	45.04		
116	砥石	完形	不明	11.60	2.55	2.45	118.16		
117	台石	2/3	不明	17.30	9.40	10.70	2,300.00		

表16 SD1 ③層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外) (内)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
118	甕	口径(23.0) 残高 7.3	貼付口縁。無文。	マメツ	マメツ	黄茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
119	甕	口径(20.8) 残高 4.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(7cm)	ミガキ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		
120	甕	口径(21.4) 残高 4.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(6cm)→ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		
121	甕	口径(22.6) 残高 6.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(7cm)→ミガキ	ミガキ	乳灰茶色 茶色	石長(1~5) ○		(内面に) 品底
122	甕	残高 6.9	貼付口縁。口縁端面に刺突文。 器壁厚い。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		
123	甕	残高 3.3	貼付口縁。口縁端面に刺突文。	⑮ミガキ ⑯ヨコナデ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~3) ○		
124	甕	残高 5.0	貼付口縁。沈線文7条以上。	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(7cm)	ナデ	黒灰茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
125	甕	残高 5.0	貼付口縁。クシ沈線文12条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		
126	甕	口径(24.2) 残高 16.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文9条。	⑮マメツ ⑯ミガキ	ミガキ?	乳灰黄色 茶色	石長(1~4) ○		
127	甕	口径(19.8) 残高 16.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文8条。	⑮ヨコナデ ⑯ハケ(4cm) ⑯ハケ+ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		黒斑

SD1 ③層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
128	甕	口径(22.4) 残高 15.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)10条。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(4~5%) ⑫ハケミガキ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石長(1~3) ◎	砂質 黒斑	13
129	甕	口径(29.8) 残高 4.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条+刺突文+沈線文2条以上。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石長(1~2) ◎		
130	甕	口径(21.2) 残高 8.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)8条.+刺突文。	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	ミガキ	黑色 乳茶色	石長(1~3) ◎		
131	甕	口径(21.4) 残高 6.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 削部は無文。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(4%) ⑫ミガキ	⑪ヨコナデ ⑫ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) ◎		
132	甕	口径(28.2) 残高 14.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 削部は無文。	一部ナデ	⑩マメツ ⑪ナデ	赤褐色 乳灰黄色	石長(1~3) ◎		
133	甕	口径(25.2) 残高 13.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(8%)	⑪ヨコナデ ⑫ナデ	灰茶色 茶色	石長(1~2) ◎		13
134	甕	残高 4.7	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組) 12条+刺突文。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石長(1~3) ◎		
135	甕	残高 4.9	折り曲げ口縁。沈線文5条+刺突文。	ナデ	ナデ	灰黄色 乳灰黄色	石長(1~3) ◎		
136	甕	口径(18.2) 底径(7.1) 残高 21.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(4条1組)12条+刺突文。 わずかに上げ底。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(5%) ⑫ミガキ ⑬ナデ	⑪ヨコナデ ⑫ミガキ	灰系色-黑色 乳灰茶色	石長(1~4) ◎		13
137	甕	口径(24.0) 残高 5.9	折り曲げ口縁。沈線文6条+刺突文 +沈線文6条以上(2条1組)。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(9%)	⑪ヨコナデ ⑫ミガキ	黑色 乳灰黄色	石長(1~2) ◎		
138	甕	口径(26.4) 残高 6.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文12条+刺突文。	⑩ヨコナデ ⑪ナデ	⑪マメツ ⑫ミガキ	灰黄色 灰黄色	石長(1~3) ◎		
139	甕	口径(29.4) 残高 11.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文6条+山形文(2条1組)+沈 線文4条+刺突文2列。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(6%)	マメツ	乳橙色 乳橙色	石長(1~3) ◎		13
140	甕	残高 11.6	ヘラ沈線文6条+刺突文+沈線文8 条+刺突文。	⑩ハケ(10%) ⑪ミガキ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) ◎		13
141	甕	残高 4.4	沈線文+刺突文+沈線文3条+刺突 文。	一部ハケ(6%)	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~2) ◎		
142	甕	残高 1.7	沈線文+山形文(1条と2条)。	マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色	石長(1~2) ◎		
143	甕	口径(16.8) 残高 5.1	「L」字状に折れ曲がる口縁部。口縁端 面に不明瞭な凹線文1条。	⑩ヨコナデ ⑪マツフ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ◎		
144	甕	底径 6.4 残高 11.5	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	灰橙色 灰色	石長(1~4) ◎		
145	甕	底径 6.0 残高 4.4	上げ底。	⑩一部ナデ ⑪ナデ(指頭痕)	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石長(1~4) ◎		
146	甕	底径(5.5) 残高 4.9	厚みのある上げ底。	⑩ハケ(4%)+ミガキ ⑪ナデ	ナデ	灰茶色 灰色	石(1~4) ◎		
147	甕	底径 6.9 残高 3.1	上げ底。	ナデ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) ◎		
148	甕	底径 6.8 残高 4.0	上げ底。	⑩ミガキ (指頭痕) ⑪ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~4) ◎		
149	甕	底径 6.6 残高 6.9	厚みのある平底。	⑩ハケ(4%)+ミガキ ⑪ミガキ	ナデ	乳灰茶色 灰茶色	石長(1~4) ◎		

SD1 ③層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外側)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
150	壺	底径 6.7 残高 6.4	平底。	④ミガキ ⑤ナデ	ナデ	暗赤茶色	石長(1~3)		
151	壺	残高 3.0	大型品。口縁端面にヘラ沈線文1条+刻目、内面に凸帯文1条。	マメツ	④マメツ ⑤ヨコナデ	乳黄灰色	石長(1~3)多		
152	壺	口径(14.8) 残高 4.9	短く外反する口縁部。無文。	①ヨコナデ ④ハケ(8mm) ⑤ミガキ	④ミガキ ⑤ナデ	乳茶色	石長(1~2)		
153	壺	口径(13.3) 残高 5.6	直立する口頭部。	①ヨコナデ ④ハケ(8mm) ⑤ミガキ	マメツ	乳茶色	石長(1~3)		
154	壺	口径(18.2) 残高 8.3	外反する口縁部。口縁端面に刻目、頭部に刻目凸帯文1条。	④マメツ ④ミガキ ⑤ヨコナデ	ナデ→ミガキ	乳茶色	石長(1~3)		
155	壺	口径(13.4) 残高 7.9	筒状の頭部から外反する口縁部。沈線文8条。	マメツ	マメツ	灰白色	石長(1~3)多		
156	壺	口径(18.6) 残高 7.2	筒状の頭部から外反する口縁部。無文。	④ヨコナデ ⑤マメツ	マメツ	灰黄色	石長(1~4)多		
157	壺	残高 2.7	外反する口縁部。凸帯文5条以上。	マメツ	マメツ	黒灰色	石長(1~4)		
158	壺	口径(21.6) 残高 9.9	大きく外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	④ナデ ④⑤ハケ(7%) ⑤ナデ	④ミガキ	乳黄桃色	石長(1~4)		
159	壺	口径(23.1) 残高 4.7	大きく外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	④ヨコナデ ⑤マメツ	ミガキ	黒褐色(油脂色)	石長(1~3)		
160	壺	口径(22.4) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。口縁端面下端に刻目。内面に刻目凸帯文1条。	④ヨコナデ ⑤マメツ	④ミガキ ④ヨコナデ	茶色	石長(1~3)	13	
161	壺	残高 1.4	口縁端面に刻目。内面に刻目凸帯文。	マメツ	マメツ	乳黄茶色	石長(1~4)	13	
162	壺	残高 13.2	外傾する長い口頭部。外面に刺突文+沈線文(2条1組)10条+刺突文。内面に刻目凸帯文3条(2条は全周しない)。	ミガキ	ミガキ ④ヨコナデ	暗赤茶色	石長(1~4)	13	
163	壺	残高 5.1	刻目凸帯文2条。	ミガキ	マメツ	茶白色	石長(1~2)	13	
164	壺	残高 8.2	沈線文5条+押圧凸帯文+沈線文(2条1組)4条+凸帯文+压線文4条。	ハケ(6mm)	ハケ(6mm)→ミガキ	乳茶色	石長(1~3)	13	
165	壺	残高 5.0	沈線文6条+竹管文+沈線文(2条1組)8条以上。	ハケ(4~5mm)	マメツ	乳黄茶色	石長(1~5)		
166	壺	残高 6.9	M字形凸帯(刻目)+刺突文。	④マメツ ④ヨコナデ	マメツ	茶白色	石長(1~2)	13	
167	壺	残高 16.4	頭部外面、口縁部内面に凸帯文。	④ハケ(7mm) ④ヨコナデ ④マメツ	④ヨコナデ ④ミガキ	乳灰黄色	石長(1~4)		
168	壺	底径 8.0 残高 18.2	わずかに上げ底。球形の胴部。	④マメツ ④ナデ	マメツ	乳茶色	石長(1~4)		
169	壺	底径 15.0 残高 9.2	大きな平底で、中央部がやや凹む。	ミガキ	ナデ	乳茶色・黒色	石長(1~5)多		
170	壺	底径 (8.6) 残高 7.7	わずかに上げ底。	④マメツ ④ナデ	マメツ	乳茶色	石・長(1)		
171	壺	底径 (8.5) 残高 5.6	わずかに上げ底。	④ハケ(3mm)→ミガキ ④ミガキ	ナデ	暗灰茶色	石・長(1~2)		

出土遺物観察表

SD1 ③層出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
172	壺	底径 6.7 残高 7.0	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	乳茶色 茶白色	石長(1~0) ○		
173	壺	底径 (8.5) 残高 4.4	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ハケ(6%)→ナデ ⑫ミガキ	ナデ	緑茶色 茶白色	石長(1~3) ○		
174	壺	底径 (7.0) 残高 5.5	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	乳茶色 茶白色	石長(1)多 ○		
175	壺	底径 (11.8) 残高 4.5	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	灰桃色 黄色	石長(1~2) ○		
176	壺	底径 8.0 残高 6.1	平底。	マメツ	ナデ	白桃色 黄白色	石長(1~3) ○		
177	鉢	口径(33.4) 残高 17.0	大型品。折り曲げ口縁。無文。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(6%)	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		
178	鉢	残高 7.4	折り曲げ口縁。無文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
179	鉢	残高 4.7	直口縁。口縁端部は「コ」字状。	マメツ	マメツ	黃白色 黃白色	石長(1~4) ○		
180	コシキ	底径 6.3 残高 6.0	甕形土器の転用品。平底。 底部中央に孔(φ1.3cm)。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ミガキ	灰赤茶色 赤茶色	石長(1~4) ○		
181	コシキ	底径 (6.8) 残高 5.8	甕形土器の転用品。平底。 底部中央に孔(φ1.7cm)。	マメツ	ナデ	乳赤茶色 黒灰茶色	石長(1~4) ○		
182	蓋	228 7.1 残高 9.4	つまみ中央部は凹む。	一張(ハケ(6%)→ナデ)	マメツ	乳桃橙色 桃橙色	石長(1~4) ○		
183	蓋	228 5.8 残高 4.2	つまみ上面は平坦。	⑪ナデ ⑫ハケ(6%)→ナデ	ハケ(6%)→ナデ	灰黑色 黑色	石長(1~3) ○		
184	浅鉢	残高 2.0	縄文晩期。	ヨコナデ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	灰茶色 茶色	長(1)密 ○		

表17 SD1 ③層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
185	扁平片刃石斧	完形	結晶片岩	9.70	4.50	1.53	97.36	未製品	
186	剥片		サヌカイト	4.50	2.80	0.50	5.54		
187	剥片		サヌカイト	3.20	2.60	0.35	2.98		
188	剥片		サヌカイト	3.90	2.00	0.55	3.95		
189	台石		不明	19.20	12.60	3.60	1,360.00		
190	台石		不明	(9.80)	(8.60)	2.50	284.64		
191	台石		不明	15.60	11.10	7.40	1,800.00		
192	台石		不明	(14.20)	(9.70)	(9.00)	1,900.00		
193	母岩		安山岩	12.70	10.50	6.60	1,340.00		

表18 SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
194	甕	口径(25.2) 残高 6.4	貼付口縁。無文。	⑪押庄痕	マメツ	黄茶色 石長(1~5) 茶桃色 ○			
195	甕	残高 1.6	貼付口縁。	ヨコナデ	ハクリ	乳茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○			
196	甕	残高 5.8	貼付口縁。沈線文10条。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 石長(1~3) 乳茶色 ○			
197	甕	口径(26.2) 残高 8.6	貼付口縁。沈線文8条。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ ⑬ミガキ	ミガキ	乳茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○			
198	甕	口径(22.0) 残高 4.1	貼付口縁。ヘラ沈線文6条以上。	ヨコナデ	ミガキ	灰黄茶色 石長(1~3) 赤茶色 ○			
199	甕	口径(25.8) 残高 5.0	貼付口縁。クシ沈線文16条以上(部位不明)。	⑪ヨコナデ~ミガキ ⑫ナデ ⑬ハケ(9%)	ナデ	暗灰茶色 石長(1~4) 暗灰茶色 ○			14
200	甕	口径(17.0) 残高 3.8	貼付口縁。沈線文4条以上。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(10%)	マメツ	乳灰茶色 石長(1~3) 乳灰茶色 ○			
201	甕	口径(17.2) 残高 4.1	貼付口縁。口縁端面に削目。 沈線文8条以上。	⑪ナデ ⑫ハケ(10%) ⑬マメツ	ミガキ	乳灰黄茶色 石長(1~3) 乳赤茶色 ○			
202	甕	口径(25.4) 残高 16.2	貼付口縁。沈線文(2条1組)9条。	⑪ナデ ⑫ミガキ	ナデ	灰赤茶色 石長(1~4) 赤茶色 ○			
203	甕	口径(19.8) 残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に刻突文。 沈線文(2条1組)8条以上。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(10%)	ミガキ	灰赤茶色 石長(1~3) 灰色 ○			
204	甕	口径(20.4) 残高 13.1	貼付口縁。沈線文4条+剝突文。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(6%)	ミガキ	乳赤茶色 石長(1~3) 乳赤茶色 ○			
205	甕	口径(21.1) 残高 9.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)12条+剝突文。 剥部の張りが強い。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(6%) ⑬ミガキ?	ミガキ?	乳茶色 石長(1~3) 乳茶色 ○			黒斑
206	甕	口径(23.0) 残高 8.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文8条+剝突文。	⑪ヨコナデ ⑫ナデ ⑬ミガキ?	ミガキ?	褐色・茶色 石長(1~3) 黃茶色 ○			
207	甕	口径(23.0) 残高 5.0	貼付口縁。沈線文12条+剝突文。	⑪ヨコナデ ⑫一部ハケ(6%)	ミガキ?	乳黃茶色 石長(1~3) 乳黃茶色 ○			
208	甕	口径(20.2) 残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(4条1組)8条+剝突文。	⑪ミガキ ⑫ヨコナデ ⑬ハケ(9%)	マメツ	黑色 石長(1~2) 乳茶色 ○			14
209	甕	残高 3.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文9条以上。	⑪ミガキ ⑫⑬ヨコナデ	ミガキ	赤茶色 金 赤茶色 ○			
210	甕	残高 4.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文4条+剝突文+沈線文(2条1組)5条以上。	マメツ	マメツ	乳黃灰茶色 石長(1~3) 乳黃灰茶色 ○			
211	甕	口径(16.2) 残高 6.1	貼付口縁。クシ沈線文(4条1組) 12条+列点文(3種1単位)	一部ハケ(5~6%)	マメツ	乳茶色 石長(1~2) 乳黃茶色 ○			14
212	甕	口径(14.4) 残高 5.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文4条+山形文(2条1組)+沈 線文6条+剝突文。	⑪ミガキ ⑫ヨコナデ ⑬ナデ	ミガキ	乳黃灰茶色 石長(1~2) 乳黃灰茶色 ○			
213	甕	口径 21.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	⑪ナデ ⑫ハケ(6%)~ミガキ ⑬ミガキ	ミガキ ⑮マメツ	暗灰茶色 金 茶色 ○			
214	甕	口径(16.6) 残高 6.1	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文4条。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(6%)	一部ハケ(6%)	灰茶色 長(1) 茶色 ○			
215	甕	口径(23.6) 残高 4.8	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文7条以上。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(6%)	⑯ミガキ?	乳灰茶色 石(2~5) 乳桃色 △			

SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		備考	図版
				外面	内面		
216	甕	口径(20.2) 残高 7.1	折り曲げ口縁。ヨコ方向のヘラ沈線文12条を施した後、タテ方向のヘラ沈線文4条を施す。	②ヨコナデ ⑧ハケ(8%)	⑩ヨコナデ ⑨ミガキ	乳茶色 石長(1~3) 乳茶色 ○	14
217	甕	口径(21.6) 残高 13.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文8条。	②ヨコナデ ⑧ハケ(7%)→28%	⑪ヨコナデ→ミガキ ⑩ミガキ	灰茶色 金 灰茶色 ○	
218	甕	口径(23.8) 残高 3.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文5条以上。	ヨコナデ	⑫ナデ ⑩ミガキ?	黒灰色 云母(1~2) 乳灰茶色 ○	
219	甕	口径(28.0) 残高 5.3	折り曲げ口縁。クシ沈線文(4条1組) 8条+刺突文。	⑥ヨコナデ ⑩ミガキ	⑬ヨコナデ ⑩ナデ→ミガキ	灰茶色 石長(1~2) 乳灰茶色 ○	
220	甕	口径(20.6) 残高 5.3	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)6 条+刺突文。	マヌツ	⑪マヌツ ⑩ナデ	乳茶色 石長(1~2) 灰橙色 ○	
221	甕	口径(21.4) 残高 12.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(4条1組)12条+刺突文。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(7%) ⑧ハケ・ミガキ	ミガキ	黑色 石長(1~2) 乳灰茶色○	14
222	甕	口径(24.0) 残高 5.2	折り曲げ口縁。沈線文5条(ヘラ+2 条1組)。	⑨ヨコナデ ⑧ハケ(7%) ⑩ナデ	⑭ミガキ	灰茶色 石長(1~3) 茶色 ○	
223	甕	口径(19.6) 残高 2.9	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)6条以上。	⑪ナデ(推原版) ⑩ハケ(9%)	ナデ→ミガキ	暗灰茶色 石(1~2) 灰茶色 ○	
224	甕	口径(23.8) 残高 4.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)10条以上。	⑫ヨコナデ ⑧ハケ(8%)	ミガキ	暗灰茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○	
225	甕	口径(28.8) 残高 4.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(3条1組)11条+刺突文2条。	ヨコナデ	⑬ヨコナデ ⑩ミガキ	黑色・暗茶色 黑色・茶色 ○	
226	甕	口径(25.0) 残高 12.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文6条+刺突文。	⑤ヨコナデ ⑧ハケ(6%) ⑩ミガキ	⑪ナデ ⑩ミガキ	灰茶色 石・長(1~4) 乳茶色 ○	
227	甕	口径(22.2) 残高 10.4	折り曲げ口縁。沈線文8条+刺突文。	⑩ミガキ ⑩ミコトド ⑧ハケ(6%) ⑩ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 石・長(1) 暗灰茶色 ○	
228	甕	口径(24.8) 残高 7.1	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)13 条+刺突文。	⑯ヨコナデ ⑩ハケ(6%)	ミガキ	暗灰茶色 石・長(1~3) 暗灰茶色 ○	
229	甕	残高 7.0	ヘラ沈線文2条+刺突文+ヘラ沈線 文4条+刺突文。	①ハケ(5%) ⑩ミガキ	マヌツ	乳茶色 石・長(1~4) 乳茶色 ○	
230	甕	残高 2.2	ヘラ沈線文5条以上+刺突文。	一部ハケ(7%)	ハクリ	乳赤茶色 石・長(1~2) 乳茶色 ○	
231	甕	残高 7.3	沈線文(2条1組)12条+刺突文。	⑪ハケ(6%) ⑩ミガキ	ミガキ	乳黄茶色 石・長(1~3) 乳茶色 ○	
232	甕	残高 5.7	クシ沈線文(5条1組)13条以上+ 刺突文。	ミガキ	ミガキ	赤茶色 石・長(1~3) 赤茶色 ○	14
233	甕	残高 4.4	沈線文5条以上+山形文(2条1組)。	ハケ(7%)	ミガキ	赤茶色 石・長(1~2) 赤茶色 ○	
234	甕	残高 9.2	沈線文2条以上+山形文(2条1組) +沈線文(2条1組)6条+刺突文。	マヌツ	ミガキ	乳灰茶色・乳灰色 乳茶色・乳灰色 ○	
235	甕	底径 (6.4) 残高 6.0	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 石・長(1~3) 灰茶色 ○	
236	甕	底径 (6.6) 残高 4.8	わずかに上げ底。	ミガキ	ミガキ	乳灰茶色 石・長(1~3) 灰茶色 ○	
237	甕	底径 (6.2) 残高 7.0	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	マヌツ	乳橙色 石・長(1~3) 乳灰黄色 ○	

出土遺物観察表

SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面			
238	甕	底径(6.5) 残高 7.7	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	乳茶色 灰茶色	石長(1~4) ○	
239	甕	底径(7.1) 残高 7.7	わずかに上げ底。	⑩ハケ(5%)→ミガキ ⑪ナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰黄色	石長(1~3) ○	
240	甕	底径(6.2) 残高 4.8	わずかに上げ底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	暗灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ○	
241	甕	底径 8.2 残高 5.3	わずかに上げ底。厚みをもつ。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石長(1~4) ○	黒斑
242	甕	底径(6.6) 残高 7.0	わずかに上げ底。	マメツ	⑩ミガキ ⑪ナデ	灰茶橙色 灰黄茶色	石長(1~6) ○	
243	甕	底径(7.1) 残高 5.3	わずかに上げ底。	⑩ハケ(5%)→ナデ ⑪ハラナデ(5%)	一部ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) ○	
244	甕	底径 6.0 残高 3.8	上げ底。	⑩ハケ(5%)→ミガキ ⑪ナデ	マメツ	暗灰茶色 茶色	石長(1~2) ○	
245	甕	底径 6.0 残高 5.2	平底。	ナデ	マメツ	乳茶棕色 灰	石長(1~4) ○	
246	甕	底径(6.4) 残高 3.8	平底。	⑩ハケ(5%) ⑪ナデ	ナデ	乳桃色・黒色 乳桃色	石(3) ○	
247	甕	底径 6.6 残高 8.2	平底。	ミガキ	一部ミガキ	乳灰茶色 暗灰茶色	石長(1~3) ○	
248	甕	底径 6.3 残高 4.8	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	長(1~4) 石(5) ○	
249	壺	口径(13.4) 残高 4.8	短く外反する口縁部。無文。	⑩ナデ ⑪ハケ(5%)→ナデ	ハケ(5%)→ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ○	
250	壺	口径(12.8) 残高 4.3	短く外反する口縁部。口縁端面下端に刻目。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(10%)	ナデ	暗茶色 茶色	石長(1~3) ○	
251	壺	口径(16.2) 残高 4.7	短く外反する口縁部。無文。	⑩ヨコナデ ⑪ハラナデ(5%)→ミガキ →ナデ	⑩ヨコナデ→ミガキ ⑪マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ○	
252	壺	口径(14.0) 残高 8.1	短く外反する口縁部。無文。	⑩ナデ ⑪ハケ(5%)→ナデ ⑫ハケ→ミガキ	⑩ヨコナデ ⑪マメツ	茶色 茶色	石・長(1~3) ○	
253	壺	口径(12.8) 残高 9.2	短く外反する口縁部。無文。	ミガキ?	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○	
254	壺	口径(16.0) 残高 6.2	短く外反する口縁部。口縁端面上・下端に刻目。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(5%)→ミガキ	⑩ナデ ⑪マメツ	白桃色 白桃色	長(1~2) ○	
255	壺	口径(17.2) 残高 15.4	短く外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。器壁は厚い。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~5) ○	
256	壺	口径(18.4) 残高 5.7	短く外反する口縁部。口縁端面上に刻目。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(5%)→ミガキ	ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石長(1~2) ○	
257	壺	口径(16.8) 残高 4.9	内擱する頸部に、短く外反する口縁部。無文。	マメツ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○	
258	壺	口径(12.2) 残高 3.2	内擱する頸部に、短く外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	⑩マメツ ⑪ヨコナデ ⑫ハケ(5%)	ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~3) ○	
259	甕	口径(9.6) 残高 7.5	短く外反する口縁部。無文。	⑩⑪ヨコナデ ⑫ナデ?	⑩ヨコナデ ⑪指頭痕	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○	

出土遺物観察表

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (表面) (内面)	胎土 焼成	備考	回版
				外面	内面				
260	壺	口径(13.4) 残高 4.8	直立する頸部に、外反する口縁部。 無文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長仁~3) ○		
261	壺	口径(16.6) 残高 5.0	直立する頸部に、外反する口縁部。 口縁端面に刻印。	②ナデ ④ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ○		
262	壺	口径(12.8) 残高 4.6	直立する頸部に、外反する口縁部。 口縁端面内外に刻印。頸部に刻目凸 帯文。	マメツ	ミガキ?	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ○		
263	壺	口径(18.6) 残高 9.3	外傾する長い口頸部。頸部に凸帯文 1条。	①ヨコナデ ⑧ハケ(1~1%) ⑨ヨコナデ	⑤ミガキ ⑥板ナデ ⑦ミガキ	灰色・灰茶色 灰色・灰茶色	長(1) ○		
264	壺	口径(18.2) 残高 6.8	外傾する頸部に、外反する口縁部。口 縁端面下端に刻印。頸部に凸帯文(連 鎖状刻目文2列)。	④ヨコナデ ⑪ハケ(5%)→ミガキ	マメツ	乳黄色 乳黄茶色	石・長(1~2) ○	14	
265	壺	口径(21.0) 残高 4.1	大きく外反する口縁部。無文。	⑩マメツ ⑫ハケ(5%)→ミガキ	一部ミガキ?	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1~4) ○		
266	壺	残高 2.5	外反する口縁部。口縁端面に沈線文 2条。	④マメツ ⑧ハケ(5%)→ミガキ	⑤ナデ ⑦ミガキ	灰白色 黑色	長(1~2) ○		
267	壺	口径(4.0) 残高 2.3	大きく外反する口縁部。口縁端面に 斜格子目文。	ハケ(?)→ナデ	④ナデ ⑤ナデ+ミガキ	灰色 灰茶色	良(1~2) ○		
268	壺	口径(35.5) 残高 8.2	大きく外反する口縁部。口縁端面に ヘラ沈線文+条+刻印。 頸部にヘラ沈線文+刻突文。	④ヨコナデ ⑤⑥ヨコナデ+ミガキ	ミガキ	乳灰黄茶色 乳灰黄茶色	石・長(1~4) ○	14	
269	壺	口径(32.8) 残高 7.1	大きく外反する口縁部。口縁端面に 羽状文。内面に凸帯文2条。	マメツ	ミガキ ④ヨコナデ	灰茶白色 灰茶白色	石長(1~3) ○		
270	壺	口径(27.4) 残高 4.1	大きく外反する口縁部。口縁端面に 羽状文。内面に刻目凸帯文2条。	④ヨコナデ ⑤ヨコナデ+ミガキ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		
271	壺	口径(24.2) 残高 6.7	外傾する頸部に、外反する口縁部。 内面に刻削しない凸帯文3条。	④ヨコナデ ⑤ミガキ	ヨコナデ	茶色 茶色	石長(1~3) ○		
272	壺	口径(22.4) 残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面下 端に刻印。内面に凸状の刻目凸帯文。	④ヨコナデ ⑤ハケ(5%)→ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
273	壺	口径(17.8) 残高 11.6	厚壁の頸部に、外反する口縁部。口縁端面に沈 線文1条+刻印。頸部に刻目凸帯文+沈線文+刻 印文。内面に凸状の刻目凸帯文。	④ヨコナデ ⑤ハケ(5%)	④ハケ(5%) ⑥マメツ	乳灰茶色 灰黑色	石・長(1~3) ○	14	
274	壺	口径(13.5) 残高 5.4	筒状の頸部に厚く外反する口縁部。 沈線文3条+刻印+沈線文+沈線文5 条+刻印+凸帯文2条。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ○		
275	壺	口径(16.2) 残高 5.3	筒状の頸部に厚く外反する口縁部。 頸部に刻目凸帯文。口縁内面に刻目 凸帯文2条。	④ヨコナデ ⑤ミガキ	④ヨコナデ ⑤ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		
276	壺	口径(12.3) 残高 12.3	外傾する長い口頸部。内面に凸帯文 2条。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石長(1~3) ○		
277	壺	残高 4.9	内面に凸帯文1条。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黑色	石・長(1~2) ○		
278	壺	残高 6.1	外傾する頸部。ヘラ沈線文4条以上。 内面に凸状の刻目凸帯文。	④ヨコナデ ⑤ハケ(5%)	ナデ ④ヨコナデ	乳灰黄色 乳灰茶色	石・長(1) ○		
279	壺	残高 8.0	ヘラ沈線文9条以上。	④ナデ ⑤ハケ(10%)	ミガキ	乳灰色 乳灰色	石(1~4) ○		
280	壺	残高 7.2	刻突文+ヘラ沈線文1条以上。 内面に凸帯文1条。	ミガキ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ○		
281	壺	残高 10.4	内外面に凸帯文1条。	ハケ(5%) ④ヨコナデ	④ヨコナデ	黄茶白色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		

出土遺物観察表

SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	回版
				外面	内面				
282	壺	残高 5.8	頸部に刻目凸唇文、内面に凸唇文1条。	ハケ(9%) ◎ヨコナデ	マメツ	灰 茶色 灰色	長(1~2) ○		
283	壺	残高 4.6	筒状の頸部、沈線文5条以上+凸唇文+沈線文6条。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 灰色	石長(1~4) ○		
284	壺	残高 4.1	押圧凸唇文1条。	マメツ ◎ナデ	マメツ	茶白色 灰茶白色	石長(1~3) ○		
285	壺	残高 3.6	凸唇文(連續状刻目文2列)1条。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石(1) ○		
286	壺	残高 2.6	ヘラ沈線文1条+凸唇文(連續状刻目文1列)+沈線文2条。	◎ハケ(8%) ◎ヨコナデ	ナデ	灰色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		
287	壺	残高 17.0	ヘラ沈線文6条+刺突文。	◎ハケ(8%)→ナデ ◎ミガキ	ミガキ	乳黄茶色 乳黄灰色	石長(1~5) ○		
288	壺	残高 5.3	凸唇文(連續状刻目文2列)。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳灰黄色	石長(1~3) ○		
289	壺	残高 4.4	ヘラ沈線文3条以上+凸唇文(連續状刻目文2列)。	マメツ	マメツ	乳黄褐色 灰色	石長(1~2) ○		
290	壺	残高 3.8	ヘラ沈線文6条以上+凸唇文(連續状刻目文1列)。	◎ハケ(8%) ◎ヨコナデ	マメツ	灰色 灰色	石長(1~2) ○		
291	壺	残高 7.8	刺突文+沈線文5条(ヘラ2条1組)+刺突文。	ミガキ	マメツ	茶褐色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		
292	壺	残高 6.5	刺突文+ヘラ沈線文8条+刺突文。	マメツ	マメツ	灰黄白色 黃白色	石長(1~2) ○		
293	壺	残高 15.0	刺突文+ヘラ沈線文5条+刺突文+ヘラ沈線文5条+刺突文。	一部ハケ(6%)	ミガキ	茶色 茶色	石長(1~3) ○	黒斑	14
294	壺	残高 8.7	貝殻縫隙による弧文3条。	ミガキ?	マメツ	灰桃色 桃色	石長(1~4) ○		14
295	壺	残高 5.5	貝殻縫隙による弧文3条。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		14
296	壺	残高 3.7	乳頭状の浮文1個。	ミガキ	ミガキ	灰茶色 茶色	石長(1) ○		
297	壺	残高 6.4	ヘラ沈線文6条、ヘラ沈線文2条以上。	ハケ(6%)→ミガキ	ナデ	灰黄茶色 茶色	石長(1~5) ○		
298	壺	残高 5.1	沈線文6条+山形文(2条1組)+沈線文1条以上。	①ハケ+ミガキ ⑦ハケ	ナデ→ミガキ	灰黄茶色 灰黄茶色	石長(1~3) ○	黒斑	
299	壺	残高 6.5	沈線文2条+山形文(2条1組)+沈線文8条+山形文。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		14
300	壺	残高 9.2	沈線文5条以上+山形文(2条1組)+沈線文5条(ヘラ+2条1組)。	◎ハケ(7%)→ナデ ①ハケ→ミガキ	ミガキ		石長(1~3) ○		14
301	壺	残高 8.0	沈線文1条+山形文(2条1組)+沈線文5条+山形文+沈線文1条以上。	ハケ(6%) 上部にミガキ	ナデ	灰茶色 暗茶色	石長(1~4) ○		
302	壺	残高 7.8	断面台形状の扁平な凸唇文1条。	ナデ→ミガキ ◎ヨコナデ	マメツ	乳灰茶色 灰色	石長(1~5) ○		
303	壺	残高 13.0	刻目凸唇文3条。	ミガキ	ミガキ	茶白色 茶白色	石長(1~3) ○		

出土遺物観察表

SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
304	壺	残高 7.5	ヘラ沈線文3条+刻目凸帯文4条+ヘラ沈線文3条以上。	ミガキ ②ヨコナデ	ミガキ	灰茶色 石長(1~2) 乳灰茶色 ◎	石長(1~2)		14
305	壺	底径(6.6) 残高 5.6	わずかに上げ底。	②ミガキ ②ナデ	②ナデ→ミガキ ②ナデ	乳灰黃色 乳茶色 ◎	長(1~3)	黒斑	
306	壺	底径 7.6 残高 6.1	平底。	②ハケ(7%)→ミガキ ②マメツ	ナデ	灰色 灰黃茶色 ◎	石長(1~4)		
307	壺	底径 (8.1) 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 灰茶色 ◎	石長(1~3)		
308	壺	底径 (9.0) 残高 5.5	平底。	②ミガキ ②マメツ	ナデ	灰茶色 乳灰茶色 ◎	石長(1~3)		
309	壺	底径 (10.8) 残高 3.8	上げ底。	②ハケ(7%)→ミガキ ②ナデ	マメツ	黑色、乳茶色 乳茶色 ◎	石長(1~3)		
310	壺	底径 (9.6) 残高 7.3	わずかに上げ底。	②ハケ(5%)→ミガキ ②ナデ	②ナデ→ミガキ ②ナデ	乳灰黃茶色 灰茶色 ◎	長(1~3)		
311	壺	底径 (10.0) 残高 10.2	平底。	マメツ	マメツ	灰茶色 灰茶色 ◎	石長(1~3)		
312	壺	口径 10.4 残高 10.4	平底。	②ハケ(6%)→ミガキ ②マメツ	②ミガキ ②ナデ	乳茶色 暗茶色 ◎	石長(1~3)		
313	鉢	口径(21.2) 残高 5.3	貼付口縁。無文。	②ヨコナデ ②ミガキ	②ナデ ②ミガキ	暗赤茶色 赤茶色 ◎	石長(1~3)		
314	鉢	口径 (27.0) 残高 7.3	貼付口縁。無文。	②マメツ ②ハケ(6~8%)	マメツ・ハクリ	乳茶色 黄白色 ◎	石長(1~4)		
315	鉢	口径 (21.9)	貼付口縁。無文。 残高 8.7	②ヨコナデ ②ミガキ	ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色 ◎	石長(1~3)	黒斑	
316	鉢	口径 (27.0) 残高 7.7	貼付口縁。無文。 (小口底多数)	②ヨコナデ ②ハケ(6~8%) ②ミガキ	ミガキ	暗茶色 石長(1~4) 茶色 ◎	石長(1~4)	黒斑	
317	鉢	口径 4.5	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ハケ(6ム)	②ヨコナデ ②ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色 ◎	石長(1~2)		
318	鉢	口径 9.4	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ミガキ	ハクリ	黄桃色 黄桃色 ◎	石長(1~3)		
319	鉢	口径 (21.0) 残高 7.6	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ハケ(5ム)	②ヨコナデ ②ミガキ?	黄赤茶色 黄赤茶色 ◎	石長(1~4)		
320	鉢	口径 (24.0) 残高 4.7	折り曲げ口縁。無文。	②ハケ(6%)→ヨコナデ ②ハケ(5~6%)	マメツ	暗灰色 暗灰色 ◎	石長(1~6)		
321	鉢	口径 (29.0) 残高 5.4	折り曲げ口縁。無文。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳茶色 乳茶色 ◎	石長(1~5)		
322	鉢	口径 (25.0) 残高 4.2	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ハケ(6%)→ヨコナデ ②ハケ(5~6%)	ミガキ	灰茶色 灰茶色 ◎	石長(1~5)		
323	鉢	口径 (30.7) 残高 7.0	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ミガキ	②ヨコナデ ②ナデ ②ミガキ	灰茶色 灰茶色 ◎	石長(1~2)		
324	鉢	口径 (27.0) 残高 4.5	折り曲げ口縁。無文。	②ヨコナデ ②ハケ(5%)	②ハケ(5%)→ヨコナデ ②ミガキ	灰茶色 灰茶色 ◎	石長(1~4)		
325	鉢	底径 6.0 残高 8.7	突出する平底。	一部ハケ(6%) ナデ(指痕)	ミガキ	暗灰茶色 乳灰茶色 ◎	石長(1~3)	黒斑	

出土遺物観察表

SD1 ④層出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
326	コシキ	底径 8.1 残高 7.2	壺形土器の軽用品。上げ底。 底部中央に孔(Φ0.9cm)あり。	⑤マツツ ⑥ナデ	マツツ	乳赤茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		
327	高杯	残高 2.5	底部に凹線文3条。 弥生中期後半。	マツツ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ○		
328	円盤状 土器片	径 4.0 厚さ 0.6	土器片の再加工品。ヘラ沈線文5条	マツツ	マツツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		

表19 SD1 ④層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
329	石庖丁	1/2	結晶片岩	(7.00)	5.80	0.50	33.20		
330	石庖丁	小片	結晶片岩	(5.70)	(5.60)	0.60	24.04	未製品	
331	石庖丁	1/3	結晶片岩	(10.00)	(5.60)	0.72	58.81	未製品	
332	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(10.50)	6.20	4.10	448.00		
333	扁平片刃石斧	完形	結晶片岩	10.40	5.50	0.85	87.05		
334	スクレイバー	完形	サヌカイト	4.90	1.90	0.59	5.20		
335	剥片		サヌカイト	5.00	3.70	1.19	13.92		
336	剥片		サヌカイト	6.00	4.10	0.63	16.79		
337	剥片		安山岩	6.60	6.00	1.09	41.39		
338	剥片		安山岩	8.70	5.70	0.97	53.81		
339	剥片	完形	安山岩	10.40	9.70	1.90	202.89		
340	石核	完形	サヌカイト	11.20	8.10	2.10	205.15		
341	敲石	2/3	不明	9.50	6.10	6.00	519.00		
342	敲石	ほぼ完形	不明	9.90	8.40	4.90	641.00		
343	砥石	完形	不明	13.00	11.50	3.90	845.00		
344	砥石		不明	(16.00)	(10.90)	5.60	1,120.00		
345	台石	3/4	安山岩	(19.60)	(12.20)	5.50	1,040.00		

表20 SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
346	甕	口径(43.0) 残高 6.1	大型品。貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文1条以上。	⑤ハケ(8%) ⑥マツツ	マツツ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~5) ○		
347	甕	口径(38.0) 残高 19.5	大型品。貼付口縁。ヘラ沈線文8条+ 剥突文2条+沈線文5条+剥突文2 条。	⑤ミコナフ ⑥ハケ(11%) ⑦ハケ(5%) ⑧ナデ→ミガキ	マツツ	黄白色 黄白色	石長(1~5) ○		15

出土遺物観察表

(2)

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調 (表面) (裏面)	胎土 燒成	備考	図版
				外面	内面				
348	甕	口径(19.4) 残高 7.0	貼付口縁。無文。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(10%)	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~2) ◎		
349	甕	口径(20.0) 残高 7.2	貼付口縁。無文。	⑦ヨコナデ ⑧ミガキ?	ナデ (指頭痕)	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ◎		
350	甕	口径(28.0) 残高 6.0	貼付口縁。無文。	指標痕	ミガキ	乳灰茶色 灰	石長(1~2) ◎		
351	甕	口径(18.8) 残高 8.3	貼付口縁。沈線文8条。	ヨコナデ	マメツ	暗褐色 乳黄茶色	石長(1~3) ◎		
352	甕	口径(23.6) 残高 7.4	貼付口縁。ヘラ沈線文7条。	マメツ	ミガキ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1~3) ◎		
353	甕	口径(21.0) 残高 4.3	貼付口縁。沈線文10条。	⑦ヨコナデ→ミガキ ⑧ヨコナデ ⑨ハケ(5%)	ミガキ?	乳黄茶色 乳赤茶色	石長(1~3) ◎		
354	甕	口径(26.1) 残高 4.2	貼付口縁。沈線文11条以上。	ヨコナデ	ナデ	灰黄茶色 灰黄茶色	石長(1~3) ◎		
355	甕	口径(23.0) 残高 17.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)6条。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(11%)→ナデ	ナデ	黒灰色 灰茶色	石長(1~3) ◎	15	
356	甕	残高 5.6	貼付口縁。沈線文13条以上。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) ◎		
357	甕	口径(22.6) 残高 3.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文7条。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 茶白色	石(1~2) ◎		
358	甕	口径(28.2) 残高 4.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)8条以上。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(6%)	ミガキ	黃白色 黃白色	石(1~4) ◎		
359	甕	口径(24.8) 残高 6.8	貼付口縁。口縁端面下端部に刻目。 沈線文9条(2条1組)+刻突文。	⑦マメツ ⑧ハケ(7%)	マメツ	黑色 茶白色	石(1~2) ◎		
360	甕	口径(27.0) 残高 21.5	貼付口縁。口縁端面下端部に刻目。 ヘラ沈線文8条+刻突文。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(7%) ⑨ハケ(7%)→ミガキ	ナデ→ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~6) ◎	15	
361	甕	残高 3.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条+刻突文+沈線文1条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ◎		
362	甕	残高 5.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文9条+刻突文。	⑦マメツ ⑧ハケ(6%)	ナデ	黃白色 乳黄茶色	石長(1~3) ◎		
363	甕	残高 5.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文7条+刻突文。	⑦ヨコナデ ⑧ナデ ⑨ナデ・ミガキ	マメツ	深茶色・黑色 乳赤茶色	石長(1~2) ◎		
364	甕	口径(23.4) 残高 9.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(3条1組)11条+刻突文。	⑧ハケ(6%)→ミガキ ⑨ヨコナデ ⑩ハケ(5%)	ナデ	黑色 乳灰黄色	石長(1~5) ◎		
365	甕	口径(23.6) 残高 8.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文12条+刻突文2条。	⑪ヨコナデ ⑫ハケ(5%) ⑬ハケ(6%)→ミガキ	⑦ヨコナデ ⑧ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石長(1~3) ◎		
366	甕	口径(22.0) 残高 6.1	貼付口縁。沈線文5条+刻突文+沈線文3条+刻突文+沈線文3条+刻突文。	⑭ヨコナデ ⑮ハケ(6%)	ミガキ	乳灰茶色 茶色	石長(1~2) ◎		
367	甕	残高 7.4	貼付口縁。沈線文4条+刻突文2条 沈線文4条+刻突文2条+沈線文3条+刻突文。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1~5) ◎		
368	甕	口径(19.4) 残高 5.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)8条+刻突文。	⑦ヨコナデ ⑧マメツ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(2) ◎		
369	甕	口径(14.2) 残高 7.1	小型品。貼付口縁。無文。	⑨ナデ ⑩ミガキ	⑨ナデ ⑩ミガキ	暗灰茶色 灰茶色	石長(1~4) ◎	外面に 焼付着	

出土遺物観察表

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
370	甕	口径(40.0) 残高 12.1	大型品。折り曲げ口縁。ヘラ沈縞文 12条+刺突文2列。	⑨ヨコナデ ⑩ハケ(5~6%) ⑪マツツ	⑨ヨコナデ ⑩ナデ	黄茶白色 黄茶白色	石長(1~4) ○		
371	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	ミガキ	茶色 茶色	長(1) ○		
372	甕	残高 4.4	折り曲げ口縁。無文。体の可能性あり。 指頭痕	マツツ	マツツ	暗灰茶色 暗灰茶色	石長(1~4) ○		
373	甕	残高 9.9	折り曲げ口縁。沈縞文7条+刺突文。	マツツ	マツツ	乳黄色 乳黄色	石長(1~4) ○		
374	甕	残高 4.1	折り曲げ口縁。ヘラ沈縞文6条以上。	ナデ (工具による押痕)	ナデ	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ○		
375	甕	口径(22.0) 残高 5.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈縞文5条+刺突文+沈縞文4条以上。	⑨ナデ ⑩ハケ(7%) ⑪ミガキ	⑨ナデ ⑩ミガキ	灰黄茶色 灰黄茶色	石長(1) ○		
376	甕	口径(31.4) 残高 4.8	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈縞文10条+刺突文。	⑨ナデ ⑩ハケ(7%)	マツツ	黑色 黑色	石長(1~3) ○		
377	甕	口径(21.6) 残高 8.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈縞文(3条1組)15条+竹管文+ 单截竹管文。	⑨ナデ ⑩ハケ(9%) ⑪ハケ+ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石長(1~2) ○		15
378	甕	口径(20.4) 残高 10.6	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	⑨ナデ ⑩ミガキ?	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		
379	甕	口径(18.4) 残高 5.7	折り曲げ口縁。無文。	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	⑨ヨコナデ+ミガキ ⑩ミガキ	灰茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
380	甕	残高 5.3	折り曲げ口縁。口縁端面にヘラ沈縞文1条+刻目。胴部にヘラ沈縞文10条以上。	ナデ	⑨ナデ ⑩マツツ	灰色 灰色	石長(1~4) ○		
381	甕	残高 6.1	折り曲げ口縁。ヨコ方向の沈縞文11条+タテ方向の沈縞文2条(2条1組)+ 刻突文。	⑨マツツ	マツツ	乳茶色 乳褐色	石長(1~2) ○		
382	甕	口径(27.2) 残高 7.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈縞文7条+刻突文。	⑨ヨコナデ ⑩板ナデ	⑨ヨコナデ ⑩ナデ	灰黄茶色 乳黄茶色	石長(1~2) ○		
383	甕	口径(30.4) 残高 9.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈縞文(2条1組)12条+刻突文。	⑨ヨコナデ ⑩ハケ(7%) ⑪ナデ	⑨ヨコナデ ⑩ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	長(1~3) ○		
384	甕	口径(23.6) 残高 5.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻突文。 刻突文+沈縞文3条+刻突文+沈縞文4条+ 刻突文。	ヨコナデ	⑨ナデ ⑩マツツ	黄茶白色 乳黄茶色	長(1~2) ○		
385	甕	口径(29.2) 残高 9.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈縞文3条+刻突文+沈縞文4条+ 刻突文2列。	⑨ナデ ⑩マツツ	マツツ	乳灰色 灰色	石長(1~2) ○		
386	甕	残高 6.0	ヘラ沈縞文8条+刻突文。	ハケ(8%)	一部ミガキ	赤茶色 赤茶色	石長(1~2) ○		
387	甕	残高 4.0	ヘラ沈縞文7条以上+刻突文。	マツツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2)		
388	甕	残高 5.5	沈縞文(2条1組)8条+刻突文+沈 縞文6条以上。	ハケ(8%)	マツツ	乳赤茶色 黄色	石長(1~4) ○		
389	甕	残高 8.4	ヘラ沈縞文2条以上+刻突文+沈 縞文5条+刻突文2列。	ミガキ	ナデ	暗灰褐色 乳灰褐色	石長(1~3) ○		
390	甕	残高 6.9	沈縞文(2条1組)6条+山形文(2 条1組)+沈縞文4条以上。	マツツ	ミガキ?	乳茶色 灰色	石長(1~3) ○		
391	甕	残高 3.7	沈縞文(2条1組)5条以上+山形文 (2条1組)	ハケ(7%)	ナデ	乳黄茶色 暗茶色	石長(1~2) ○		

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
392	甕	残高 6.0	沈縞文(2条1組)5条以上+山形文(2条1組)+沈縞文3条+刺突文。	ハケ(6~7%)	ミガキ	茶色 茶色◎	石長(1~6)		
393	甕	残高 4.3	沈縞文(2条1組)4条以上+刺突文+山形文(2条1組)。	マメツ	ミガキ?	灰黄色 灰黄色○	石長(1~4)		
394	甕	残高 5.8	山形文(2条1組)++沈縞文3条+刺突文。	⑩ナデ ⑪ミガキ	マメツ	黑色 乳黄茶色	石長(1~2) 茶色◎		
395	甕	底径(6.8) 残高 8.7	上げ底。	⑫ハケ(5%)+ミガキ ⑬ナデ	⑭ミガキ ⑮ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~2)		
396	甕	底径(6.6) 残高 7.5	上げ底。	⑯ミガキ ⑰ナデ	ミガキ	灰茶色 乳灰茶色	石長(1~3) 金色○		
397	甕	底径(5.6) 残高 5.4	平底。	マメツ	ミガキ	灰茶色 黑色○	石長(1~2)	内面に 焼付着	
398	甕	底径(5.8) 残高 6.6	丸味のある平底。	マメツ	マメツ	灰赤茶色 乳黄茶色	乳灰茶色○		
399	甕	底径 7.5 残高 6.6	平底。	⑫ハケ(5%)+ミガキ ⑬ナデ	マメツ	乳赤茶色 暗灰黄色	石長(1~5)		
400	甕	底径(7.2) 残高 5.6	平底。	ナデ	ナデ	赤褐色 墨茶色	石長(1~3) 金色○	内面に 焼付着	
401	壺	口径(31.0) 残高 11.7	大型品。口縁部下面に刻H。 内面に凸唐文。	⑭ナデ ⑮ハケ(5%) ⑯ミガキ?	⑭ナデ ⑮ヨコナデ	黄茶色 黄茶色○	石長(1~3)		15
402	壺	口径(10.6) 残高 2.9	刻く外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈縞文1条+刻H。	ナデ	マメツ	灰白色 灰白色○	長(1)		
403	壺	口径(14.0) 残高 5.5	短く外反する口縁部。無文。	マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色○	石長(1~4)		
404	壺	口径(19.2) 残高 7.0	外反する口縁部。口縁端面に刻H。	⑭マメツ ⑮ハケ(5%)+ミガキ ⑯ヨコナデ	⑭マメツ ⑮ミガキ	灰茶白色 灰茶白色○	石長(1~3)		
405	壺	口径(14.9) 残高 4.4	直立する頸部に外反する口縁部。 口縁端面に刻H。	マメツ	マメツ	茶白色 灰黄色○	石長(1~4)		
406	壺	口径(18.0) 残高 3.2	外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈縞文1条+刻H。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色○	石長(1~4)		
407	壺	口径(18.2) 残高 4.3	外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈縞文+刻H。頸部にヘラ沈縞文6条以上。	⑭ヨコナデ ⑮ハケ(5%)	ハケ(6%)	茶白色 茶白色○	石長(1~3) 金色○		
408	壺	口径(18.4) 残高 5.0	刻く外反する口縁部。口縁端部は「コ」字状。	⑭ナデ ⑮ハケ(5%)	ミガキ	乳茶色 黄茶色○	石長(1~3)		
409	壺	口径(16.5) 残高 4.4	短く外反する口縁部。無文。	⑭ナデ ⑮ハケ(6%) ⑯ハケ+ミガキ	ミガキ	灰茶色 乳灰茶色○	長(1~3)		
410	壺	口径(17.7) 底径 9.8 残高 19.6	外極する頸部に短く外反する口縁部。 底部は平底。	⑭ヨコナデ ⑮ミガキ ⑯マメツ	ミガキ	暗茶色 (一部墨色) 暗茶色○	石長(1~5)		
411	壺	口径(14.1) 残高 3.2	外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈縞文1条+刻H。	ナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色○	石長(1~4)		
412	壺	口径(17.2) 残高 10.0	外極する頸部に外反する口縁部。 口縁端面に斜格子文。難部と肩部に沈縞文+刻突文。内面に凸口状の凸唐文。	マメツ	⑭ナデ上げ	暗茶色 元(一點墨色)○	石長(1~5)		16
413	壺	口径(17.5) 残高 5.2	筒状の頸部に外反する口縁部。 ヘラ沈縞文5条以上。内面に凸唐文。	⑭ナデ	⑭ナデ ⑮ヨコナデ	灰色 灰色○	石長(1~3)		

出土遺物観察表

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		土焼成	備考	図版
				外面	内面			
414	壺	口径(18.0) 残高 6.3	簡状の頸部に外反する口縁部。 口縁端面に斜格子目文、頸部に凸唇文4条以上。内面に凸唇文3条。	◎ヨコナデ	◎ヨコナデ	乳茶色 乳茶色○	石・長(1~7)	
415	壺	口径(18.0) 残高 7.3	簡状の頸部に外反する口縁部。 頸部にヘラ沈線文+刻文+斜唇文5条+刻突文+凸唇文1条。	◎ミガキ ◎ハケ(5%)→ミガキ ◎ヨコナデ	ナデ	乳黄灰色 乳黄灰色○	石・長(1~7)	
416	壺	口径(20.6) 残高 11.0	簡状の頸部に外反する口縁部。 ヘラ沈線文5条+刻突文+斜唇文5条+刻突文+凸唇文1条。	◎ナデ ◎マツツ	◎ナデ ◎ミガキ	灰黄白色 灰黄白色○	石・長(1~7)	
417	壺	口径(20.5) 残高 9.2	外反する口頸部。凸唇文1条。	◎ヨコナデ ◎(ハ)カ(5%)→計 ◎ヨコナデ	◎ヨコナデ ◎(ハ)カ(5%)→計 ◎ヨコナデ	乳茶色・灰白色 乳茶色○	石・長(1~7)	
418	壺	口径(20.4) 残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	◎マツツ ◎ハケ(5%)→ミガキ	マツツ	茶白色 茶白色○	石・長(1~2)	
419	壺	口径(21.2) 残高 2.9	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条+刻目。	マツツ	マツツ	乳茶色 乳灰茶色○	石・長(1~2)	
420	壺	口径(22.6) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条+刻目。	◎マツツ ◎ハケ(5%)	マツツ	黒色 黑色○	長(1~2)	
421	壺	口径(23.2) 残高 6.0	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条+刻目。	マツツ	マツツ	乳灰茶色 乳灰茶色○	石・長(1~2)	
422	壺	口径(23.0) 残高 3.5	大きく外反する口縁部。内面に凸唇文2条。	マツツ	マツツ	黄色 黄色○	石・長(1~2)	
423	壺	残高 5.7	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条+刻目。内面に凸唇文1条。	マツツ	マツツ	茶白色 茶白色○	石・長(1~4)	
424	壺	口径(23.0) 残高 3.4	大きく外反する口縁部。口縁端面に刻目。内面に刻目凸唇文1条。	◎ヨコナデ ◎ミガキ ◎ヨコナデ	◎ヨコナデ ◎ミガキ ◎ヨコナデ	乳白色 乳白色○	石・長(1~4)	
425	壺	口径(28.0) 残高 2.5	大きく外反する口縁部。口縁端面上に刻目。内面に刻目凸唇文1条。	◎ヨコナデ ◎ミガキ ◎ヨコナデ	ヨコナデ+ミガキ ◎ヨコナデ	茶白色 灰黄白色○	石・長(1~3)	
426	壺	口径(34.0) 残高 5.1	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文3条。内面に刻目凸唇文1条。	◎ハケ→ヨコナデ ◎ハケ(5%)→ミガキ	ミガキ ◎ヨコナデ	乳黄茶色 乳黄茶色○	石・長(1~3)	
427	壺	口径(26.0) 残高 12.7	外傾する長い口縁部。颈部にヘラ沈線文12条以上。内面に刻目凸唇文1条。	◎マツツ ◎ハケ(5%)	◎マツツ ◎ミガキ	白色 白色○	石・長(1~3)	
428	壺	口径(23.6) 残高 10.1	外傾する長い口縁部。口縁端面にヘラ沈線文+刻目。颈部に刻突文+沈線文+刻目。内面に注口状の刻目凸唇文3条。	◎ハケ(5%) ◎ヨコナデ	◎ミガキ ◎ヨコナデ	灰色 灰茶色○	石・長(1~2)	16
429	壺	口径(33.0) 残高 11.2	外傾する長い口縁部。口縁端面に羽状文。颈部に刻突文+ヘラ沈線文1条以上。内面に刻目凸唇文2条。	◎ヨコナデ ◎ハケ(5%)→ミガキ	◎ミガキ ◎ハケ(5%)→ミガキ ◎ヨコナデ	白色 白色○	石・長(1~4)	
430	壺	口径(36.8) 残高 10.4	外傾。外反する口縁部。内面に「U」字状の刻目凸唇文2条+凸唇文1条(全周しない)。	◎ヨコナデ ◎ハケ(5%)→ミガキ ◎ヨコナデ	ミガキ 部分的にハケ(5%) ◎ヨコナデ	赤茶色 赤茶色○	石・長(1~3)	
431	壺	残高 10.5	外傾する長い頸部。ヘラ沈線文15条以上。内面に注口状の刻目凸唇文1条。	◎ハケ(5%)→ミガキ ◎ハケ	一部ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色○	石・長(1~3)	
432	壺	残高 8.1	ヘラ沈線文12条以上。内面に全周しない凸唇文1条。	ハケ(5%)	マツツ	灰黄白色 灰黄白色○	石・長(1~3)	
433	壺	残高 10.5	ヘラ沈線文19条+刻突文。内面に凸唇文1条。	マツツ	マツツ	乳黄灰色 乳黄灰色○	石・長(1~3)	
434	壺	残高 8.0	内面に凸唇文3条。	ミガキ	◎ミガキ ◎ヨコナデ	乳赤茶色 乳赤茶色○	石・長(1~4)	
435	壺	残高 4.2	刻目凸唇文1条。	ハケ(5%)	ミガキ ◎ヨコナデ	灰茶色 灰茶色○	石・長(1~2)	

出土遺物観察表

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
436	壺	残高 5.3	刻目凸帯文 1条。	ヨコナデ・ミガキ	ミガキ ④ヨコナデ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~2)		
437	壺	残高 5.9	沈線文 5条以上+一刺目凸帯文+沈線文(2条1組)6条以上。	一部ハケ(6%)	ナデ	黄茶色 赤茶色	石長(1~3) ○		
438	壺	残高 6.1	ヘラ沈線文 7条以上+凸帯文(連續状)+刻目H文1列。	ハケ(9~10%) ④ヨコナデ	④ナデ ④ヨコナデ	乳橙色 茶白色	石長(1~3)		
439	壺	残高 9.9	ヘラ沈線文 4条。	④ハケ(5%) ④マツツ	マツツ	乳白色 乳白色	石長(1~5) 石長(1~5)		
440	壺	残高 9.1	刻目凸帯文 1条。	④ヨコナデ	マツツ・ハクリ	黄白色 黄白色	石長(1~5)		
441	壺	残高 10.0	刻目凸帯文 1条。	④ミガキ ④ヨコナデ	ミガキ	黒灰色 黒灰色	石長(1~8)		
442	壺	残高 3.9	凸帯文 1条、貝殻複線による低文 1条。	ハケ(6%)→ミガキ ④ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 黒灰色	石長(1~3) ○		16
443	壺	残高 3.6	刻目凸帯文 1条+竹苞文 1列。	④ミガキ ④ヨコナデ	ミガキ	赤茶色 赤茶色	石長(1~3)		
444	壺	残高 5.7	沈線文(2条1組)9条以上。	マツツ	マツツ	乳茶褐色 乳茶褐色	石長(1~3) ○		
445	壺	残高 5.4	刻突文 1列。	マツツ	マツツ	桃橙色 灰色	石長(1~4)		
446	壺	残高 8.2	ヘラ沈線文 1条以上+棒状浮文 4個+沈線文 6条以上。	ハケ(7%)→ミガキ	ナデ	暗茶色 暗茶色	石長(1~4)		
447	壺	残高 8.2	沈線文(ヘラ+2条1組)5条+沈線文 5条+沈線文 5条。	ハケ(7%)→ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳赤茶色	石長(1~4) ○		
448	壺	残高 9.0	刻突文+ヘラ沈線文 5条+刻突文。	一部ミガキ	マツツ	黄白色 茶白色	石長(1~5)		
449	壺	残高 6.2	刻突文+沈線文(2条1組)8条+刻突文。	一部ミガキ	マツツ	黄白色 黄白色	石長(1~3) ○		
450	壺	残高 8.4	山形文(2条1組)+沈線文11条+山形文。	マツツ	マツツ・ハクリ	乳灰茶色 灰白色	石長(1~3)		
451	壺	残高 7.0	沈線文 4条以上+山形文(2条1組)+沈線文(2条1組)6条。	ハケ(6%)	ナデ	乳黄茶色 茶色	石長(1~3)		
452	壺	残高 5.2	沈線文 2条以上+山形文(2条1組)+沈線文(2条1組)5条以上。	ハケ(10%)	マツツ	乳灰黄色 黄白色	石長(1~4)		
453	壺	残高 6.5	沈線文(2条1組)+山形文(2条1組)+4側の円形浮文 2列+沈線文 8条以上。	マツツ	ナデ	灰黄白色 灰黄白色	石長(1~3) ○		16
454	壺	残高 5.0	ヘラ沈線文 4条以上+斜格子目文+沈線文 2条以上。	マツツ	マツツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~5) ○		
455	壺	残高 6.6	M字状凸帯文。	④ヨコナデ	マツツ	乳灰茶色 黑灰色	石長(1~5) ○		
456	壺	残高 4.7	M字状凸帯文(刻目)。	④ミガキ ④ヨコナデ	マツツ	黑灰色 黑灰色	石長(1~3) ○		
457	壺	残高 10.0	M字状凸帯文(刻目)。凸帯文貼付面にヘラ沈線文 1条あり。	④ハクリ ④ヨコナデ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) ○		

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	回版
				外面	内面				
458	壺	残高 11.6	M字状凸唇文(刻口)。凸唇文貼付面にヘラ沈線文1条あり。	ミガキ ④ヨコナデ 貼付面にハケ(8%)	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		
459	壺	残高 7.2	M字状凸唇文(刻口)。凸唇文貼付面にヘラ沈線文1条あり。	ミガキ ④ヨコナデ	ミガキ 貼付面にハケ(6%)	乳灰色 灰色	石・長(1~4) ◎		
460	壺	残高 4.9	ヘラ沈線文1条+凸唇文2条(連續刻口1列)+沈線文3条。	ハケ(5%) 器底の上下端にミガキ ナデ ④ヨコナデ		乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1) ◎		
461	壺	口径 (9.6) 残高 8.0	細長頸壺。沈線文5条+刺突文+沈線文4条+斜突文+沈線文4条+刺突文+沈線文4条+刺突文。	ヨコナデ	ミガキ	灰黃白色 灰黃白色	石(1~3) 石(1~4) ◎		16
462	壺	底径 6.8 残高 2.7	平底。	④ヨコナデ ④ミガキ	ナデ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~4) ◎	黒底	
463	壺	底径 7.6 残高 7.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
464	壺	底径 (7.4) 残高 9.7	平底。	④ミガキ ④ナデ	ナデ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
465	壺	底径 8.2 残高 6.8	平底。	④ミガキ ④ナデ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
466	壺	底径 5.2 残高 6.7	突出する平底。	ミガキ	ミガキ	黒色 黑色	石・長(1~3) ◎		
467	壺	底径 7.4 残高 6.4	わずかに上げ底。	④ハケ(6%)→ミガキ ④マメツ	ナデ	灰黄茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
468	壺	底径 8.8 残高 9.2	わずかに上げ底。	ミガキ	④ハケ(5%)→ミガキ ④ナデ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2) ◎		
469	壺	底径 8.6 残高 10.3	突出部をもつ平底。	④ハケ(6%)→ミガキ ④ナデ	極ナデ→ミガキ	褐灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
470	壺	底径 10.0 残高 13.2	平底。	④ミガキ ④マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~8) ◎		
471	壺	底径(13.5) 残高 10.5	平底。	ハケ(5%)→ミガキ	マメツ/ハクリ	茶白色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
472	鉢	残高 4.1	折り曲げ口縁。無文。	④ナデ (指頭底)	④ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
473	鉢	残高 5.5	折り曲げ口縁。無文。	④ヨコナデ ④ミガキ	④ヨコナデ ④ミガキ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
474	鉢	残高 4.9	折り曲げ口縁。無文。	④ナデ ④ハケ(12%)	マメツ	灰黃白色 灰黃白色	長(1~2) ◎		
475	鉢	口径(3.0) 残高 7.1	大型品。折り曲げ口縁。無文。	④ヨコナデ ④ハケ(5%)	④ヨコナデ→ミガキ ④ナデ→ミガキ	黃茶色 黃茶色	長(1~2) ◎		
476	高环	底径(10.8) 残高 13.8	环脚部接合部に刻口凸唇文1条。	④ミガキ ④ヨコナデ ④マメツ	④ナデ (内底に押圧痕) ④ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~4) 安山岩多い ◎		16
477	高环	底径 (7.8) 残高 2.8	脚部は外反し、端部は「コ」字状。	マメツ	マメツ	乳灰桃色 乳灰桃色	石・長(1~3) ◎		
478	コシキ	底径 6.7 残高 4.5	變形土器の転用品。平底。横円形状の孔(Φ0.7~1.0cm)	マメツ	マメツ	乳灰桃色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
479	コシキ	底径 6.7 残高 5.2	變形土器の転用品。平底。横円形状の孔(Φ0.8~1.1cm)	④ハケ(5%)→ミガキ ④マメツ	ナデ	乳茶色 黑灰色	石・長(1~4) ◎	内面に 燒	

出土遺物観察表

SD1 ⑤層出土遺物観察表 土製品

(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
480	コシキ	底径 7.0 残高 6.0	変形土器の転用品。上げ底。 円孔(Φ1.2cm)。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳灰黄色	石長(1~3) ○		
481	コシキ	底径 7.2 残高 7.0	変形土器の転用品。平底。 丸あり(Φ2.0cm)。	⑩ハケ(4~5%) ⑩ナデ	マメツ	乳赤茶色 黄茶色	石長(1~2) ○		
482	口径 2.5 底径 1.7 器高 1.8	直口横		マメツ	マメツ	暗赤茶色 暗赤茶色	石長(1~3) ○		

表21 SD1 ⑤層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
483	石庖丁	2/3	結晶片岩	(6.70)	4.00	0.64	28.75	
484	石庖丁	小片	結晶片岩	(3.60)	3.30	0.52	9.70	
485	石庖丁		結晶片岩	8.40	4.70	1.24	63.31	未製品
486	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(10.80)	(5.30)	(1.32)	93.60	
487	スクレイバー	完形	安山岩	8.30	5.00	2.00	62.07	
488	石核	完形	安山岩	15.50	10.40	1.80	383.00	
489	石核	完形	安山岩	9.50	8.30	1.60	173.53	
490	砥石		不明	4.50	3.90	6.10	150.17	

表22 SD1 ⑦層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
491	甕	口径(20.4) 残高 7.3	貼付口縁。ヘラ沈線文4条。	マメツ	ナデ	乳茶色 灰茶色	石長(1~5) ○		
492	甕	残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に連鎖状刻目文 1列。	ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	灰黃白色	石長(1~3) ○		
493	甕	口径(17.2) 残高 5.7	折り曲げ口縁。無文。	⑩ナデ ⑩け(8%)→ミガキ	ナデ→ミガキ	乳灰茶色 乳灰黄色	石長(1~4) ○		
494	甕	残高 4.9	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ 沈線文11条以上。	⑩ヨコナデ ⑩ハケ(7%)	ミガキ	乳赤茶色 乳赤茶色	石長(1~3) ○		
495	甕	残高 2.8	ヘラ沈線文6条以上。	ハケ(3%)→ヨコナデ	ナデ	乳灰茶色 乳赤茶色	石長(1~2) ○		
496	甕	残高 2.6	ヘラ沈線文1条以上+刺突文。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石長(1~3) ○		
497	甕	底径 5.6 残高 3.1	平底。	ナデ	マメツ	暗赤茶色 暗茶色	石長(1~5) ○		
498	甕	底径(7.6) 残高 3.3	わずかに上げ底。	⑩ハケ(12%)→ナデ ⑩ナデ	マメツ	乳赤茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		
499	甕	底径 7.2 残高 4.6	わずかに上げ底。	⑩ハケ(10%) ⑩板ナデ	ナデ	赤茶色 赤茶色	石長(1~3) ○		

出土遺物観察表

SD1 ⑦層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (内記)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
500	壺	底径 8.2 残高 7.7	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	赤茶色 黒灰色○	石長(1~5)		
501	壺	口徑(6.4) 残高 2.8	外反する口縁部。無文。	マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色○	石長(1~3)		
502	壺	口徑(5.8) 残高 3.4	短く外反する口縁部。無文。	⑩ヨコナデ ⑪脚付-ヨコナデ	ヨコナデ→ミガキ	乳灰桃色 乳灰桃色○	石長(1~3)		
503	壺	口徑(5.3) 残高 6.9	直立する頸部に短く外反する口縁部。 無文。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~4)		
504	壺	残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面に 沈線文か?	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	ミガキ	灰黄色 灰黄色○	石長(1~5)		
505	壺	口徑(19.4) 残高 1.5	大きく外反する口縁部。口縁端面に ヘラ沈線文1条+刻目。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色○	長(1)		
506	壺	口徑(21.2) 残高 8.7	大きく外反する口縁部。頸部にヘラ 沈線文5条+刻目凸蒂文1条。内面 に刻目凸蒂文1条。	⑩ヨコナデ ⑪カット記-ヨコナデ	ミガキ ⑩ヨコナデ	茶色 灰茶色○	石長(1~3)		
507	壺	残高 4.9	凸蒂文1条。	⑩脚付-ヨコナデ ⑪ハケ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ ⑩ヨコナデ	灰茶色 灰茶色○	石長(1~3)		
508	壺	残高 3.0	注口状の凸蒂文1条。	マメツ	マメツ	暗茶色 暗茶色○	石長(1~3)		
509	壺	残高 7.2	沈線文2条。	⑩ハケ付-ヨコナデ ⑪ハケ	ミガキ	黄色 黄色○	石長(1~5)		
510	壺	残高 8.0	沈線文(2条1組)8条以上。	マメツ	ミガキ	乳灰黄色 乳灰黄色○	石長(1~4)		
511	壺	残高 4.9	ヘラ沈線文5条以上。	ハケ(8mm)→ナデ	マメツ	桃橙色 桃桃色○	石長(1~3)		
512	壺	残高 4.3	断面方形状の凸蒂文1条。凸蒂上に 格子文。	ヨコナデ	ミガキ?	黒灰色 乳黄茶色○	石長(1~3)		
513	壺	残高 14.2	クシ沈線文9条-刻突文+沈線文5 条+刻突文+沈線文10条-刻突文。	ミガキ	ナデ	乳赤茶色 赤茶色○	石長(1~3)	16	
514	壺	残高 10.1	刻目凸蒂文3条。	ミガキ ⑩ヨコナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~3)	川底	
515	壺	底径(4.4) 残高 5.0	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~3)		
516	壺	底径 6.7 残高 5.7	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色○	石長(1~3)		
517	壺	底径(7.8) 残高 4.8	平底。	ナデ (指痕痕)	ナデ (指痕痕)	乳茶色 乳黄茶色○	石長(1~5)		
518	壺	底径(10.6) 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色○	石長(1~3)		
519	壺	底径 6.7 残高 3.6	平底。	⑩カット記-ハナデ ⑪脚付	ナデ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~3)		
520	壺	底径(7.0) 残高 3.1	平底。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	黒灰色 茶桃色○	石長(1~5)		
521	壺	底径(7.8) 残高 3.5	平底。	マメツ	ナデ? (工具痕)	乳灰茶色 乳灰色○	石長(1~3)		

SD1 ⑦層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種 法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面				
522	壺 底径 6.6 残高 3.7	たちあがりをもつ平底。	⑩ハケ(7mm)	ミガキ	茶色 茶	石長(1~7) 色○		
523	壺 底径(7.2) 残高 4.3	たちあがりをもつ平底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	マメツ	灰黄色 黄色	石長(1~4) 白色○		
524	壺 底径 10.8 残高 6.2	たちあがりをもつ平底。 留壁厚い。	ミガキ	マメツ	乳灰茶色 灰黄色	石長(1~4) 白色○		
525	壺 底径(17.0) 残高 6.2	平底。	⑩マメツ ⑩ナデ	ミガキ	乳灰黄色 乳灰黄色	石長(1~6) ○		
526	壺 底径 8.1 残高 5.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 灰黄色	石長(1~4) 白色○		
527	壺 底径(8.6) 残高 5.4	わずかに上げ底。	⑩ハケ(7mm)→ミガキ ⑩ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
528	鉢 残高 5.2	折り曲げ口縁。無文。	ナデ	⑩ヨコナデ ⑩ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~5) ○		
529	鉢 底径(20.0) 残高 10.3	折り曲げ口縁。無文。	⑩ヨコナデ ⑩ハケ(7mm)	⑩ヨコナデ ⑩マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
530	鉢 底径 5.8 残高 2.9	たちあがりをもつ上げ底。	⑩ミガキ? ⑩ナデ	マメツ	乳茶色 乳黄色	石長(1~6) ○		
531	鉢 底径(11.0) 残高 3.0	平底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		

表23 SD1 ⑦層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
532	石 鐵 光形	赤色チャート		2.90	1.70	0.28	1.38		
533	扁平片刃石斧	刃部欠損	結晶片岩	(7.00)	3.90	1.90	82.62	未製品	
534	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(16.40)	(4.30)	(1.80)	173.08		

表24 SD1 ⑧層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
535	壺	口径(22.4) 残高 5.9	折り曲げ口縁。沈線文7条。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石長(1~3) ○		
536	壺	底径 5.9 残高 7.6	平底。	⑩ハケ(7mm)→ナデ ⑩ナデ (工具痕)	ナデ	乳灰茶色 乳灰黄色	石長(1~4) ○		
537	壺	口径(19.6) 残高 8.0	大きく外反する口縁部。口縁端面に刻目。頸部に沈線文4条以上。内面に凸凹文の貼付痕あり。	⑩ハケ(7mm)→ミガキ ⑩ハケ	ミガキ	灰黄色 灰黄色	石(1~3) ○		
538	壺	残高 4.6	刻目凸凹文1条。	ハケ(7mm)→ミガキ ⑩ヨコナデ	ミガキ	乳灰黄色 黄白色	石長(1~6) ○		
539	壺	底径(7.7) 残高 6.1	平底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	マメツ (指頭痕)	乳橙色 乳灰色	石長(1~4) ○		
540	壺	底径(10.0) 残高 4.3	平底。	ミガキ	マメツ	黄白色 黄白色	石長(1~2) ○		

出土遺物観察表

表25 SD1 地点不明出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
541	伐採斧	刃部欠損	不明	(9.10)	4.60	2.10	101.02	
542	器種不明品		不明	6.30	2.30	0.50	10.37	

表26 SD2 ①層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(表面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
543	甕	口径(23.2) 残高 6.6	貼付口縁。無文。	⑦ヨコナデ ⑧ミコナデ→ミガキ	ナデ	灰赤茶色 灰茶色	石長(1~2)	○	
544	甕	口径(14.2) 残高 3.9	貼付口縁。肩部に断面三角形状の凸 部文1条。	⑦ヨコナデ ⑧マメツ	マメツ	乳黄茶色 灰 色	石長(1~3)	○	
545	甕	口径(25.8) 残高 6.2	折り曲げ口縁。沈線文9条+斜突文。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~4)	○	
546	甕	口径(20.2) 残高 6.1	折り曲げ口縁。沈線文11条(2条1組)+斜突文。	⑦ヨコナデ ⑧ハケ(8%)	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1~2)	○	17
547	甕	口径(25.8) 残高 4.7	「く」の字状口縁。端部に刻目凸帯文 1条。弥生後期初頭。	⑦ヨコナデ ⑧ナデ ⑨ミガキ	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~4)	○	
548	甕	残高 6.0	無文。	⑦ヨコナデ ⑧マメツ	マメツ	黄茶色 黄茶色	石長(1~4)	○	
549	甕	残高 6.7	沈線文8条以上+斜突文+沈線文5条以上。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石長(1~2)	○	
550	甕	残高 8.7	沈線文9条+斜突文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳赤茶色	石長(1~4)	○	
551	甕	底径(7.4) 残高 2.6	やや上げ底。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1~3)	○	
552	甕	底径(6.0) 残高 2.1	やや上げ底。	マメツ	マメツ	茶色 灰色	石長(1~3)	○	
553	甕	底径(7.0) 残高 4.2	やや上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~4)	○	
554	甕	底径(6.4) 残高 3.0	平底。	ミガキ?	マメツ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3)	○	
555	甕	底径(4.4) 残高 3.0	平底。内面ハクリ。	マメツ	ハクリ	乳灰茶色 黄白色	石長(1~4)	○	
556	甕	底径(7.0) 残高 3.4	平底。	マメツ	ハクリ	茶色 灰色	石長(1~4)多	○	
557	甕	底径(5.6) 残高 4.2	平底。	⑨ミガキ ⑩ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3)	○	
558	甕	底径(6.0) 残高 3.6	平底。	ハクリ	マメツ	乳茶色 乳灰色	石長(1~4)	○	
559	甕	底径(6.4) 残高 4.6	わずかに上げ底。	ミガキ	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石長(1~5)	○	
560	甕	底径 6.4 残高 5.5	わずかに上げ底。	⑩ハケ(6%)→ミガキ ⑪ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~3)	○	

出土遺物観察表

SD2 ①層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外)色調 内面	胎土 (内面)	焼成	備考	図版
				外面	内面					
561	甕	底径(6.4) 残高 4.2	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 石長(1~6)多 乳灰茶色 ○				
		底径 7.6 残高 4.2	平底。	⑩一部ミガキ ⑪ナデ	ナデ	黒色(-黒色) 石長(1~3) 茶色 ○				
563	甕	底径(7.2) 残高 3.8	くびれの上げ底。弥生中期後半。	ナデ	マメツ	茶色 石長(1~3) 灰茶色 ○				
		底径(6.6) 残高 4.0	くびれの上げ底。弥生中期後半。	ナデ	マメツ	乳赤茶色 石長(1~2) 灰色 ○				
565	甕	口径(15.2) 残高 4.4	内縁する頸部に短く外反する口縁部。 無文。	⑪ヨコナデ(滑輪) ⑫ナデ	マメツ	乳茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○				
		口径(17.4) 残高 5.3	口縁端部は上下方に拡張し、口縁前面に凹線文4条。 弥生中期後半。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 長(1~2) 乳灰茶色 ○				
567	甕	残高 4.2	頸部に刻目凸唇文1条。	ミガキ ⑬ヨコナデ	マメツ	茶色 石長(1~2) 灰茶色 ○				
568	甕	底径(5.0) 残高 3.2	厚みのある上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 石長(1~3) 乳茶色 ○				
569	甕	底径(5.6) 残高 4.3	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 石長(1~2) 乳灰黄色 ○				
570	甕	底径(6.4) 残高 5.4	立ち上がりをもつ平底。	⑩ハケ(6%) ⑪ナデ	マメツ	乳茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○				
571	甕	底径 7.2 残高 4.7	丸みのある平底。	マメツ	マメツ	細白(-黒色) 石長(1~4) 黄白色 ○				
572	甕	底径(7.6) 残高 2.9	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 石長(1~3) 乳茶色 ○				
573	甕	底径(7.4) 残高 4.5	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 石長(1~2) 乳茶色 ○				
574	甕	底径(6.8) 残高 4.4	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 石長(1~2) 灰色 ○				
575	甕	底径(6.6) 残高 5.3	やや丸みのある平底。	マメツ	マメツ	灰茶色 石長(1~4) 暗灰茶色 ○				
576	甕	底径(8.8) 残高 3.0	平底。器壁薄い。	マメツ	マメツ	灰色 石(1~4) 灰褐色 ○				
577	甕	底径(10.4) 残高 4.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 石長(1~3) 黑色 ○				
578	甕	底径(12.8) 残高 2.0	平底。	⑩ハケ(6%) ⑪マメツ	マメツ	乳赤茶色 石長(1~5) 乳赤茶色 ○				
579	高杯	残高 2.5	脚端部は内方に拡張し、裾部に凹線文4条以上。 弥生中期後半。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 石長(1~2) 灰色 ○				
580	甕	口径(10.8) 残高 6.2	須恵器。外縁する口頭部。口縁端面は凹む。ヘラ沈線文2条。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ+ナデ	灰色 長(1)密 灰色 ○	須恵器			

出土遺物観察表

表27 SD2 ①層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
581	扁平片刃石斧	3/4	結晶片岩	4.90	2.10	0.60	10.50		
582	砥石		不透明	8.90	7.10	1.20	65.35		

表28 SD2 ①層出土遺物観察表 金属製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
583	鎌か剣先	ほぼ完形	鉄	4.10	2.40	1.10	8.69		

表29 SD2 ①層出土遺物観察表 装身具

番号	器種	残存	材質	色調	法量				備考	図版
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
584	管玉	ほぼ完形	碧玉	濃緑色	1.70	0.55	0.10	7.20		

表30 SD2 ②層出土遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
585	甕	口径(22.0) 残高 8.2	貼付口縁。沈線文6条。	マツツ	ナデ	灰茶色 茶色	石長(1~5) ○		
586	甕	残高 8.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	マツツ	マツツ	灰黄色 黄白色	石長(1~4) ○		
587	甕	口径(33.0) 残高 12.2	折り曲げ口縁。口縁端面にハラ沈線文1条+刻目。沈線文6条(2条1組)+山形文+沈線文6条。外文系。	マツツ	ミガキ ナデ	黄白色 黄白色	石長(0~4) ○		17
588	甕	残高 3.2	沈線文(2条1組)4条+刻文+沈 線文1条+刻文。	マツツ	マツツ	黑色 乳茶色	石長(1~2) ○		
589	甕	口径(13.8) 残高 6.5	直口縁。口縁端面は「コ」字状。 口縁下に断面三角形状の凸唇文1条。	マツツ	マツツ	灰茶色 灰色	石長(1~3) ○		
590	甕	底径 (4.4) 残高 3.6	丸みのある小さな平底。	マツツ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
591	甕	底径 (6.0) 残高 2.6	わずかに上げ底。	マツツ	マツツ	乳茶色 灰色	石長(1~3) ○		
592	甕	底径 (6.0) 残高 4.2	わずかに上げ底。	マツツ	ナデ	黒褐色 黑色	石長(1~4) ○		
593	甕	底径 (6.4) 残高 5.1	半底。	マツツ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~5) ○		
594	甕	底径 7.0 残高 5.1	平底。	一部ハケ(7%)	マツツ	黄茶色 茶色	石長(1~3) ○		
595	甕	口径(20.0) 残高 5.0	大きく外反する口縁部。無文。	ヨコナデ ハケ(4%)→ナデ ハケ(3%)→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ ナデ	暗茶色 暗茶色	石長(1~2) ○		
596	甕	残高 6.5	筒状の口縁部。頸部に断面三角形状の 凸唇文1条。	ハケ(8%) ヨコナデ	マツツ	茶色 茶色	石長(1~3) ○		
597	甕	残高 3.7	ヘン沈線文1条以上+M字状凸唇文(押 印)1条+凸唇文(押印)1条+沈線文3条以上。	ヨコナデ ハケ(6%)	マツツ	灰茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
598	甕	底径 (8.0) 残高 3.1	わずかに上げ底。	一部ハケ(6%)	マツツ	乳橙色 黄白色	石長(1~3) ○		

出土遺物観察表

SD2 ②層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
599	壺	底径(8.2) 残高 2.6	平底。内面はハクリ。	ナデ	ハクリ	乳黄茶色 黄白色	石長(1~3) ○		
600	壺	底径(9.8) 残高 6.4	肩みのある平底。	一部ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
601	蓋	口徑 5.6 残高 1.6	つまみ中央部が大きく凹む。	ナデ (指頭痕)	マメツ	黄色 黄白色	石長(1~5) ○		
602	蓋	口徑(5.8) 残高 3.8	つまみ中央部がやや凹む。	ナデ	ナデ	茶色 灰茶色	石長(1~4) ○		
603	壺	口徑(18.0) 残高 3.5	須恵器。小さく外反する口基部。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰白色	長(1) ○	須恵器	

表31 SD2 ②層出土遺物観察表 石製品

番号	種類	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
604	石器素材	完形	結晶片岩	10.80	1.80	1.65	62.05	

表32 SD2 ③層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
605	甕	口徑(23.8) 残高 3.9	貼付口縁。沈線文6条以上。	マメツ	マメツ	乳桃色 乳桃色	石長(1~4) ○		
606	甕	口徑(29.2) 残高 3.4	貼付口縁。ヘラ沈線文5条以上。	ナデ	ミガキ	乳茶色 茶色	石長(1~2) ○	黒底	
607	甕	口徑 23.0 残高 20.0	貼付口縁。口縁端面に連續状刻片文2列。脇部にヘラ沈線文7条。	マメツ	マメツ (白線下に指痕痕)	暗茶色 暗茶色	石長(1~6) ○		17
608	甕	口徑(27.6) 残高 16.8	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文5条。	⑪ナデ ⑯ミガキ	⑪ナデ ⑯ミガキ	灰茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
609	甕	口径(25.0) 残高 16.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文5条。	⑮ヨコナデ ⑯板ナデ	⑫ヨコナデ ⑯ミガキ	暗茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
610	甕	残高 1.8	折り曲げ口縁。小片。	ナデ	ナデ	茶色 茶色	長(1~2) ○		
611	甕	残高 9.1	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)4条+刻実文+沈線文3条。	ミガキ	⑪ナデ ⑯ミガキ	茶色 茶色	石長(1~3) ○		
612	甕	残高 4.3	ヘラ沈線文5条以上。	ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石長(1~2) ○		
613	甕	口徑(15.3) 残高 22.8	「く」字状口縁。口縁端面は面をもつ。 弥生中期後半。	ハクリ	ハクリ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~2) ○		17
614	甕	底径(7.0) 残高 4.4	わずかに上げ底。	⑮ハケ(6%) ⑯ナデ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~4) ○		
615	甕	底径(5.4) 残高 4.0	平底。	マメツ	マメツ	黒灰茶色 灰茶色	石長(1~4) ○		
616	甕	底径(8.0) 残高 2.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	赤茶色 灰茶色	石長(1~3) ○		
617	甕	底径(6.9) 残高 2.4	わずかに上げ底。	ハケ(8%)	ハクリ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2) ○		

出土遺物観察表

SD2 ③層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面)色調(内面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
618	甕	底径 5.6 残高 5.3	平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 灰茶色○	石長(1~4)		
619	甕	底径 5.4 残高 5.1	平底。	ミガキ	ミガキ?	灰白色 乳茶色○	石長(1~3)		
620	壺	口径(5.8) 底径(6.0) 残高 32.3	内折する頸部に短く外反する口縁部。頸部にヘラ沈線文7条。肩部に圓文3条。	⑨ハケ(5.8)→ヨコナデ ⑩ハケ ⑪ミガキ	マメツ	黄茶色 灰色○	石長(1~5)	黒斑	17
621	壺	口径(13.8) 底径 4.3	短く外反する口縁部。頸部にヘラ沈線文1条以上。	ヨコナデ (垂頭腹)	ナデ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~4)		
622	壺	残高 6.8	ヘラ沈線文1条+ト刻H内帶文1条+沈線文2条以上。	ミガキ	ミガキ	茶色 灰色○	石長(1~4)		17
623	壺	残高 6.9	外向に凸帯文3条。内面に注口状の凸帯文1条。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色○	石長(1~4)		
624	壺	底径 9.0 残高 5.8	わずかに上げ底。	⑨ハケ(5.8)→ヨコナデ ⑩ナデ	板ナデ+ミガキ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~3)	黒斑	
625	壺	底径(8.2) 残高 5.4	立ち上がりをもつ平底。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色○	石長(1~2)		
626	壺	底径 7.9 残高 3.0	平底。	⑨ミガキ ⑩ナデ	ハクリ	灰茶色 乳灰茶色○	石長(1~5)	黒斑	
627	壺	底径 8.4 残高 11.2	平底。	マメツ	一部ミガキ	灰桃色 乳茶色○	石長(1~4)		
628	壺	底径 9.5 残高 9.3	平底。	マメツ	ナデ	乳黃灰色 乳黃灰色○	石長(1~5)		
629	壺	底径 9.7 残高 6.3	平底。	⑨ハケ(6.3)・ナデ ⑩ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色○	石長(1~2)		
630	鉢	残高 3.7	貼付口縁。無文。	⑨ヨコナデ ⑩ナデ	板ナデ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~2)		

表33 SD2 ③層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			重さ(g)	備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
631	スクレイバー	完形	サヌカイト	7.60	3.00	0.80	16.86		18

表34 SD2 ④層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面)色調(内面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
632	甕	残高 1.1	折り曲げ口縁。無文。	ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色○	石長(1~6)		
633	甕	底径(5.6) 残高 5.4	平底。	⑨ハケ(7.6) ⑩ナデ	マメツ	灰茶色 灰茶色○	石長(1~5)		
634	甕	底径 6.0 残高 3.7	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 黄白色○	石長(1)		
635	壺	口径(15.2) 残高 4.4	外反する口縁部。ヘラ沈線文1条以上。	ナデ	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	乳茶色 乳茶色○	石長(1~3)		
636	壺	口径(19.0) 残高 3.6	外反する口縁部。無文。	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	ナデ	灰黃白色 灰黃白色○	石長(1~2)		

出土遺物観察表

SD2 ④層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
637	壺	残高 3.7	内面に凸帯文 1 条。	マメツ	ヨコナデ	乳灰黄色 乳茶色	石長(1~3) ○		
638	壺	残高 3.1	ヘラ沈線文 1 条+凸帯文 2 条以上。	マメツ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~5) ○		
639	壺	残高 6.0	ヘラ沈線文 5 条+凸帯文 1 条以上。	マメツ	マメツ	灰黄色 乳茶色	石長(1~2) ○		
640	壺	底径 (6.4) 残高 4.1	平底。	⑨ハケ(7mm) ⑩マメツ	マメツ	乳茶色 茶色	石長(1~3) ○		
641	壺	底径 (7.8) 残高 4.9	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ上げ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
642	壺	底径 (8.0) 残高 3.1	わずかに上げ底。	⑨ミガキ (工具痕) ⑩ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		

表35 SD2 ④層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
643	石器素材	ほぼ完形	結晶片岩	11.60	3.20	1.30	84.41		

表36 SD2 ⑤層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
644	壺	口徑(15.2) 残高 5.3	直立する頸部に頑外反するU縫部。 ヘラ沈線文 5 条以上。	ハケ(7mm)→ヨコナデ	マメツ	暗茶色 乳黄茶色	石長(1~3) ○		
645	壺	口徑(17.3) 残高 5.2	外反する口縫部。頸部に凸帯文(油鑄 状刻目文 2 列) 1 条。内面に凸帯文 1 条。	ミガキ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石長(1~2) ○		
646	壺	残高 19.3	球形の胴部。	ナデ→ミガキ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) ○	黒斑	
647	壺	残高 7.1	格子目文。	ナデ	ナデ	暗茶色 乳茶色	石長(1~4) ○		
648	壺	底径 (11.4) 残高 5.3	わずかに上げ底。	ナデ	マメツ	灰色 乳灰茶色	石長(1~3) ○		
649	壺	底径 (9.6) 残高 3.2	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	乳黄茶色 茶色	石長(1~3) ○		
650	壺	底径 (7.4) 残高 2.9	平底。	ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○		
651	鉢	残高 9.2	貼付口縫。無文。	⑨ヨコナデ ⑩ナデ	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3) ○	黒斑	

表37 SD2 ⑤層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
652	柱状片刃石斧	刃部欠損	不明	7.40	3.30	1.40	55.18		

出土遺物観察表

表38 SD2 地点不明出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
653	石庖丁	ほぼ完形	結晶片岩	13.10	6.10	0.50	93.54	未製品

表39 SK2 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
654	壺	残高 4.5	ヘラ沈線文 4条以上。	ヨコナデ	ハケ(0.1~1.0)→ ヨコナデ	乳茶色	石・長(1~2)	乳茶色	◎

表40 SK1 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
655	スクレイパー	完形	不明	4.30	7.00	0.90	24.80	片刃

表41 SK13 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
656	甕	残高 7.0	折り曲げ口縁。無文。	マメツ	マツメ	乳茶色	石・長(1)		
						乳茶色	◎		
657	甕	底径 5.9 残高 3.1	丸みのある平底。器壁薄い。	マメツ	マツメ	乳灰茶色	石・長(1~2)		
						乳灰黄色	◎		

表42 SK13 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
658	砥石	ほぼ完形	不明	11.20	8.70	4.30	680.00	

表43 SK5 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
659	甕	口径(21.6) 残高 14.4	折り曲げ口縁。口縁端部は下方に肥厚。 無文。	⑤ヨコナデ ⑥ヘラミガキ	⑦ヨコナデ ⑧ナデ+ミガキ	暗茶色	石・長(1~3)		
						暗茶色	◎		
660	甕	残高 4.2	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)8 條以上。生前中期～中期初頭。	ハケ(9%)	マメツ	乳茶色	石・長(1~2)		
						乳茶色	◎		
661	甕	底径 4.2 残高 10.8	底部外縁はハクリ。	ハクリ	ナデ	灰赤茶色	石・長(1~2)		
						灰赤茶色	◎		
662	甕	底径 (7.9) 残高 12.2	くびれの上げ底。	⑨板ナデ ⑩ナデ	⑪板ナデ ⑫ナデ	暗茶色	石・長(1~3)		
						暗茶色	◎		
663	壺	口径(6.0) 残高 4.0	傾く外反する口縁部。口縁端面にヘ ラ沈線文1条+刻目。内面に注口状 の凸沿文。	マメツ	ナデ	黄白色	石・長(1~2)		
						黄白色	◎		

表44 SK5 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
664	台石	光形	不明	24.80	22.40	8.30	6,950.00	

出土遺物観察表

表45 柱穴 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
665	甕	残高 1.5	折り曲げ口縁。口縁端部に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4)	SP83	
666	甕	残高 4.7	「く」字伏口縁。口縁端部は面をもつ。	ミガキ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~2)	SP29	
667	甕	残高 3.6	ヘラ沈線文 2 条以上 + 刻突文。	マツツ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~5)	SP3	
668	甕	底径 6.0 残高 13.7	くびれの上げ底。 弥生後期末。	⑥タキ→ミガキ ⑥ナデ	⑥板ナデ ⑥ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石長(1~5)	SP53 黒斑	
669	甕	底径 (8.5) 残高 4.1	脚台風の底部。台付鉢の可能性あり。	ナデ	ナデ	乳赤茶色 黒色	石長(1~4)	SP53	
670	甕	底径 6.6 残高 5.7	くびれの上げ底。 弥生中期後半。	マツツ	マツツ	乳赤茶色 灰黄色	石長(1~2)	SP92	
671	甕	底径 6.6 残高 3.1	厚みのある平底。	ミガキ	マツツ	灰茶色 灰茶色	石長(1~5)	SP38	
672	甕	底径 (8.2) 残高 2.5	平底。	マツツ	マツツ	乳灰黄色 乳灰茶色	石長(1~5)	SP82	
673	甕	底径 (9.2) 残高 3.4	平底。	ミガキ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3)	SP24	
674	高环	残高 3.7	「ハ」の字状に聞く脚部。	ヨコナデ	マツツ	乳茶色 乳灰黄色	石長(1~2)	SP56	
675	高环	底径 (10.0) 残高 3.6	脚部は外反し、縦部外面に凹線文 3 条。 弥生中期後半。	マツツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4)	SP56	

表46 柱穴 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
676	柱状片刃石斧	刃部一部欠損	不明	15.90	3.20	3.20	350.00	SP90	

表47 第IV層 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
677	甕	口径 (28.0) 残高 4.2	「く」字状口縁。口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。	⑥ヨコナデ ⑥マツツ	マツツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3)		
678	甕	口径 (34.0) 残高 4.4	「く」字伏口縁。口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。頭部に刻目六帯文 1 条。	⑥ヨコナデ ⑥マツツ	⑥マツツ ⑥ミガキ	乳茶色 乳茶色	石長(1~3)		
679	甕	口径 (31.8) 残高 6.6	「く」字伏口縁。口縁端部は丸みのある面をもつ。	⑥ヨコナデ ⑥ミガキ	⑥ヨコナデ ⑥ミガキ	暗茶色 暗茶色	石長(1)		
680	甕	口径 (16.4) 残高 7.5	「く」字状口縁。口縁端部は「コ」字状。	⑥ヨコナデ ⑥マツツ	⑥マツツ ⑥ケズリ→ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石長(1~3)		
681	甕	底径 (5.4) 残高 2.7	平底。	⑥ミガキ ⑥ナデ	マツツ	乳茶色 灰茶色	石長(1~3)		
682	甕	底径 (5.9) 残高 2.5	わずかに上げ底。弱いくびれをもつ。	ナデ	マツツ	灰茶色 乳茶色	石長(1~3)		
683	甕	底径 (6.4) 残高 2.5	くびれの上げ底。	マツツ	マツツ	暗赤茶色 乳茶色	石長(1~7)		

第IV層 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
684	壺	底径(7.3) 残高 5.3	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	灰茶色 茶色	石長(1~5) ◎		
685	壺	底径(8.2) 残高 5.5	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石長(1~3) ◎		
686	壺	底径(7.0) 残高 5.8	平底。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
687	壺	底径(7.1) 残高 8.0	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
688	壺	口径 14.5 残高 11.3	内傾する頸部に短く外反する口縁部。 無文。	⑨ナデ ⑩ハケ→ミガキ	ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ◎		
689	壺	残高 5.5	ヘラ沈線文 4条+凸蒂文(連鎖状斜 文 1列)、頸部上位に穿孔 2個。内 面に内凸文 1条。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎	18	
690	壺	底径(7.0) 残高 2.8	平底。	マメツ	ナデ	灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ◎		
691	壺	底径(7.8) 残高 3.9	平底。	マメツ	マメツ	乳橙色 灰黄色	石・長(1~4) ◎		
692	壺	底径(10.4) 残高 3.8	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
693	壺	底径(10.0) 残高 4.8	平底。	板ナデ	ナデ→ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ◎		
694	壺	底径(10.6) 残高 4.6	平底。	マメツ	マメツ	乳棕色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
695	壺	底径 10.2 残高 5.7	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
696	壺	底径(8.2) 残高 6.7	平底。	ミガキ	マメツ	黑色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
697	壺	底径 8.5 残高 6.4	厚みのある平底。	ミガキ	ナデ	茶色 茶色	石・長(1~5) ◎	黒斑	
698	壺	底径 9.4 残高 6.7	平底。	ミガキ	ナデ	乳黄茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎	黒斑	
699	壺	底径(11.0) 残高 6.8	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
700	壺	底径 9.5 残高 6.8	平底。	⑨ミガキ ⑩ナデ	マメツ	墨灰色 茶色	石・長(2~5) ◎		
701	鉢	口径 14.0 残高 7.3	口縁下に断面三角形の鶴状の凸唇が 巡る。	⑨ヨコナデ ⑩ハケ(6%) ⑪ケズリ	⑪ハケ(6%)→ ヨコナデ シボリ底	暗茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ◎		--
702	高杯	残高 5.4	ヘラ沈線文 6条、裏面しない矢羽根 状透かし 4箇所。	マメツ	シボリ底	灰黄白色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
703	高杯	底径(9.0) 残高 1.6	ヘラ沈線文 2条以上+山形文(2条 1組)。	マメツ	マメツ	灰黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎	18	
704	筋輪車	径 4.3 厚さ 0.6	土器削輪片の再利用品のため溝曲が 見られる。中央部に両面から径 0.3cm の大孔を穿つ。	ミガキ	ナデ	灰黄灰色 黄灰色	石・長(1~2) ◎		18

出土遺物観察表

表48 SX1 出土遺物観察表 土製品

番号	器種 法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (表面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面				
705	甕 残高 2.8	折り曲げ口縁。無文。	ヨコナデ	ミガキ	暗茶色 暗茶色	石長(1~6) 茶色	○	
706	甕 口径(15.0) 残高 4.2	短く外反する口縁部。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石長(1~5) 茶色	○	
707	甕 口径(20.0) 残高 4.7	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は先端り。口縁中位に不明瞭な棱をもつ。	ヨコナデ	④ヨコナデ ④ハケ(7mm)	暗茶色 暗茶色	石長(1~5) 茶色	○	
708	甕 口径(39.6) 残高 7.2	大きめ外反する口縁部。口縁端面にハラ沈線文2条+刻目。	ハケ(4mm)	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石長(1~5) 茶色	○	
709	甕 底径(16.0) 残高 3.2	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石長(1~7) 茶色	○	
710	高杯 残高 6.7	筒状の柱部。	マメツ	ケズリ	茶色 茶色	石長(1~1) 茶色	○	
711	甕 口径(16.8) 残高 3.7	内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石長(1~3) 茶色	○	
712	高杯 残高 11.0	中央で長い脚柱部。脚部は外反する。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石長(1~4) 茶色	○	18
713	高杯 残高 12.3	中央で長い脚柱部。脚部は外反する。外面にヘラケズリあり。	ヘラケズリ	ケズリ	赤茶色 赤茶色	石長(1~4) 茶色	○	18
714	坏蓋 口径(12.2) 残高 4.0	丸みのある天井部。口縁部は垂下し、口縁端部は丸い。	④回転ハケズリ/12 ④回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 灰白色	石長(1~2) 茶色	○	
715	坏身 口径(13.6) 残高 2.9	たちあがりは近く内傾した後、直立し端部は尖る。受部は水平にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石長(1~3) 茶色	○	
716	甕 口径(16.6) 残高 4.6	口縁部は外反し、口縁端部は玉縁状に仕上げる。	④タタキ→ナデ ④タタキ→カキメ	回転ナデ	灰色 灰色	石長(1~3) 茶色	○	18

表49 第III層 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種 法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (表面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面				
717	甕 口径(14.0) 残高 3.8	内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	マメツ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石長(1~3) 茶色	○	
718	甕 口径(15.0) 残高 4.0	内湾する口縁部。中位でやや肥厚する。口縁端部は「コ」字状。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	石長(1~6) 茶色	○	
719	甕 口径(15.6) 残高 3.5	わずかに内湾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 茶色	石長(1~2) 茶色	○	
720	甕 口径(17.8) 残高 4.0	内湾する口縁部。口縁端部は先端りする。	マメツ	マメツ	暗灰黄色 暗灰黄色	石長(1~4) 茶色	○	
721	甕 口径(21.0) 残高 3.5	内湾する口縁部。口縁端部は内傾し、内面に不明瞭な棱をもつ。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石長(1~4) 茶色	○	
722	甕 口径(18.3) 残高 4.1	内湾する口縁部。口縁端部は内傾し、内面に不明瞭な棱をもつ。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石長(1~3) 茶色	○	
723	甕 口径(19.6) 残高 5.2	外傾する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	④ヨコナデ ④ハケ(8mm)	ハケ(8mm)→ナデ	茶色 茶色	石長(1~2) 茶色	○	
724	甕 口径(18.4) 残高 3.2	内湾する口縁部。口縁端部は「コ」字状。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 茶色	石長(1~2) 茶色	○	18

(2)

第三層 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) 内面	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
725	甌	残高 7.5	把手部。舌状に下方に湾曲する。	ハケ(7%)→ナデ		茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		18
726	高杯	残高 7.7	中実の細長い脚柱部。	マメツ	マメツ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
727	环蓋	口径(14.2) 残高 3.1	天井部と口縁部の境界に不明瞭な後 をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 灰色	長(1) ◎		
728	环身	口径(13.8) 残高 2.4	たちあがりは低く内傾し、端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1) ◎		
729	环身	口径(12.1) 残高 2.0	たちあがりは低く内傾した後、直立 する。端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
730	环身	残高 2.0	たちあがりは欠損。受部は水平にの びる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1~3) ◎		
731	高杯	底径(12.4) 残高 4.0	大きく外反する脚部。脚端部はわず かにはね上がる。	回転ナデ	回転ナデ	★灰色 青灰色	石・長(1~3) ◎		
732	壺	口径(6.6) 残高 10.8	長頸壺。頸部に竹管文あり。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	青 ◎		18
733	壺	残高 6.3	扁球形の胴部。沈線文1条あり。	④回転ナデ ⑤回転ナデ(1/3) ⑥カキメ	回転ナデ	灰茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
734	壺	口径(13.2) 残高 5.7	頸部は外傾し口縁部は外反する。 口縁部は玉筋状。	②回転ナデ ③カキメ ④回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
735	甌	残高 10.8	張りの強い頭部から、外折ぎみに立 ち上がる頭部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
736	甌	残高 7.0	大きく外反する口頸部。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1) ◎		

表50 第III層 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
737	剥片		サヌカイト	8.80	3.70	0.80	29.30		18
738	スクレイパー	完形	サヌカイト	5.80	7.40	0.70	32.34		18
739	スクレイパー	完形	サヌカイト	6.40	4.10	0.90	36.90		18

写 真 図 版

写真図版例言

1. 遺構は、主な検出状況、遺物出土状況、完掘状況については、 4×5 判や 6×7 判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、 35mm 判で補足している。撮影には高所作業車や脚立を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギヨロン90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューF M 2		ズームニッコール28~85mm他
フィルム	白黒 プラスXパン・ネオパンSS		
カラー	エクタクロームE P P		

2. 白黒写真は、等倍で印刷原稿に使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引伸器	ラッキー450MD・90M S
レンズ	エル・ニッコール135mm F 5.6 A・50mm F 2.8 N
印画紙	インフォードマルチグレートIVRC

【参考】『埋文写真研究』 VOI. 1~12

〔大西朋子〕



1. 遺構検出状況（東より）



1. SD1検出状況（東より）



2. SD1遺物出土状況(1)（南東より）



1. SD1遺物出土状況(2) (北より)



2. SD1遺物出土状況(3) (北より)



1. SD1ベルト土層(1) (北西より)



2. SD1ベルト土層(2) (北より)



1. SD1ベルト土層(3)（北東より）



2. SD1完掘状況（北より）



1. SD2検出状況（東より）



2. SD2遺物出土状況（西より）



1. SD2ベルト土層(1) (南西より)



2. SD2ベルト土層(2) (南東より)



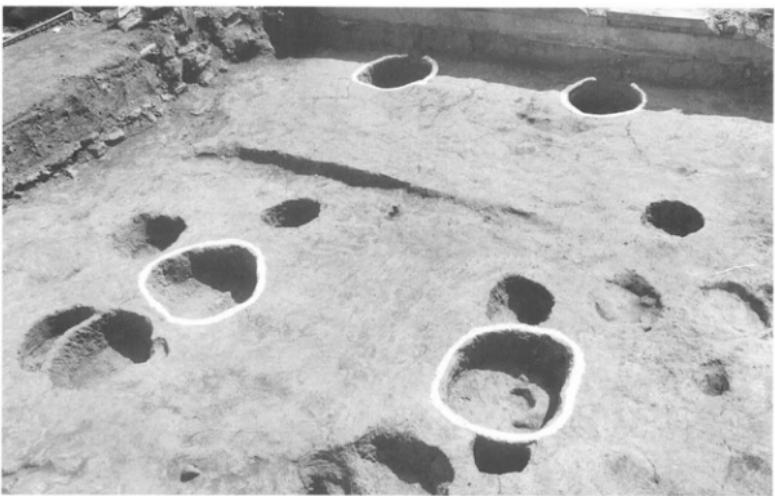
1. SD2ベルト土層(3) (北より)



2. SD2完掘状況 (北西より)



1. SK完掘状況(3)(北より)



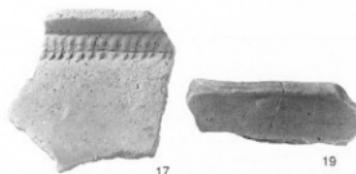
2. 挖立2完掘状況(西より)



1. 遺構発掘状況（東より）



20



17

19



18



31



22



11



45



36



34

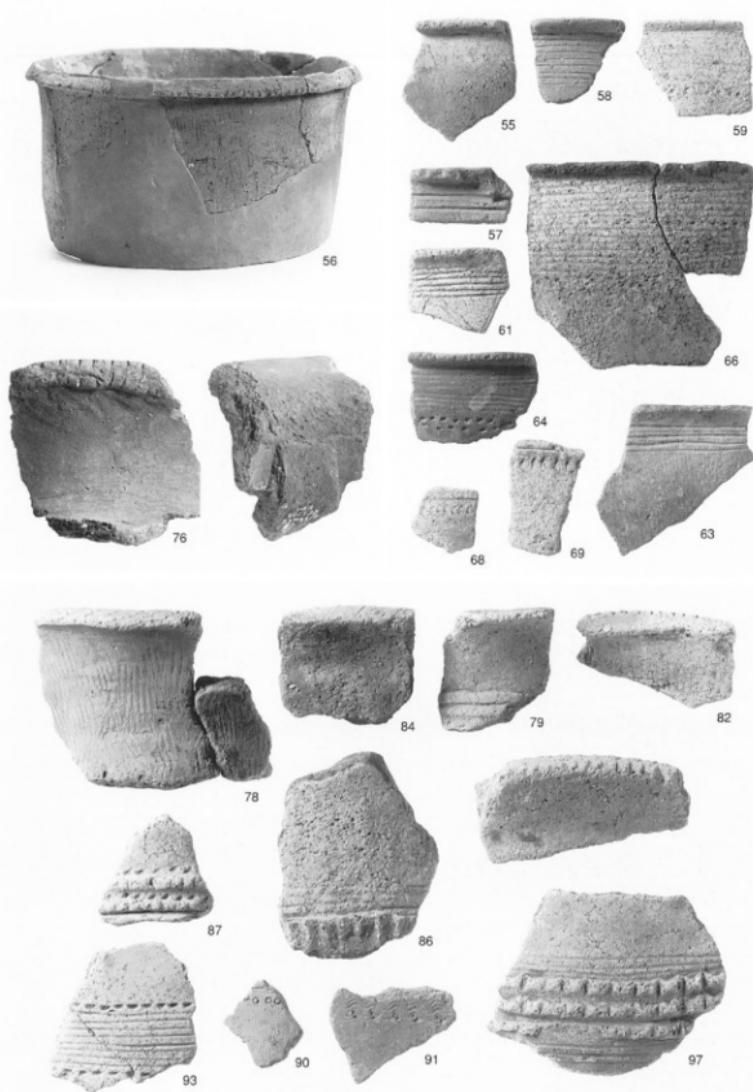


37



38

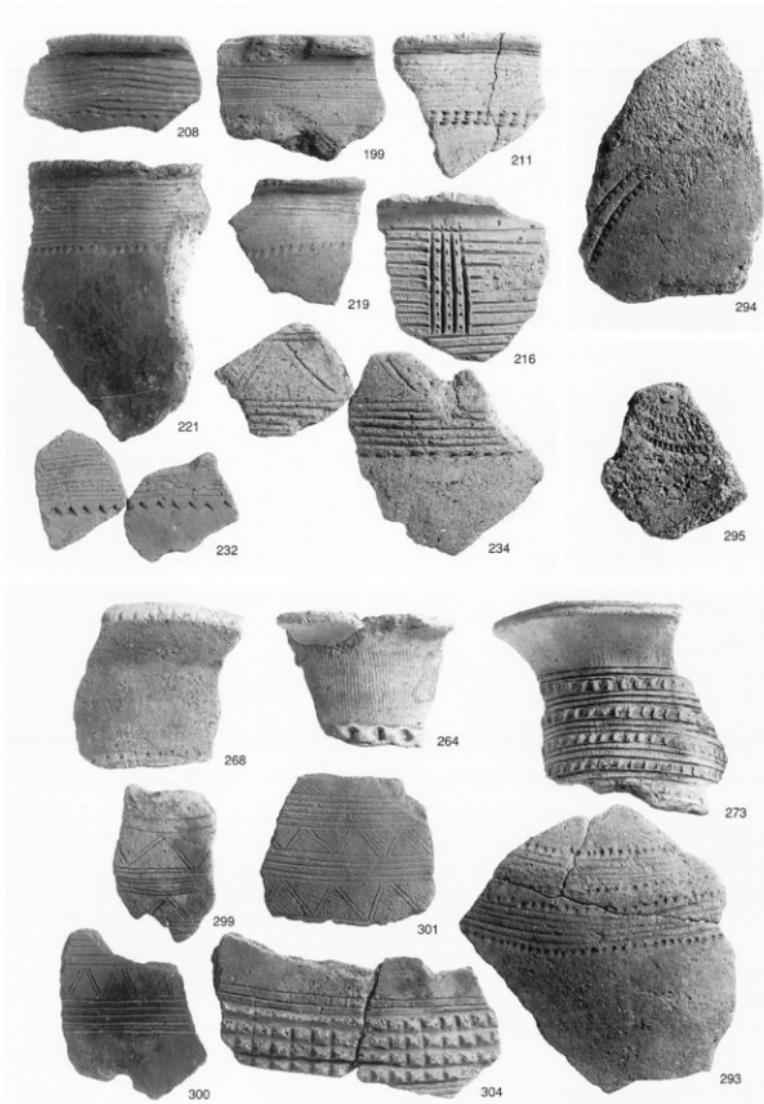
1. SD1①層出土遺物



1. SD1②層出土遺物



1. SD1③層出土遺物



1. SD1(4)層出土遺物



347



355



377

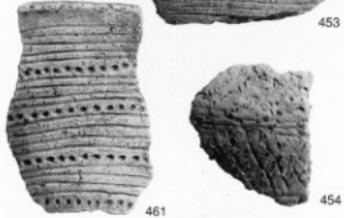


360



401

1. SD1⑤層出土遺物



1. SD1⑤・⑦層出土遺物



607

587

546

622

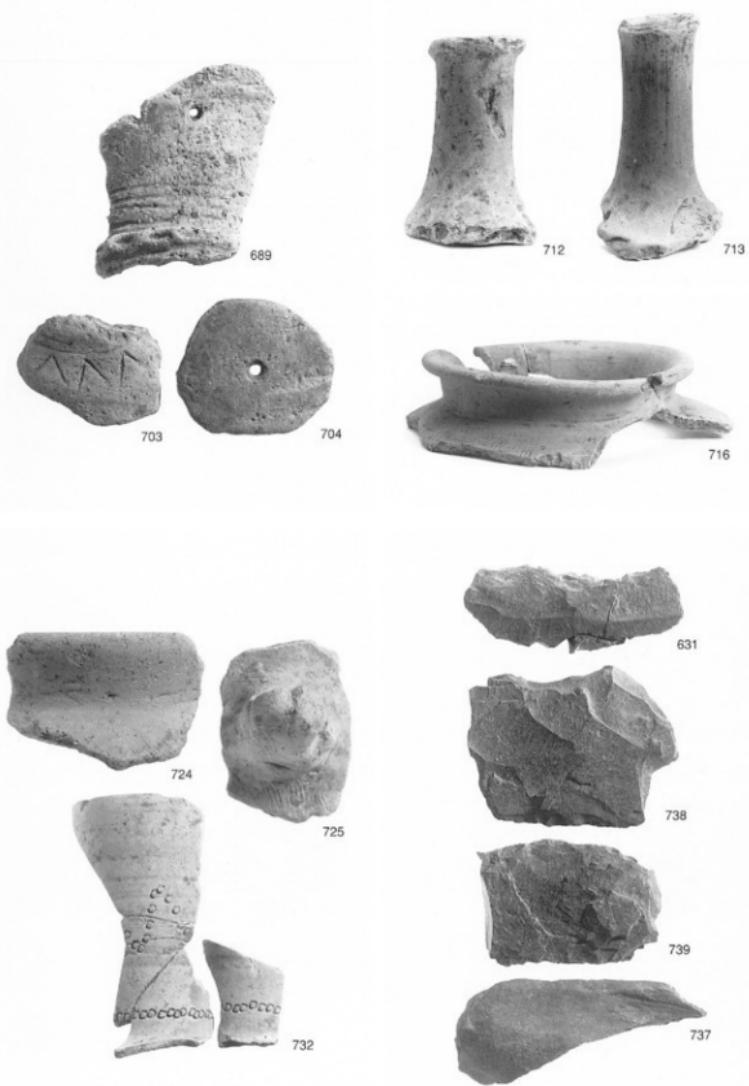


613



620

1. SD2①・②・④層出土遺物 (①層: 546、②層: 587、607、613、④層: 620)



1. 第IV層(689、703、704) SX1(712、713、716) 第III層(724、725、732、737、738、739) SD2(631) 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	くめたかばたけ いせき							
書名	久米高畠遺跡							
副書名	25次調査							
卷次								
シリーズ名	松山市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第93集							
編著者名	高尾和長・宮内慎一・大西朋子							
編集機関	松山市教育委員会・財団法人 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター							
所在地	市教委: 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL (089) 948-6605 堀文: 〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6 TEL (089) 923-6363							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 。 。 "	東経 。 。 "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
くめたかばたけ 久米高畠	まつやましみのみくめち 松山市南久米町	38201	33° 48' 30"	132° 48' 15"	19950717 19950831	843.28	官衙関連 造構確認 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
久米高畠 25次	集落	弥生	溝・上杭		弥生土器・石器	弥生時代前期末から中期初頭の環壕2本。壺に貝殻による弧文。		
		古墳 古代	性格不明遺構		土師器・須恵器・管玉・鉄器			

松山市文化財調査報告書 第93集

久米高畠遺跡 -25次調査-

平成15年3月31日 発行

編集 松山市教育委員会
発行 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1
TEL (089) 948-6605

財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

印刷 不二印刷株式会社
〒790-0054 松山市空港通2丁目13番3号
TEL (089) 973-1266

